

FLTナンバー: ELTb42-E, ARTa42-E

授業テーマ: As You Like It (『お気に召すまま』上演)

授業の概要: このクラスでは3年次の Shakespeare Production I, II で学んだシェイクスピアの戯曲 As You Like It (『お気に召すまま』) を舞台上演する。

到達目標: 1. 実際の舞台上演を通して、シェイクスピアの戯曲をより深く理解する。 2. 舞台制作にかかわる共同作業を通して、リーダーシップや仲間を思いやる力を養う。

授業方法: 通年を通して、舞台制作活動を行う。全体ミーティングとパートごとの作業の2本立てで進めていく。担当教員はあくまでアドバイザー的役割であり、参加学生が主体的に取り組んでいく。特に秋学期は上演本番までは、授業時間外の長時間の活動が必須となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期 火曜日:オリエンテーション、スタッフの役割説明、キャストオーディションの説明 金曜日:アシスタント・ディレクター決定	授業後、各自、希望の役を決定し、必要な書類の提出を行う。
2.	火曜日:オーディションのための事前打ち合わせ(個人面談含む) 金曜日:オーディション	
3.	火曜日:オーディション(予備日) 金曜日:キャスト発表、スタッフ(コミッティ、音響・照明・大道具、衣装・小道具・メイクアップ、字幕)決定	役割決定後、各自の取り組み内容を理解し、必要な準備を進めていくこと。
4.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業(これ以降、全体ミーティングはSPルームで行う。キャスト、スタッフの作業はそれぞれの必要に応じて、学内の諸施設で行う。特にキャストは、授業時間外で身体訓練を行う。)	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
5.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
6.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
7.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
8.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
9.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
10.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
11.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
12.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
13.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	

14.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
15.	火曜日:各パートの研究発表(スタッフ) 金曜日:各パートの研究発表(キャスト)	発表後、各パートでフィードバックを行い、秋学期の活動へ向けての準備始めること。
16.	秋学期 火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備(シラバスの便宜上授業回数を週2回としているが、実際には週平均5回の活動となる) 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
17.	火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
18.	火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
19.	火曜日:第1ドレス・リハーサルの予行演習 金曜日:第1ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
20.	火曜日:第1ドレス・リハーサルのフィードバック、及び第2ドレス・リハーサルの準備 金曜日:第2ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
21.	火曜日:第2ドレス・リハーサルのフィードバック、及び本番の準備 金曜日:本番1日目 土曜日:本番2日目	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
22.	火曜日:反省会 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成(並行して個人レポートも作成)	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
23.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
24.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
25.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
26.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
27.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
28.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
29.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
30.	火曜日:SPルームの整頓 金曜日:SPルームの整頓	

受講者へのメッセージやアドバイス: 舞台上演を行うに当たっては、参加者一人一人の積極的な取り組み、仲間との連帯が何よりも大切である。授業時間外の作業が多く(特に秋学期の上演までの期間)、体力と気力が大いに必要とされるので、覚悟の上、臨んでほしい。

フィードバックの方法: 春学期の成果発表、秋学期の本番の舞台上演へ向けての作業に対しては、担当教員が適宜、コメント、アドバイスをしていく。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み姿勢	30%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
	春学期の成果発表	20%	春学期の取り組みの成果を評価する。
	本番での発表	40%	本番までの取り組みの成果を評価する。
	レポート、資料作成	10%	授業内容の総括ができているかを評価する。

教科書: ハンドアウト(上演用台本)を用意する。

参考文献等： 授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡
方法： e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp
tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 第二言語としての文法能力の役割とliteracy (reading & writing) について研究論文を書くことを通して、研究する。

授業の概要: この授業では、第二言語習得における文法能力の役割とliteracyの関係、また文法能力とreading とwritingの関係について、理解し、実際に実験を試み、論文を書く過程を通して研究する。文法はreadingやwritingと関係があるとされているが、具体的にどのような関係しているかが不明確である。授業では、最も基本的なテーマについて教師の説明を聞きながら、各自が論文を読み、それぞれの内容について理解し、議論した上で、独自のresearch questionを作る。次に、扱ったテーマの中から各自が興味あるテーマを見つけ、研究に発展させることが第二の目標である。前半は、主な文献を購読し、実際に調査を行い、その調査についてまとめていくことが中心となる。後半は、実際に実験を行い、研究論文にまとめる。

到達目標: (1) 文法能力とliteracyに関する文献を批判的に読むことができる。(2) 文献講読や議論を通して、独自のresearch questionを作る。(3) research questionに基づいて、実験計画を立て、実際に実験を試みることができる。(4) 実験結果をまとめ、発表することができる。(4) 論文の形式で実験結果をまとめ、議論することができる。

授業方法: 授業で扱うテーマは以下のものがある。ただし、そのテーマを全て扱うのではなく、受講者の希望が優先される。受講者が勉強したいテーマが選ばれる。毎回の授業は、それぞれのテーマに関する論文を読み、問題点やその論文の示唆することを議論する。そのような議論から、research questionを作るようにする。後半は、research questionに基づいた実験の結果について報告し、議論し、それを論文の形式にまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体の授業内容の紹介と心構え	授業内容についてシラバスを読み、理解した上で授業に臨む。
2.	文法と文法能力の関係について研究論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
3.	文法能力とメタ言語能力関係について論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
4.	文法能力とメタ言語能力関係について論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
5.	バイリンガルの文法能力とメタ言語知識についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
6.	バイリンガルの文法能力とメタ言語知識についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
7.	発話と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
8.	発話と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
9.	理解と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
10.	理解と文法の関係についての論文を読み、議論する。。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
11.	読解と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
12.	Writingと文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
13.	先行研究のまとめ及びresearch questionについて議論する。	先行研究をまとめた上で、research questionを作る。
14.	改訂されたresearch questionと研究方法について議論する。	授業で議論したことを活かし、research question を改訂し、研究方法を確立する。
15.	Research question、研究方法を確立し、予備実験を行い、その経過について報告し、方法について議論する。	改訂されたresearch quetionと研究方法を基に予備実験を行う。
16.	研究方法について深める。改訂された質問紙について議論する。	一度使った質問紙について振り返り、改訂する。
17.	結果の分析方法について学ぶ。実験計画における統計学の利用に関して理解する。	結果の分析方法についてまとめ、実験計画を作る。
18.	実際に行った実験について報告する。	実際に実験を行う。
19.	実験結果について信頼性、妥当性の観点から議論する。	実験結果について整理する。
20.	SPSSを使ってまとめた結果を議論する。	実験結果をまとめる。SPSSを使って、統計分析を行う。
21.	Resultの内容について議論する。	Resultのまとめを完成させる。
22.	Resultの内容について議論する。先行研究の結果と照らし合わせる。	議論したResultの内容に関して再度分析を行う。
23.	Resultの内容について議論する。	再度議論したResultの内容に関して、別の観点からまとめる。
24.	Resultの内容について議論する。先行研究の結果と照らし合わせる。	Resultの内容に関して、先行研究と比較しまとめる。
25.	Resultとして書いたものを議論する。	Resultの内容について考え、まとめる。
26.	書かれたDiscussionの内容について議論する。	Discussionの書き方について理解し、Discussionの部分を書く。

- | | | |
|-----|---|--------------------------------|
| 27. | Discussionの内容について議論する。先行研究と照らし合わせる。 | 再度、Discussionの内容について改訂する。 |
| 28. | Discussionとしてまとめたものについて議論する。研究の結果の意義について議論する。 | 先行研究を参考にした上で、Discussionを完成させる。 |
| 29. | Conclusionとして書いたものについて議論する。 | Conclusionをまとめる。 |
| 30. | 論文の形式にして提出する。最終的なチェックを行う。 | 論文として全体をまとめる。 |

受講者へのメッセージやアドバイス: この研究では、文献研究から始めて、実際に論文を書き終えるまでの過程に焦点を当てて、授業を展開します。一つひとつの作業を通して、論文を完成させる過程が楽しめます。

フィードバックの方法: 毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。論文作成過程に関しては、授業中に提出された論文等について口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出された論文にコメントを加えて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の文献レポート	30	到達目標(1)に関して、毎回の文献レポートを内容面と議論の深さから評価する。
	research questionと実験計画の作成	20	到達目標(2),(3)に関して、research questionと実験計画を独自性、内容の深さから評価する。
	実験結果のまとめ	20	到達目標(3)に関して、実験のまとめを内容面と分かり易さの観点から評価する。
	論文	30	到達目標(4)に関して、提出された論文を独自性、英語、論理性の観点から評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: E-mail, マナビー

FLTナンバー:

授業テーマ: R.Browning研究

授業の概要: 19世紀ヴィクトリア朝の大詩人、ロバート・ブラウニングの詩を読み、作品の魅力を味わい、詩人の思想を理解する。

到達目標: ロバート・ブラウニングの作品からなるべく多くを取り上げて読む。難解な彼の長詩に挑むことにより英語読解力を強化し、彼の思想、特にその強靱な物の考え方の面白さに迫る。

授業方法: 演習形式。作品および参考文献の訳読、質疑応答、担当者による補足説明の形で授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 初期の詩より “Porphiria”	予習し内容理解を確認する。自分の考えをまとめ、課題提出に備える。
	3. Bells and Pomegranatesより “My Last Duchess”	同上
	4. Men and womenより “Evelyn Hope”	同上
	5. Men and Womenより “Up at Villa — Down in the City”	同上
	6. Men and Womenより “Fralippo Lippi”	同上
	7. 同上	同上
	8. Men and Women より “Child Roland to the Dark Tower Came”	同上
	9. 同上	同上
	10. Men and Womenより “The Statue and the Bust”	同上
	11. 同上	同上
	12. Men and Womenより “The Last Ride Together”	同上
	13. 同上	同上
	14. Robert Browningの7魅力 読んだ作品を振り返り、そこから見えてくる詩人の特色をまとめる	クラスで読んだ作品について不備な点を補い、内容を見直し考えをまとめる
	15. 同上	同上
	16. Men and Womenより “Andrea del Sarto”	予習し、ないよう理解を確認する。自分の考えをまとめ、課題提出に備える。
	17. 同上	同上
	18. Men and women より “Two in the Campagna”	同上
	19. 同上	同上
	20. Men and Womenより “Love in a Life ” “Life in a Love”	同上
	21. 同上	同上
	22. 妻E. B. Browningの夫に宛てた愛のソネット	同上
	23. 同上	同上
	24. 同上	同上
	25. Dramatic Personaeより “Rabbi Ben Ezra”	同上
	26. 同上	同上
	27. 同上	同上
	28. Dramatic Personaeより “Prospice”	同上
	29. Robert Browningの老年観 ブラウニングの作品から「老い」を考える	クラスで読んだ作品について不備を補い、内容を見直し考えをまとめる。
	30. 同上	同上

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: レポートは添削して返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題	100 %	春学期末と秋学期末に課題を提出させ、その内容により評価する

教科書: R. Cronin & D. Mcmillan ed., 21st-Century Oxford Authors Robert Browning (Oxford Univ. Press)

参考文献等: クラスで指示する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法: オフィスアワー Eメール: ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ:Thomas Hardyの小説研究

授業の概要:19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840–1928)の6大作の一つThe Return of the Native (1878)を精読することによって、小説の高度な研究方法の習得を目指す。
(1) The Return of the Native (1878)の研究方法(講義)
(2) 作品の精読と分析
(3) 作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標:

アカデミックな小説研究の方法を習得し、あわせて作品の読み方を学んでいく。

授業方法:

基本的には講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
2.	講義: The Return of the Nativeの研究方法(1)	質問を準備しておく。
3.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
4.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
5.	講義: The Return of the Nativeの研究方法(2)	質問を準備しておく。
6.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
7.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
8.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
9.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
10.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
11.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
12.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
13.	発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
14.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
15.	学期末の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
16.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
17.	講義: The Return of the Nativeの研究方法(3)	質問を準備しておく。
18.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
19.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
20.	発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
21.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
22.	レポートについて	質問を準備しておく。
23.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
24.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
25.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
26.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
27.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
28.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
29.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
30.	おわりに	質問を準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

ハーディの中期の傑作The Return of the Nativeは、有名なエグドン・ヒースの描写で第1章が始まります。ハーディは気合いを入れて書いていますが、その気合いが気負いになっている部分が多々見うけられます。しかし、それでも名作の名に恥じないのは、小説全体の構成力と人物の立体的な造形美にあります。「ハーディが書くことこんなに芸術的になります」の見本のよ

フィードバックの方法:

レポートは採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
	発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
	授業への積極的参加度	25%	準備学習への意欲によって評価する。

教科書:

Thomas Hardy, The Return of the Native (1878) (Norton Edition)

参考文献等:

授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールやマナビーの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:In this class, students will learn about areas of communication of their choice and do research on those areas. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below is an example.)

到達目標:The purpose of the course is for students to further develop their knowledge of communication theory and its application.

授業方法:Students will read papers and chapters from books and will discuss them in class. They will choose an area of interest and write a research paper on it.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Communication	none
	2. Interpersonal Communication 1	Read materials and answer questions.
	3. Interpersonal Communication 2	Read materials and answer questions.
	4. Interpersonal Communication 3	Read materials and answer questions.
	5. Interpersonal Communication 4	Read materials and answer questions.
	6. Interpersonal Communication 5	Read materials and answer questions.
	7. Interpersonal Communication 6	Read materials and answer questions.
	8. Interpersonal Communication 7	Read materials and answer questions.
	9. Interpersonal Communication 8	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	10. Interpersonal Communication 9	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	11. Interpersonal Communication 10	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	12. Interpersonal Communication 11	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	13. Interpersonal Communication 12	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	14. Interpersonal Communication 13	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	15. Interpersonal Communication 14	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	16. Intercultural Communication 1	Read materials and answer questions.
	17. Intercultural Communication 2	Read materials and answer questions.
	18. Intercultural Communication 3	Read materials and answer questions.
	19. Intercultural Communication 4	Read materials and answer questions.
	20. Intercultural Communication 5	Read materials and answer questions.
	21. Intercultural Communication 6	Read materials and answer questions.
	22. Intercultural Communication 7	Read materials and answer questions.
	23. Intercultural Communication 8	Read materials and answer questions.
	24. Intercultural Communication 9	Read materials and answer questions.
	25. Intercultural Communication 10	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	26. Intercultural Communication 11	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	27. Intercultural Communication 12	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	28. Intercultural Communication 13	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	29. Intercultural Communication 14	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	30. Intercultural Communication 15	Read materials and answer questions. Work on research paper.

受講者へのメッセージやアドバイス:Topics may vary.

フィードバックの方法:Discussion with student about materials and research paper

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and class participation	40%	Participating in class; number of classes missed
	Research papers	60%	Design of research, application of statistics, conclusion

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡
方法:

kkitao217@yahoo.com

FLTナンバー:

授業テーマ: Learner styles and learner strategies: Exploring the Best-Fit Strategies for learning and using English as a global lingua franca

授業の概要: このコースでは、外国語学習者方略 (Learner Strategy=LS) についての最新の研究を概観しながら日本のようなEFL環境下で外国語として英語をどのように学ぶべきなのかそのアプローチについて、Strategyをキーワードに議論します。

到達目標: 最終的には、
(1) 学習者の特徴に応じた最適の方略 (Best-Fit Strategy) を学習者に発見させる方法について理解が深まる、
(2) 教える側すなわちTeaching Strategyにも議論を拡げ、また現在の第二言語習得研究 (Second Language Acquisition Research) の知見にも依拠しながらEFL環境における英語教育のあり方について理解が深まる、

授業方法: 授業計画のテーマに沿い、授業を進めます。ディスカッションベースの自ら考え・意見交流ができるような形をとります。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められます。できる限り、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Section 1. Best-Fit Strategyを発見させる方法論としてのStrategying (ストラテジー・トレーニング) LS研究の現在:定義の問題 (1)	授業に対する期待を考える
2.	LS研究の現在:定義の問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
3.	LS研究の現在:定義の問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
4.	LS研究の現在:分類の問題 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
5.	LS研究の現在:分類の問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
6.	LS研究の現在:分類の問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
7.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
8.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
9.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
10.	自己調整学習とLS研究 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
11.	自己調整学習とLS研究 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
12.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
13.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
14.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
15.	自己最適化方略 (Best-Fit Strategy) の発見 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
16.	自己最適化方略 (Best-Fit Strategy) の発見 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
17.	Section 2. 第二言語習得理論 (SLA)の知見、語彙の習得方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
18.	語彙の習得方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
19.	語彙の習得方略 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
20.	語彙の習得方略 (4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
21.	読解方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
22.	読解方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
23.	コミュニケーションストラテジー (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
24.	コミュニケーションストラテジー (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
25.	発音能力向上の方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
26.	発音能力向上の方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
27.	Section 3. EFL環境における英語教育、音読とストラテジー (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
28.	音読とストラテジー (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
29.	インプット、アウトプット、インターラクシオン、ストラテジー	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
30.	まとめ	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス: 全体を通して、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。

フィードバックの方法: プレゼンテーションについては評価を事後にManaba等で提示します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中のディスカッション態度	40	到達目標(1)～(2)に関する知識により評価する
	ファイナルペーパー	60	到達目標(1)～(2)に関する知識により評価する

教科書: 同志社女子大学英語英文学会. (2017). English playbook. 京都: Author.
ハンドアウトを配布します。

参考文献等: 授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

FLTナンバー:

授業テーマ:

卒業論文作成に向けて

授業の概要:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集・調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。春学期は概要を含む演習形式、秋学期は個人発表ならびに論文執筆が主となる。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を研究発表するのみならず、授業担当教員の指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標:

卒業論文完成に向けて、各自のペースでスケジュールを考える。それに従って資料の収集・調査を行い、その結果を逐次口頭発表し、質疑応答を通してよりよい論文の制作をめざす。論文執筆にあたっては、書式の修得や論理的な展開・構成に留意しつつ、各自のオリジナリティーを明確に打ち出していく。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。
2. 個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。
3. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。
4. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。
5. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。
6. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。
7. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。
8. 個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。
9. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。
10. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。
11. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。
12. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。
13. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。
14. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。
15. 夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。
16. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。
17. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。
18. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。
19. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。
20. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。
21. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。
22. 以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく
23. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく
24. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく
25. 卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。
26. 論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する
27. 提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。
28. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。
29. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。
30. 卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

悔いのないよう全力で取り組んでほしい。

フィードバックの方法:

個人発表に際して意見を述べる。論文の草稿に朱を入れる。論文集作成に向けて全体の書式などを統一させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

特になし

参考文献等:

特になし

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

研究室での対応、連絡メールによるやりとり。

FLTナンバー:				
授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業である。			
授業の概要:	開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。			
到達目標:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。			
授業方法:	春学期には中間発表を各自一回する。 秋学期には夏休み中に書き上げた論文の下書きにもとづき、個別に指導する。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容		
	1. 全体での打ち合わせ(春学期)	なし		
	2. 論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備		
	3. 論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備		
	4. 論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備		
	5. 論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備		
	6. 論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備		
	7. 学生による中間発表	発表の準備		
	8. 学生による中間発表	発表の準備		
	9. 学生による中間発表	発表の準備		
	10. 学生による中間発表	発表の準備		
	11. 学生による中間発表	発表の準備		
	12. 学生による中間発表	発表の準備		
	13. 学生による中間発表	発表の準備		
	14. 学生による中間発表	発表の準備		
	15. 今後に向けて	なし		
	16. 全体での打ち合わせ(秋学期)	なし		
	17. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	18. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	19. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	20. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	21. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	22. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	23. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	24. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	25. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	26. 論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き		
	27. ふりかえり	なし		
	28. ふりかえり	なし		
	29. ふりかえり	なし		
	30. ふりかえり	なし		
	受講者へのメッセージやアドバイス:			
	フィードバックの方法:	面談		
	「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
卒業論文		70	卒業論文の完成度。	
中間発表		15	中間発表が適切になされたかどうか。	
推敲		15	努力を惜しまず論文を練り直したかどうか。	
教科書:				
参考文献等:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力			
教員との連絡方法:	Eメール			

FLTナンバー:

授業テーマ:

卒業論文作成に取り組む。

授業の概要:

講義に加え個別指導にもとづいて各人の問題意識に基づいた卒業論文を作成する。

到達目標:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

授業方法:

講義・個別指導など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス・グループ分け	
2.	文学研究の方法(応用)	
3.	個別面談1	卒論の対象を明確にしておく
4.	個別面談2	卒論の対象を明確にしておく
5.	個別面談3	卒論の対象を明確にしておく
6.	個別指導1	卒論で解明したい謎を明確にしておく
7.	個別指導2	卒論で解明したい謎を明確にしておく
8.	個別指導3	卒論で解明したい謎を明確にしておく
9.	グループ内での中間発表1	
10.	グループ内での中間発表2	
11.	個別指導4	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
12.	個別指導5	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
13.	個別指導6	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
14.	グループ内での中間発表3	
15.	グループ内での中間発表4	9月下旬～10月初旬に卒論合宿を行う
16.	論文の書式・文体	
17.	個別指導7	
18.	個別指導8	
19.	個別指導9	
20.	個別指導10	
21.	個別指導11	
22.	論文相互添削1	各人が原稿を印刷して持参しグループ内で相互添削する
23.	論文相互添削2	各人が原稿を印刷して持参しグループ内で相互添削する
24.	個別指導12	11月中旬にプレ論文をマナビーで提出する
25.	個別指導13	
26.	個別指導14	
27.	振り返り	
28.	振り返り	
29.	振り返り	
30.	振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

フィードバックの方法:

個別指導の中でコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	受講態度	30	受講の態度(出席状況を含む)や積極性を総合的に考慮して評価する。
	ディスカッション	30	ディスカッションでの貢献度を総合的に考慮して評価する。
	中間発表	40	中間発表の完成度を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒論を書こう

授業の概要: 論文の書き方、作り方の指導

到達目標: 指定日までに卒論を提出する。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	既提出のレポートを読んてくる。
	2. 論文の書き方指導1	問題点の改善1
	3. 論文の書き方指導2	問題点の改善2
	4. 章立ての意味指導1	用例検索
	5. 文章の書き方	第1章を書てくる。
	6. 章立ての2章の書き方	第2章を書てくる。
	7. 章立ての3章の書き方	第3章を書てくる。
	8. 章立ての4章(結論)の書き方1	結論の考察をしてくる。
	9. 章立ての4章(結論)の書き方2	ディバートの資料作成
	10. ディバート	ディバートの資料作成
	11. ディバート	ディバートの資料作成
	12. ディバート	ディバートの資料作成
	13. まとめ1 5名の論文検討	5名は準備してくる。
	14. まとめ2 5名の論文検討	5名は準備してくる。
	15. まとめ3 5名の論文検討	5名は準備してくる。
	16. 指名者3名の検討1	指名者は準備してくる。
	17. 指名者3名の検討2	指名者は準備してくる。
	18. 指名者3名の検討3	指名者は準備してくる。
	19. 指名者3名の検討4	指名者は準備してくる。
	20. 指名者3名の検討5	指名者は準備してくる。
	21. 指摘を受けた者の再検討1	指摘を受けた者は論文準備
	22. 指摘を受けた者の再検討2	指摘を受けた者は論文準備
	23. 指摘を受けた者の再検討3	指摘を受けた者は論文準備
	24. 論文の最終検討1	5名が論文を提出
	25. 論文の最終検討2	5名が論文を提出
	26. 論文の最終検討3	5名が論文を提出
	27. 反省会1	資料準備
	28. 反省会2	資料準備
	29. 反省会3	資料準備
	30. 反省会4	資料準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学最後の卒論を提出する。思い出になるものを書こう。

フィードバックの方法: 授業中に論文を返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	論文の内容	80	指導を受け止めてしっかり対応しているか。 文章が短く、意味が通るように書いているか。
	出席	20	出席しているか

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メールによる

FLTナンバー:			
授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業である		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。		
到達目標:	①卒業論文作成のために必要な知識を集める(知識・理解) ②卒業論文作成のために論理的に考え、解決の方法を工夫し、主体的に取り組む(関心・意欲・態度) ③問題の設定、問題解決の方法、収集した情報の整理、推論の過程、その結果得られた結論を明快にわかりやすく論述し、卒業論文を完成させる。(表現・技能・能力)		
授業方法:	演習方式で行う。各自が事前に用意した進捗報告やデータをもとにディスカッションをし、対話を通して次の問題点を見つけ、解決策とともに考える。データがまとまり、文章としての執筆に入る際に合宿を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス	特になし
	2.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	3.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	4.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	5.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	6.	発表の総括と合評会	特になし
	7.	第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	8.	第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	9.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	10.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	11.	進捗発表	特になし
	12.	進捗発表	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	13.	中間発表会準備	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	14.	中間発表会	パワーポイントによるプレゼンテーションを準備すること。
	15.	夏休みに向けての計画	夏休みの計画を具体的に書いてくること。
	16.	夏休み進捗発表会	夏休みの成果を第一次草稿としてまとめてくること。
	17.	卒論作成に向けて	卒論執筆についての基礎的事項の確認と今後の計画立案
	18.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	19.	進捗発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。
	20.	進捗発表	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	21.	進捗発表	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。
	22.	中間発表会	第二稿を提出する。
	23.	進捗発表	草稿
	24.	論文執筆について	作成過程の草稿
	25.	個別指導期間	各自論文執筆を進める
	26.	個別指導期間	各自論文執筆を進める
	27.	卒業論文反省会	特になし
	28.	卒業論文反省会	特になし
	29.	卒業論文合評会	特になし
	30.	卒業論文合評会	特になし
受講者へのメッセージやアドバイス:	指示を待つのではなく問題解決に向けて主体的にとりくむこと。		
フィードバックの方法:	Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	80%	学科が定める論文の必要要件を満たしている。自ら設定した課題に対する探求の過程とそこから導かれた考察の結果をわかりやすく説得力のある文章を用いて論述できている。
	中間報告	20%	定められた中間報告の機会において、教員の指示を待つのではなく自らの課題の解決に向けて主体的に考え、その過程とその時点での問題点を資料にまとめた上で口頭で報告し、他の受講者や教員とのディスカッションを通して自らの研究にフィードバックすることができる。(担当日に報告ができない場合は、必ず事前連絡を行い、日程を変更して規定の報告を行うこと。)

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	Eメールまたはマナビーによる(アドレスは授業時に開示する)

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業である。

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。

到達目標: 論文作成を通じて、客観的・科学的なデータ収集・整理・分析の力、論理的な考察の力、分かり易く明確に表現する力をつける。長期的な目標に向かって自己管理する力をつける。

授業方法: 学生の発表、議論と個別指導を中心とする。授業外にも随時指導を受けることができる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	今後の授業方針の打合せ	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
2.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
3.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
4.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
5.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
6.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
7.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
8.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
9.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
10.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
11.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
12.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
13.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
14.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
15.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
16.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
17.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
18.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
19.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
20.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
21.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
22.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
23.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
24.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
25.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
26.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
27.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
28.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
29.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
30.	総まとめ	なし

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文作成努力	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

マナビーから、あるいは、研究室などでの面談による。

FLTナンバー:

授業テーマ:	卒業論文作成に向けての取り組み
授業の概要:	各自で研究テーマを設定し、資料を収集・調査した上で十分な考察を加え、卒業研究を行う。
到達目標:	卒業論文を作成すること
授業方法:	前半3回は教師が講義を行う。その後は、個人指導とする。ただし、全員が出席するクラス授業として、夏休みの前後2回、中間発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 1	レジメを読んでおく。
2.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 2	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。
3.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 3	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。
4.	個人指導 1	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
5.	個人指導 2	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
6.	個人指導 3	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
7.	中間発表 1	中間発表1の準備をする。
8.	中間発表 2	中間発表2の準備をする。
9.	個人指導 4	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
10.	個人指導 5	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
11.	個人指導 6	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
12.	個人指導 7	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
13.	個人指導 8	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
14.	個人指導 9	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
15.	個人指導 10	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
16.	中間発表 3	中間発表3の準備をする。
17.	個人指導 11	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
18.	個人指導 12	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
19.	個人指導 13	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
20.	個人指導 14	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
21.	個人指導 15	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
22.	個人指導 16	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
23.	個人指導 17	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
24.	個人指導 18	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
25.	個人指導 19	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
26.	個人指導 20	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
27.	個人指導 21	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
28.	個人指導 22	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
29.	振り返り 1	卒業研究の過程を成果を内省する。
30.	振り返り 2	卒業研究の過程を成果を内省する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究は、4年間の学業の華である。自分自身が大学でどういうことに興味を持ち、それをどう学んだか、その学びの成果を自分自身でどう組み立てたかが問われる。そのことを、十二分に心得ること。そういう意味で卒業研究の具体的な成果である卒業論文は自分で自分に課す課題で、自分で評価すべきものがある。言われたから出すようなものではない。まして、ちょっと長めのレポートなどではないし出せば通るというものでもない。

フィードバックの方法:

個人指導を通して、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究態度	100%	以下の3点を等分に評価する。 ①研究動機追及の真摯さ 他からの受け売りや思い付きなどではなく、いかに自らの問題意識に突き動かされてそのテーマを研究しようと思ったか。

②研究遂行における自己管理

研究を遂行するために、いかに予定を立て実行したか。また、予定通り実行できなかったときに、いかに軌道修正をしたか。

③授業態度

中間発表内容及び個人指導から見て、いかに自分の課題として卒業研究に取り組んでいるか。

注 個人指導が5回に満たない者は不合格とする。

教科書： マナビーで指示する。

参考文献等： 都度、指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法： 以下のアドレを使用すること。
kmaruyam@dw.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成します。
開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を教員に報告し、指導を受けることを要します。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこと。

到達目標: 自らが設定した問題について追究し、自らの考えを構築し発信する作業である主体的学習活動を通じ、以下の能力や態度を養うことを到達目標とします。
①自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。
②論理的に思考し、その結果を適正な日本語を用いて分かりやすく伝えることができる。
③異なる文化・言語を背景に持つ人の視点等、多角的な視点から日本語・日本文化に迫り、理解を深めると同時に、異文化への柔軟な態度や社会貢献の姿勢をもはぐくむ。
④自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を培う。
⑤生涯にわたって学び、真理探求することで今後の自己形成につなげていくことができる態度を培う。

授業方法: 講義のほか、卒業研究に関する発表および討論・助言、個別の執筆指導などの方法で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、進捗状況の報告	3年次末に完成させた研究計画書、および、春休み中に進めた研究内容のまとめを報告・提出できる準備をしておく。
2. 卒業論文の構成、文章作法	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。
3. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。 序論や調査の概要(研究方法)を書き進める。
4. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。
5. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。
6. 発表	各自研究を進める。
7. 発表	各自研究を進める。
8. 発表	各自研究を進める。
9. 発表	各自研究を進める。
10. 発表	各自研究を進める。
11. まとめ	各自研究を進める。
12. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。
13. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。
14. 先行研究の章を書く。	各自研究を進める。
15. 序論、調査の概要(研究方法)、先行研究の各章の下書きを完成させる。	各自研究を進める。
16. 中間発表	各自研究を進める。
17. 中間発表	各自研究を進める。
18. 中間発表	各自研究を進める。
19. 中間発表	各自研究を進める。
20. 個人指導	各自研究を進める。
21. 個人指導	各自研究を進める。
22. 個人指導	各自研究を進める。
23. 個人指導	各自研究を進める。
24. 個人指導	各自研究を進める。
25. 個人指導	各自研究を進める。
26. 個人指導	各自研究を進める。
27. 個人指導	各自研究を進める。
28. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。
29. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。
30. ふりかえりと総評	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス: ・発表の際は、自身の研究の単なる経過報告に止まらず、他者の意見が聞きたい点・議論したい点も明確に示すことで、ゼミの場が活かされます。十分な準備をして臨みましょう。
・卒論と就職活動や進学準備との両立はなかなか大変ですが、緩急はつけながらも手を止めず、こつこつと研究を進めるようにしましょう。
・卒業論文は指導教官の指導を受けながら進めるものです。発表やレポート課題、個人指導を通して、卒業論文に関する指導を受けずに論文を提出することは認めません。

フィードバックの方法: 授業のほか、メールや面談で行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに発表、レポート課題の提出、授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等：	授業や個人指導のなかで、それぞれの研究に参考になるものを紹介します。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法：	yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:																																																																
授業テーマ:	調査、発表、執筆など一連の作業を通じて、四年間の学びの集大成となる卒業論文を完成させる。																																																															
授業の概要:	各自の研究の内容、進展状況を定期的に報告し、履修者、教員との議論を通じて考察を深める。あわせて、個別指導を受ける。具体的な日程や方法については初回授業時に指示する。																																																															
到達目標:	四年間に身につけた技能を応用し、各自の問題意識に基づき問への答えを導く。																																																															
授業方法:	春・秋学期に報告を各自一回行う。 秋学期は春学期期間中および秋学期までに書き上げた論文への指導を行う。																																																															
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 全体での打ち合わせ(春学期)／基礎文献、参考文献などの紹介、今後の進め方についてのオリエンテーション</td><td>卒業論文の構想、概要について説明できるようにしておく。</td></tr><tr><td>2. 論文の計画についての個別指導</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>3. 論文の計画についての個別指導</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>4. 論文の計画についての個別指導</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>5. 論文の計画についての個別指導</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>6. 論文の計画についての個別指導</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>7. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>8. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>9. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>10. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>11. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>12. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>13. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>14. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。</td></tr><tr><td>15. 今後に向けて</td><td>執筆と発表から得た気づきをもとに、さらなる執筆を進める。</td></tr><tr><td>16. 全体での打ち合わせ(秋学期)／今後の進め方についてのオリエンテーション</td><td>執筆中の論文について、問と答え(の概要)を示せるようにしておく。</td></tr><tr><td>17. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>18. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>19. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>20. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>21. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>22. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>23. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>24. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>25. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>26. 論文の下書きに基づく個別指導</td><td>執筆を進め、考察を深める。</td></tr><tr><td>27. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。</td></tr><tr><td>28. 研究計画に基づく報告と討議</td><td>執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。</td></tr><tr><td>29. ふりかえり</td><td>これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。</td></tr><tr><td>30. ふりかえり</td><td>これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。</td></tr></tbody></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 全体での打ち合わせ(春学期)／基礎文献、参考文献などの紹介、今後の進め方についてのオリエンテーション	卒業論文の構想、概要について説明できるようにしておく。	2. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	3. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	4. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	5. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	6. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	7. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	8. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	9. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	10. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	11. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	12. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	13. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	14. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。	15. 今後に向けて	執筆と発表から得た気づきをもとに、さらなる執筆を進める。	16. 全体での打ち合わせ(秋学期)／今後の進め方についてのオリエンテーション	執筆中の論文について、問と答え(の概要)を示せるようにしておく。	17. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	18. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	19. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	20. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	21. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	22. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	23. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	24. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	25. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	26. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。	27. 研究計画に基づく報告と討議	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。	28. 研究計画に基づく報告と討議	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。	29. ふりかえり	これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。	30. ふりかえり	これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。	
授業内容	準備学習等の内容																																																															
1. 全体での打ち合わせ(春学期)／基礎文献、参考文献などの紹介、今後の進め方についてのオリエンテーション	卒業論文の構想、概要について説明できるようにしておく。																																																															
2. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
3. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
4. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
5. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
6. 論文の計画についての個別指導	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
7. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
8. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
9. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
10. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
11. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
12. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
13. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
14. 研究計画に基づく報告と討議	各自の関心、主題、問に基づき、今後の執筆に向けて必要な準備を進める。報告と討議に向けて必要な技能を修得する。																																																															
15. 今後に向けて	執筆と発表から得た気づきをもとに、さらなる執筆を進める。																																																															
16. 全体での打ち合わせ(秋学期)／今後の進め方についてのオリエンテーション	執筆中の論文について、問と答え(の概要)を示せるようにしておく。																																																															
17. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
18. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
19. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
20. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
21. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
22. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
23. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
24. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
25. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
26. 論文の下書きに基づく個別指導	執筆を進め、考察を深める。																																																															
27. 研究計画に基づく報告と討議	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。																																																															
28. 研究計画に基づく報告と討議	執筆した論文の問、答えをまとめ、報告する。他の受講者の報告を受け、共に議論できるよう準備を進める。																																																															
29. ふりかえり	これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。																																																															
30. ふりかえり	これまでをふりかえり、研究の成果をまとめる。																																																															
受講者へのメッセージやアドバイス:	みずから問を設定し答えを導くために、四年間で身につけた技能を活用し論文を完成させましょう。課題分析に加えて、長期にわたる自己管理能力も求められます。各自の目標達成のために、個別指導では、ひとりひとりの関心やテーマに即して具体的な指導を行います。クラスで学び考える時間、一人で学び考える時間、どちらも大切に取り組みましょう。																																																															

フィードバックの方法： 初回授業時に指示する。以降も随時指示する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に傾けた努力の度合(出席状況・授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。評価に際して、(1)卒業論文の完成度(2)卒業論文の書式が学科で配布される「卒業論文作成ガイド」に準拠しているかをみる。

教科書： 初回授業時に指示する。以降も随時指示する。

参考文献等： 初回授業時に指示する。以降も随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法： 初回授業時に指示する。以降も随時指示する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 言語研究の方法

授業の概要: 前半は、主にコーパスに立脚した言語研究の方法を扱う。コーパスからのデータ取得と、テキストファイル処理の技術を身につける。コーパスを用いた研究例や研究にあたって注意すべき点を学ぶ。また、基本的な文献の講読・講義を行う。各自関心のある問題について分析を行い、議論する。
後半は、主に言語変化の問題に関する基本的な文献の講読と講義を行う。各自関心のある問題について分析を行い、議論する。

到達目標: コーパスを用いて日本語の研究を行う上での問題点を理解し、自らデータを取得・加工し、分析に利用できる技術を身につける。言語変化に関する研究例や理論的枠組の基本を理解する。

授業方法: 実習・講義・講読

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明	
2.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
3.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
4.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
5.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
6.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
7.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
8.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
9.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
10.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
11.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
12.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
13.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
14.	コーパス言語学入門。データ取得・処理の実習、課題発表、議論	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
15.	中間のまとめ	
16.	言語変化論入門：講読と講義	配付物を事前に読み、課題を行ってくること。
17.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
18.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
19.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
20.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
21.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
22.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
23.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
24.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
25.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
26.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
27.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
28.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
29.	言語変化論入門：講読と講義	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくること。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
30.	総まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 指示により、ノートPC(Windows)を持っている人は持参、持っていない人はUSBメモリ等を持参し、事務室でPCの貸与を受けること。毎回、相当量の課題があり、授業の前に授業支援システム「マナビー」から課題を提出してもらい、それらを行って来ない場合、授業の理解は困難である。

フィードバックの方法: 課題については総括的にコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の課題	25	課題を通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
	授業への参加態度	25	授業へのとりくみを通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
	前半レポート	25	コーパスを用いた日本語データ処理・分析の力がついたかを評価する。
	後半レポート	25	言語変化についての授業内容を理解し、自ら言語事実の調査や分析を行う力がついたかを評価する。

教科書:

参考文献等: 『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』 朝倉書店

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

マナビーの「個別指導」から

FLTナンバー:

授業テーマ:『更級日記』を読む。

授業の概要:『更級日記』を読んでいく。

到達目標:『更級日記』の問題点を知る。

授業方法:演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	なし
	2. 一節演習発表	レジュメを作成する。
	3. 二節演習発表	レジュメを作成する。
	4. 三節演習発表	レジュメを作成する。
	5. 四節演習発表	レジュメを作成する。
	6. 五節演習発表	レジュメを作成する。
	7. 六節演習発表	レジュメを作成する。
	8. 七節演習発表	レジュメを作成する。
	9. 八節演習発表	レジュメを作成する。
	10. 九節演習発表	レジュメを作成する。
	11. 十節演習発表	レジュメを作成する。
	12. 十一節演習発表	レジュメを作成する。
	13. 十二節演習発表	レジュメを作成する。
	14. 十三節演習発表	レジュメを作成する。
	15. 十四節演習発表	レジュメを作成する。
	16. 十五節演習発表	レジュメを作成する。
	17. 十六節演習発表	レジュメを作成する。
	18. 十七節演習発表	レジュメを作成する。
	19. 十八節演習発表	レジュメを作成する。
	20. 十九節演習発表	レジュメを作成する。
	21. 二十節演習発表	レジュメを作成する。
	22. 二一節演習発表	レジュメを作成する。
	23. 二二節演習発表	レジュメを作成する。
	24. 二三節演習発表	レジュメを作成する。
	25. 二四節演習発表	レジュメを作成する。
	26. 二五節演習発表	レジュメを作成する。
	27. 二六節演習発表	レジュメを作成する。
	28. 二七節演習発表	レジュメを作成する。
	29. 二八節演習発表	レジュメを作成する。
	30. 二九節演習発表	レジュメを作成する。 レポートの準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

楽しもう。

フィードバックの方法:

質問カード

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	研究の体裁をとっているか。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

メールによる。

FLTナンバー:

授業テーマ: 1.日本語教育における作文・読解指導
2.日本語教育中上級段階の指導の実際と課題

授業の概要: 1.日本語教育における作文・読解指導
①作文とはそもそも何か、②日本語教育で読解はどのようにとらえられているのか、③認知心理学の領域における作文・読解に関する基礎的知識、④新しい指導のあり方を示唆するものの、四つの課題を教師と学生の皆さんと一緒に検討する。
2.日本語教育上級段階の指導の実際と課題
①今日の上級の指導のあり方、②新たな日本語教育観から考えられる上級の指導のあり方の、二つの課題を教師と学生の皆さんと一緒に検討する。

到達目標: 1.日本語教育における作文・読解指導の現状と課題について把握する。
2.日本語教育上級段階のあり方、教材・指導技術を具体的に学ぶ。

授業方法: 1.については、教師の講義を受けて学生同士の検討、その結果をもとにしたディスカッションという進め方を基本とする。2.については、模擬指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	作文とはそもそも何か 1	今日の作文の指導はどのように行われているのか？ また、今ある日本語の作文教材は、生活の必要性を反映しているのだろうか？ 以上の課題について、個人の考え方をまとめる。
2.	作文とはそもそも何か 2	前述の課題について発表された他の学生及び教師の考え方をどう思うか、考える。
3.	作文とはそもそも何か 3	作文について考察した結果をまとめる。
4.	日本語教育で読解はどのようにとらえられているのか 1	課題教材を分析し、発表の準備をする。1
5.	日本語教育で読解はどのようにとらえられているのか 2	課題教材を分析し、発表の準備をする。2
6.	日本語教育で読解はどのようにとらえられているのか 3	課題教材を分析し、発表の準備をする。3
7.	日本語教育で読解はどのようにとらえられているのか 4	日本語教育における読解のとらえ方をまとめる。
8.	認知心理学の領域における作文・読解に関する基礎的知識 1	文献を読み、作文・読解に関する基礎的知識を得ておく。また、発表が当たっている場合にはその準備をする。 1
9.	認知心理学の領域における作文・読解に関する基礎的知識 2	文献を読み、作文・読解に関する基礎的知識を得ておく。また、発表が当たっている場合にはその準備をする。 2
10.	認知心理学の領域における作文・読解に関する基礎的知識 3	文献を読み、作文・読解に関する基礎的知識を得ておく。また、発表が当たっている場合にはその準備をする。 3
11.	認知心理学の領域における作文・読解に関する基礎的知識 4	認知心理学の領域における、作文・読解に関する基礎的知識をまとめる。
12.	新しい作文・読解指導のあり方を示唆するものの 1	課題について、自分の意見をまとめておく。また、発表が当たっている場合にはその準備をする。 1
13.	新しい作文・読解指導のあり方を示唆するものの 2	課題について、自分の意見をまとめておく。また、発表が当たっている場合にはその準備をする。 2
14.	新しい作文・読解指導のあり方を示唆するものの 3	新しい作文・読解指導のあり方を示唆するものについて、自分なりの見解をまとめる。
15.	振り返り	日本語教育における作文・読解指導について、春学期に学んだことをまとめる。
16.	日本語教育におけるレベル分け 1	できる内容・教える項目・与える材料などから見てどのようなレベル分けが可能か検討する。
17.	日本語教育におけるレベル分け 2	できる内容・教える項目・与える材料などから見たレベル分けをまとめる。
18.	上級段階の教材 1	上級段階の教材にふさわしいものとは何かを考える。
19.	上級段階の教材 2	検討結果に基づいて、教材を探す。
20.	模擬指導 導入 1	どのような形の導入があるのか検討する。
21.	模擬指導 導入 2	教材にふさわしい導入とはどうあるべきか検討する。
22.	模擬指導 導入 3	模擬導入の準備をする。
23.	模擬指導 語句・表現の検討 1	選んだ教材のどのような語句・表現を指導すべきか検討する。
24.	模擬指導 語句・表現の検討 2	発表を受けて再検討する。
25.	模擬指導 読解 1	教材を使った指導のあり方を検討する。発表が当たっている場合にはその準備をする。 1
26.	模擬指導 読解 2	教材を使った指導のあり方を検討する。発表が当たっている場合にはその準備をする。 1
27.	模擬指導 読解 3	発表を受けて再検討する。
28.	模擬指導 1	選んだ教材を使った指導の準備をする。1
29.	模擬指導 2	選んだ教材を使った指導の準備をする。2
30.	振り返り	上級段階における指導について、秋学期に学んだことをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス: 学ぶことが広範囲に及び、また各々領域は奥深い。授業で取り上げるもの以外にも、自分で積極的に探ってもらいたい。また、広範囲で奥深いからこそ、知らないこと・わからないことがあって当然。それらについてはわかったふりや無視したりしないで、その旨明言し、教師に問うなり他の学生の考えを求めたりすること。

フィードバックの方法: 各自の検討結果・模擬指導については、教師が解説するなりクラスでディスカッションするなりする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題の発表	50	各自に課す課題について、どれだけ事前に検討を加えたか、検討結果を相手に伝わるように発表したか、発表内容は妥当かの3点から評価する。
	授業への参加度	50	他の学生の発表や意見・教師の解説などに対していかに積極的に自分の考えを発信したか、また模擬指導においていかに準備をしそれを指導として表現できたかを評価する。
教科書:	都度の指示		
参考文献等:	丸山敬介 『教え方の基本（改訂版）』 京都日本語教育センター 丸山敬介 『日本語教育実習事例報告 彼らはどう教えたのか』 ココ出版		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡 方法:	基本的には授業の中であるいは前後に対応する。それ以外は、下記に連絡すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp		

FLTナンバー:

授業テーマ: 音楽理論研究

授業の概要: 和声・対位法（フーガを含む）等の実習、および楽曲分析を各々の学生の進度に合わせ、授業を行う。

到達目標: 楽曲分析、および調性音楽理論による高度な音楽書法の修得を目標とする。
過去の名曲といわれる楽曲を分析することにより、作曲に対する技法や時代背景を研究する。
そしてその一助となる和声法や対位法を学習する。

授業方法: 基本としてグループレッスン形式にて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 音楽理論研究 1	大学で学んだ理論科目の復習
	2. 音楽理論研究 2	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	3. 音楽理論研究 3	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	4. 音楽理論研究 4	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	5. 音楽理論研究 5	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	6. 音楽理論研究 6	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	7. 音楽理論研究 7	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	8. 音楽理論研究 8	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	9. 音楽理論研究 9	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	10. 音楽理論研究 10	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	11. 音楽理論研究 11	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	12. 音楽理論研究 12	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	13. 音楽理論研究 13	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	14. 音楽理論研究 14	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	15. 音楽理論研究 15	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	16. 音楽理論研究 16	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	17. 音楽理論研究 17	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	18. 音楽理論研究 18	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	19. 音楽理論研究 19	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	20. 音楽理論研究 20	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	21. 音楽理論研究 21	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	22. 音楽理論研究 22	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	23. 音楽理論研究 23	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	24. 音楽理論研究 24	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	25. 音楽理論研究 25	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	26. 音楽理論研究 26	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	27. 音楽理論研究 27	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	28. 音楽理論研究 28	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	29. 音楽理論研究 29	前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	30. 音楽理論研究 30	前回の授業で与えられた課題の実践と復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学で学んだ理論科目の知識および技術を基にした授業を行う。

フィードバックの方法: 適宜、予習及び復習を行わせる。
授業の復習としての宿題や、次回の授業の課題準備などを課す。

「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	課題の実践状況など
	レポート	50	実習した課題・作品の提出など

教科書: 適宜その都度指定する

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー 他

FLTナンバー:

授業テーマ: 芸術と精神病理

授業の概要: 芸術行為の臨床的意義を、臨床心理学や精神分析の関連理論を通して考察する。音楽療法・芸術療法関連の文献(主として英語による原著)を読み解くことを通して、1)その背景となる理論を理解し、2)芸術の臨床応用の実際と可能性について討議する。

到達目標: ・音楽療法・芸術療法の理論を習得する
・芸術の臨床応用の実際について理解する。

授業方法: 文献の講読と討議を中心とする演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション: 音楽療法・芸術療法、および精神分析の概略	次回に講読する文献の予習
2.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習
3.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習
4.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習
5.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習
6.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習
7.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。
8.	研究発表1	発表の準備、および発表後に受けたコメントの整理
9.	芸術療法に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習
10.	芸術療法に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習
11.	芸術療法に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習
12.	芸術療法に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習
13.	芸術療法に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習
14.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。
15.	研究発表2	発表の準備、および発表後に受けたコメントの整理
16.	音楽療法・芸術療法の実際についての討議1	学術雑誌から、音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。
17.	音楽療法・芸術療法の実際についての討議2	学術雑誌から、音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。
18.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習
19.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習
20.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習
21.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習
22.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議5	講読文献の予復習
23.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。
24.	研究発表3	発表の準備、および発表後に受けたコメントの整理
25.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習
26.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習
27.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習
28.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習
29.	研究発表4	発表の準備、および発表後に受けたコメントの整理
30.	芸術行為の意義についての総括	芸術行為の意義について、自分の言葉で語れるよう、コメントを準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 履修者は、音楽理論の十分な知識と心理学の基礎知識を備えていること。また、当科目分野の専門書は英語によるものがほとんどである事情から、英語読解力も必須である。

フィードバックの方法: 提出物は、授業内でコメントした上で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加	60%	文献の予復習状況と、到達目標における、音楽療法・芸術療法の理論の習得に基づく討議ができていることについて評価する。
	研究発表およびレポート課題	40%	到達目標における、芸術の臨床応用の実際についての理解に基づき、論理的な考察ができていることを評価する。

教科書: 教材はプリント配布する。

参考文献等: 稲田雅美『ところをつなぐミュージックセラピー: ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房(2016年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本人は「西洋音楽」をどのように受けとめ、理解し、一方で「日本音楽」をどのように異国の人に伝えたか？

授業の概要: 本講義では、近代以降の日本人が、文化・民族・社会・音楽の関係をどのように捉え、「音楽」の送受信を行ってきたかを具体的な事例に基づいて考察する。
春学期は、19世紀から現代に至る日本近代音楽史に大きな位置を占めている「西洋芸術音楽／ポピュラー音楽」の導入と定着のプロセスを、「文化の振興」という切り口で読み解き、あわせて近代日本に着座した「西洋音楽」が世界の音楽市場でどのように位置づけられるのかをも探る。
秋学期は、日本人が創造／伝承してきた多様な「日本の伝統音楽」が、国外にどのように発信されたかについて、「脱コンテクスト化」された事例にもとづいて考察する。その際、日本音楽を受けとめた外国人の行動意識、発信のための人的ネットワーク、音楽実践における身体との関連性に着目して考察する。

到達目標: 一年間の分析考察作業を通して、1)音楽文化の再生産の背後にある仕掛けを見抜く洞察力を身につけ、2)映し出される日本音楽の創出と伝承の特性を見出す力を養う。

授業方法: 講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本音楽文化の世界にどのように扉をあけ、西洋文化をどのように観察したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
2.	世界に発信された日本音楽文化は西洋からどのように観察されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
3.	官立音楽学校において「西洋芸術音楽」の受容システムはいかに構築されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
4.	私立音楽学校において「西洋芸術音楽」の実践はどのように推進されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
5.	総合大学において「西洋芸術音楽」をどのように取り入れたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
6.	一般企業において西洋音楽をどのように宣伝媒体として取り込んだか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
7.	西洋音楽をどのように企業がサポートしたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
8.	西洋のポピュラー音楽がラジオというメディアによってどのように拡散していったか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
9.	日本人演奏家がどのようにして「西洋芸術音楽」を生業とできるようになったか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
10.	亡命音楽家が日本の「西洋芸術音楽」の振興にどのように貢献したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
11.	第二次世界大戦後の音楽振興(ポピュラー音楽)に誰が手を差しのべたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
12.	ポピュラー音楽は、現在、どういうネットワークのなかにおかれているのか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
13.	グローバル化にみるポピュラー音楽の行方	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
14.	ポピュラーミュージシャンを生み出すプロダクションの戦略	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
15.	世界音楽史における近代日本音楽史の特質とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
16.	伝統音楽の脱コンテクスト化とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
17.	日本の音楽はだれによって発見され、国外に連れ出されたのか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
18.	近代化の道を歩みはじめた時、伝統音楽はどういう危機に遭遇したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
19.	欧米ツアーに連れ出された江戸の音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
20.	西洋人創作オペラに引用された日本音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
21.	外地でのラジオ放送が在留邦人の音楽体験に与えたもの	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
22.	能の宗家による外地での公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
23.	日本伝統音楽の外地での教習の実態	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
24.	新作狂言に魅了される現代の聴衆	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
25.	現代音楽に組み込まれた和太鼓	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
26.	映画音楽に組み込まれた和楽器	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
27.	現代の近世邦楽の海外公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
28.	現代の歌舞伎の海外公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
29.	津軽三味線の世界ツアー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
30.	文化・民族・社会・音楽の関係(総括)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	55%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	25%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、ディスカッション	20%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考文献等:	講義時に、適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

FLTナンバー:

授業テーマ: 作曲家/演奏家の視点から見た声楽作品研究

授業の概要: ドイツ歌曲やオペラ等の声楽作品が作曲されるにあたり、作曲時の生活環境や心理状態が、作品に何らかの影響を及ぼしていると考えられる。それを演奏するにあたり、関係文献を精読、分析し、パフォーマーからの目で見たい解釈を進めていく。またプレゼンテーション時の声の出し方などにも役立つ発声法の研究も併用する。

到達目標: 1. 参考文献の精読による理解と解説力。
2. 歌詞の解釈と表現力。
3. 声の出し方。

授業方法: 授業開始にイタリア、ドイツ、日本の声楽作品から研究作品を決め、その時代の文献を精読し、授業内での発表と実演を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業説明と研究作品についての質疑応答。	授業開始までに自分であらかじめ研究作曲家を決めておく。
2.	発声と歌唱(1) 声を出すこととは	発声についての準備はいらないが、研究作曲家については文献の精読を開始しておく。 歌唱作品についての譜読み。 次週の発表についての準備。
3.	発声と歌唱(2) 発声の仕方と楽曲へのアプローチ	
4.	作曲家研究発表 1	資料を作成し、配布できるように準備。
5.	発声と歌唱(3) より煮詰めた歌唱	歌唱作品の音楽上の準備。
6.	発声と歌唱(4)	
7.	発声と歌唱(5)	平素より声を出すトレーニングをしておく。
8.	作曲家研究発表 2	
9.	発声と歌唱(6)	資料作成と配布の準備。
10.	発声と歌唱(7)	
11.	発声と歌唱(8)	
12.	作曲家研究発表 3	資料作成と配布の準備。
13.	発声と歌唱(9)	
14.	発声と歌唱(10)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。
15.	まとめ+α	資料作成と配布の準備。
16.	春学期とは違うジャンルの作曲家研究。	歌曲かオペラ作品かを事前に決定しておくこと。
17.	発声と歌唱(11) 発声について自分流を開発する。	歌唱に入れるように譜読みをしておく。
18.	発声と歌唱(12)	
19.	作曲家研究発表 4	声のトレーニング。 資料作成と配布準備。
20.	発声と歌唱(13)	
21.	発声と歌唱(14)	
22.	作曲家研究発表 5	資料作成と配布準備。
23.	発声と歌唱(15)	
24.	発声と歌唱(16)	
25.	発声と歌唱(17)	
26.	作曲家研究発表 6	資料作成と配布準備。
27.	発声と歌唱(18)	
28.	発声と歌唱(19)	
29.	発声と歌唱(20)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。
30.	総括	資料作成と配布の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 発表毎に教室にて解説をします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	40%	研究レポートをもとに説明の仕方と質疑応答などの理解度を段階的に評価する。
	授業への参加度	60%	演習の歌唱における発声と発音の到達度と、質疑応答の参加度を段階的に評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	打ち合わせ(春学期)	なし
2.	受講生による作品研究	発表準備
3.	受講生による作品研究	発表準備
4.	受講生による作品研究	発表準備
5.	受講生による作品研究	発表準備
6.	受講生による作品研究	発表準備
7.	受講生による作品研究	発表準備
8.	受講生による作品研究	発表準備
9.	受講生による作品研究	発表準備
10.	受講生による作品研究	発表準備
11.	受講生による作品研究	発表準備
12.	受講生による作品研究	発表準備
13.	受講生による作品研究	発表準備
14.	受講生による作品研究	発表準備
15.	ふりかえり	なし
16.	打ち合わせ(秋学期)	発表準備
17.	受講生による作品研究	発表準備
18.	受講生による作品研究	発表準備
19.	受講生による作品研究	発表準備
20.	受講生による作品研究	発表準備
21.	受講生による作品研究	発表準備
22.	受講生による作品研究	発表準備
23.	受講生による作品研究	発表準備
24.	受講生による作品研究	発表準備
25.	受講生による作品研究	発表準備
26.	受講生による作品研究	発表準備
27.	受講生による作品研究	発表準備
28.	受講生による作品研究	発表準備
29.	受講生による作品研究	発表準備
30.	ふりかえり	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する
	レポート	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール

FLTナンバー:			
授業テーマ:	平安朝文学を読む		
授業の概要:	平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。		
到達目標:	自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。		
授業方法:	演習、討議方式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	発表の準備	
	2. 演習及び討議	発表の準備	
	3. 演習及び討議	発表の準備	
	4. 演習及び討議	発表の準備	
	5. 演習及び討議	発表の準備	
	6. 演習及び討議	発表の準備	
	7. 演習及び討議	発表の準備	
	8. 演習及び討議	発表の準備	
	9. 演習及び討議	発表の準備	
	10. 演習及び討議	発表の準備	
	11. 演習及び討議	発表の準備	
	12. 演習及び討議	発表の準備	
	13. 演習及び討議	発表の準備	
	14. 演習及び討議	発表の準備	
	15. 演習及び討議	発表の準備	
	16. 演習及び討議	発表の準備	
	17. 演習及び討議	発表の準備	
	18. 演習及び討議	発表の準備	
	19. 演習及び討議	発表の準備	
	20. 演習及び討議	発表の準備	
	21. 演習及び討議	発表の準備	
	22. 演習及び討議	発表の準備	
	23. 演習及び討議	発表の準備	
	24. 演習及び討議	発表の準備	
	25. 演習及び討議	発表の準備	
	26. 演習及び討議	発表の準備	
	27. 演習及び討議	発表の準備	
	28. 演習及び討議	発表の準備	
	29. 演習及び討議	発表の準備	
	30. 総括	論文執筆の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	学位取得をめざして頑張ってほしい		
フィードバックの方法:	口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する
教科書:	特になし		
参考文献等:	特になし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。		

FLTナンバー:

授業テーマ: ひととまちの景観:「まちを生きる」諸相からみえる「まちの姿」を、住まいから出発して、界隈を散策し、そして、周辺郊外へと遠出する仮想のルートを辿って、近現代京都の風景の成り立ちと変容を理解する。その途上、さまざまな媒体に表現される京都イメージや、また海外都市のすまいの事情との比較により、虚実入り交じった京都のイメージ世界を探索してみよう。

授業の概要: よくも悪しくも人間社会がつくり出してきた都市的環境を人がどのように捉えてきたかという、人と環境の関係の歴史(履歴)認識には、虚実が交錯する都市景観のイメージが伴っている。モノの変化としての都市の変貌は記録できるものであるが、人の係わり(文化的・歴史的な慣習の変容を伴う)の履歴は、それぞれの時代を生きたひとびとの共通理解として共有されながら、それとして記録されにくい。都市環境への人の係わりのイメージ表現として景観を捉えると、そのイメージを記録する媒体にはいろいろなものが考えられる。
本講義では、文学作品やエッセイそして映画などに表現される都市イメージ、あるいは都市計画の構想や事業の経過、そして都市の町並みや建築自体を、都市環境と人間(社会)の係りの記憶装置や痕跡、あるいは媒体として捉え、都市景観の多彩な立ち現れ方を解釈する方法について演習する。その具体的なフィールドが近現代の京都だが、京都を相対化するために他の都市文化を参照する。

到達目標: 1.理論的目標 都市相貌を景観と受け取る通俗的な理解に止まらず、土地の風土的な特性の表現のひとつが「都市景観」であることを、人文科学的に理解する。
2.表現媒体の多様性 現実の都市街区に止まらず、都市景観の現象はさまざまな表象媒体におよんでいることを理解すると、都市文学、都市映像、そして都市計画などの表現手段の多様性が理解できる。
3.歴史的経緯の尊重 土地の風土的特徴の形成には、それなりの歴史的文化的経緯がかかわっていることを理解する。
4.風評への批判力 時代ごとに流行る景観イメージの虚実に対する批判力を知的に形成する。

授業方法: ゼミ室での講義・演習を主とするが、テーマが決まった段階で受講生が実地調査や資料探索をするアドバイスを適宜、個人別にする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:風土と景観と風景:文献紹介	参考書などを大学・公設図書館で探索する場合の助言を行う。
2.	原論演習1「風土」「景観」「風景」とは何か	基本的に準備的学習は不要だが、授業で紹介した参考文献を個人的に消化するのは、授業時間外の受講生の努力に負う。以下、同じ。
3.	原論演習2	
4.	講義 京都のすまい方の風景:エッセイを通してみる町家のくらし	町家とは一体何か? エッセイに描かれる町家暮らしの理解
5.	講義 同上(続き)	町家暮らしの陰と陽
6.	講義 欧州都市のすまいの風景(1):ロンドンにあって京都にないもの	ロンドンを舞台とした映画を部分的に鑑賞する。
7.	講義 欧州都市のすまいの風景(2):英国映画にみる都市住まい	ロンドンの町家とは?
8.	講読 京都の路地と辻子(1):エッセーにみる都市遊歩	エッセーの講読
9.	講読 京都の路地と辻子(2):都市史研究にみる辻子と路地	参考文献の部分的講読
10.	講読 京都の路地と辻子(3):京都映画にみるまちの界隈の記憶	京都を舞台とした映画を紹介する。そのイメージの信憑性について議論する。
11.	講義 欧州都市のすまいの風景(3) 資料紹介:パリにあって京都にもあるもの	都市小街路形成の特徴
12.	講義 欧州都市のすまいの風景(3) 資料紹介:パリにあって京都にないもの	都市形成の歴史性の相違
13.	講義 欧州都市のすまいの風景(5):映画にみるパリ住まいと界隈	パリを舞台とした映画を紹介する。 そのイメージの信憑性について議論する。
14.	講義 近代京都の道路景観の変容(1):明治と大正	受講生自身がまち歩きにより、時代の痕跡を発見する手がかかりを伝授。
15.	講義 京都近代の道路景観の変容(2):戦前昭和	同上
16.	中間発表1 受講生の関心テーマについて、発表と議論	受講生の自主的テーマの提案
17.	中間発表2 同上	同上
18.	講義 戦後京都のまちの変容:広幅員道路の誕生	交通機関を利用して実体験を推奨する
19.	講義 戦後京都のすまいの変容:まちやとマンション	ビルと町家が混在する市街地の形成経過
20.	講義 戦後京都の都市景観の変容	京都の都市景観の変化の特徴を理解する
21.	講義 まちの風景(1):現代の京都が失ったものとパリが得たもの	対照的な都市政策の理解
22.	講義 まちの風景(2):同上	
23.	討議 現代のまちの観察(1) 京都の魅力は町家にあるのか	町家の暮らし方は今後も可能か?
24.	討議 現代のまちの観察(2) 京都は町家で生き残れるのか	町家保存によってビルと町家が混在する市街地の問題を解決できるのか
25.	討議 「京都の歴史イメージと現代」	「京都」とは一体どこを指すのか。市域拡大の結果と京都イメージの曖昧化
26.	受講生発表1 調査・研究成果の発表	授業と併行して調べた課題について発表する。
27.	受講生発表2 調査・研究成果の発表	同上
28.	まとめ	
29.	レポート講評(1)	
30.	レポート講評(2)	

受講者へのメッセージやアドバイス: 後期のみの授業。講義だがビデオ鑑賞・パソコンによる解説・紙媒体の資料講読を含み、実地見学に出ることがある。受講者は、授業中に紹介する話題などを出発点として、自分が関心する京都の都市的課題について、主体的に調査して観察を発展させる作業を期待する。対象は文学・エッセイ・映画あるいは祭礼などのイベント、特定の歴史的な事象など、ジャンルは問わない。授業中に発表する機会を設け、最終的にレポートにまとめる。試験はない。主題選択については適宜相談に応ずる。

フィードバックの方法： 中間発表へのコメントや講評は口頭で行う。授業中の質問には適宜応じる。最終的には、期末レポートを提出してもらうが、個別に講評結果をメールにて回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	評価基準はこの通りだが、出席率が30%でよいわけではない。
	中間発表への出席と内容	30	
	最終レポート	40	

教科書： 特定の教科書はない。

参考文献等： 丸山・伊従・高木編『みやこの近代』思文閣出版、2008年
同上編者『近代京都研究』思文閣出版、2008年
参考書は、この他に授業中に示す。図書館備え付けのものの閲覧で間に合うはずである。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 観察力、分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法： 授業中に連絡用メールアドレスを伝える

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本における一年の暮らしと芸能

授業の概要: 全国各地には様々な祭礼や芸能がある。祭や芸能は「〇〇祭」として、それだけを取り上げられることが多い。芸能それ自体の研究も重要であるが、一年間の行事・祭礼・芸能は、それぞれの地域の自然や生業と、密接な関係にある。本講では、一年を通しての、全国各地の人々のさまざまな暮らしや生産活動を取り上げ、それに関わる行事や祭礼に込められた人々の想いを追求していきたい。さらにそれらの生活の中で発生し、伝えられてきた祭礼や芸能と、芸能それ自体の発展、変容についても講じていきたい。また、日本全国のご具体事例を知るために映像資料を多用する。
ただし、大学院生対象の講義であることから、受講生が少ない場合、その受講生の専門性に関わる民俗学の著作や論文をテキストにし、講読を行う場合もある。

到達目標: (1)祭や芸能が単独で存在してきたわけではなく、人々の生活の中ではぐくまれてきた民俗であることを確認できる。
(2)学生諸氏にとっては、祭礼や芸能の中にとどめられている歴史性や文学性、あるいは宗教性や芸術性に気づき、専門との関わりを持たせることができる。

授業方法: 5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。	自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えてくる。
2.	マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。	網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。
3.	日本の地域(その1):雪国の暮らし	市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。
4.	日本の地域(その2):南島の暮らし	伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。
5.	日本の地域(その3):山村の暮らし	湯川洋司『変容する山村ー民俗再考』などに目を通してみる。
6.	日本の地域(その4):漁村の暮らし	山口徹『海的生活誌 一半島と島の暮らし』などに目を通してみる。
7.	日本の地域(その5):湖岸の暮らし	橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具ー滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。
8.	日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし	佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。
9.	日本の地域(その7):畑作民の暮らし	白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。
10.	日本の地域(その8):狩猟民の暮らし	山村民俗の会『狩猟 一狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。
11.	日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし	坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。
12.	生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。	本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。
13.	冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から	早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。
14.	夏の祭(厄払い行事 その1):京都祇園会の事例から	脇田晴子『中世京都と祇園祭ー疫神と都市の生活』などに目を通してみる。
15.	夏の祭(厄払い行事 その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから	山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。
16.	秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から	三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』などに目を通してみる。
17.	都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から	植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事ー祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。
18.	都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から	米山俊直『天神祭ー大阪の祭礼』などに目を通してみる。
19.	修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から	宮古市教育委員会『黒森神楽(資料篇)ー無形民俗文化財』などに目を通してみる。
20.	神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から	本田安次『日本の民俗芸能(第1)神楽(1966年)』などに目を通してみる。
21.	言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ	小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。
22.	仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから	中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。
23.	仏教行事(その2 念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから	五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。
24.	芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。	民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。
25.	仏教行事(その3 教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ	梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力ー梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。
26.	唱える芸能:念仏、声明から歌へ	五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。
27.	語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語	岩崎武夫『さんせう太夫考ー中世の説経語り』などに目を通してみる。
28.	歌う芸能:様々な民謡と歌	町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。
29.	見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化	服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。
30.	総括:人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。	身近な芸能を調査して、まとめてみる。

受講者へのメッセージやアドバイス：このラインナップはあくまで目安であり、それぞれの専門性に関わる分野を拡大したり、あるいは専門性に合わせた著作、論文を読む形で講義を進めることも可能である。民俗学に興味のある学生から相談を受けた場合は臨機応変に対応したい。

フィードバックの方法：少人数であることが予想されるため、質問等には直接対応できると思われる。また、最終的なレポートは、返却の予定はないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小論文	60	それぞれの専門性と関わらせて、民俗学を理解し、応用できているかどうかを、レポート内容によって評価する。
	発言	40	講義時にどれだけ積極的に考え、発言したかを評価する。

教科書：

参考文献等：準備学習等の内容に取り上げた書籍をはじめ、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法：講義時に対応する。Eメールも可能。講義時にアドレスを伝える。

FLTナンバー:

授業テーマ: 天皇陵の考古学

授業の概要: かつて考古学は「狭義の歴史学(文献史学)の補助学」であるとか、「文献が残っていない時代だけを扱う学問」であるとか思われてきたけれども、近年の考古学の進展はそんなとらえ方がすでに過去のものになったことを如実に語ってくれている。今や、考古学の成果を抜きにしては歴史を語ることはできないのである。この講義では、考古学とはどういう学問であり、また考古学が解き明かす歴史とはどのようなものであるかを、具体例に即して理解していただく。

到達目標: 考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解する。また、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができるようにする。

授業方法: デジタルカメラやビデオによる映像を使用しながら授業を進める。今出川キャンパス周辺の博物館や史跡の見学をとりいれる。なお、自主的に各地の遺跡や遺跡博物館の実地見学をするなど、積極的に学ぶ意欲のある学生の参加を希望する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	天皇陵問題とは何か	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
2.	天皇陵の概念	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
3.	天皇陵の沿革と制度	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
4.	天皇陵研究の歴史1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
5.	天皇陵研究の歴史2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
6.	天皇陵研究の歴史3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
7.	天皇陵研究の歴史4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
8.	古墳時代前期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
9.	古墳時代前期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
10.	古墳時代前期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
11.	古墳時代前期の大王墓4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
12.	古墳時代中期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
13.	古墳時代中期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
14.	古墳時代中期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
15.	古墳時代中期の大王墓4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
16.	古墳時代後期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
17.	古墳時代後期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
18.	古墳時代後期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
19.	飛鳥時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
20.	飛鳥時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
21.	飛鳥時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
22.	奈良時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
23.	奈良時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
24.	奈良時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。

25.	奈良時代の天皇陵4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
26.	平安時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
27.	平安時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
28.	平安時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
29.	平安時代の天皇陵4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
30.	まとめ	授業での内容をまとめなおしておくこと。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
大レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする。そして、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ばりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
平常点	30	積極的に授業に参加したかどうか。受講を通じて、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ばりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
ミニ・レポート	20	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

FZK06736@nifty.ne.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語教育とプロフィシエンシー

授業の概要: プロフィシエンシーという概念を理解し、それを志向した日本語教育の実現を目指す。まず、プロフィシエンシーとは何であるかを理解し、それに基づいた指導法―授業の行い方、評価の仕方、教材の作成などを考える。中心となるポイントは、「日本語を介して、今、あなたはこの場で何がどのように、どれほどできるか」という「生きたコミュニケーション活動」を促進する日本語教育を展開することである。

到達目標: プロフィシエンシーの概念を理解し、自己にとって何が「生きた」教育であり、また、それを実現するための教育方法を知ること

授業方法: 教科書や参考資料に批判的にあたり、積極的議論を展開する。4限目は主に講義、5限目は演習的に授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. プロフィシエンシーとは: 日本語使用者の実態	初日なので特別な資料はないが、自分、もしくは、自分の周りにいる日本語学習者がどのような日本語使用をしているか、具体的に記述したものを1000字程度でまとめておく。
	2. OPIとプロフィシエンシー: 序章	
	3. OPIとプロフィシエンシー: 超級レベル(1)	鎌田修他編集(近刊)「新OPI入門」凡人社(草稿を第1回目の授業で提供します)
	4. OPIとプロフィシエンシー: 超級レベル(2)	
	5. OPIとプロフィシエンシー: 上級レベル(1)	鎌田修他編集(近刊)「新OPI入門」
	6. OPIとプロフィシエンシー: 上級レベル(2)	
	7. OPIとプロフィシエンシー: 中級レベル(1)	鎌田修他編集(近刊)「新OPI入門」
	8. OPIとプロフィシエンシー: 中級レベル(2)	
	9. OPIとプロフィシエンシー: 初級レベル(1)	鎌田修他編集(近刊)「新OPI入門」
	10. OPIとプロフィシエンシー: 初級レベル(2)	
	11. OPIとプロフィシエンシー: まとめ(1)	鎌田修他編集(近刊)「新OPI入門」
	12. OPIとプロフィシエンシー: まとめ(2)	
	13. 接触場面とプロフィシエンシー(1-1)	鎌田修他編著(2012)『対話とプロフィシエンシー』
	14. 接触場面とプロフィシエンシー(1-2)	
	15. 接触場面とプロフィシエンシー(2-1)	鎌田修他編著(2012)『対話とプロフィシエンシー』
	16. 接触場面とプロフィシエンシー(2-2)	
	17. 接触場面とプロフィシエンシー(3-1)	鎌田修他編著(2012)『対話とプロフィシエンシー』
	18. 接触場面とプロフィシエンシー(3-2)	
	19. 接触場面とプロフィシエンシー(4-1)	鎌田修他編著(2015)『談話とプロフィシエンシー』
	20. 接触場面とプロフィシエンシー(4-2)	
	21. 教育現場とプロフィシエンシー(1-1)	鎌田修他編著(2015)『談話とプロフィシエンシー』
	22. 教育現場とプロフィシエンシー(1-2)	
	23. 教育現場とプロフィシエンシー(2-1)	鎌田修他編著(2015)『談話とプロフィシエンシー』
	24. 教育現場とプロフィシエンシー(2-1)	
	25. 教育現場とプロフィシエンシー(3-1)	鎌田修他編著(2008)『プロフィシエンシーを育てる』
	26. 教育現場とプロフィシエンシー(3-2)	
	27. 教育現場とプロフィシエンシー(4-1)	鎌田修他編著(2008)『プロフィシエンシーを育てる』
	28. 教育現場とプロフィシエンシー(4-2)	
	29. 日本語教育とプロフィシエンシー(総合)	鎌田修他編著(2008)『プロフィシエンシーを育てる』
	30. 日本語教育とプロフィシエンシー(総合)	

受講者へのメッセージやアドバイス: 言語教育の原点は何なのか、しっかり考えて欲しい。それを無視して教育を語るのは邪道でしょう。

フィードバックの方法: リアクションペーパーを定期的に課し、それに対するフィードバックを出します。それらを元にレポートを完成させてください。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的議論の展開	25	A 90 - 100% B 80 - 90% C 70 - 80%
	リアクションペーパー	25	A 90 - 100% B 80 - 90% C 70 - 80%
	レポート	50	A 90 - 100% B 80 - 90% C 70 - 80%

教科書: 鎌田修他編集(近刊)「新OPI入門」凡人社(草稿を第1回目の授業で提供します)
鎌田修他編著(2008)『プロフィシエンシーを育てる』凡人社
鎌田修他編著(2012)『対話とプロフィシエンシー』凡人社
鎌田修他編著(2015)『談話とプロフィシエンシー』凡人社

参考文献等: 鎌田修他(2012)『生きた素材で学ぶ「新・中級から上級への日本語」』ジャパンタイムズ
鎌田修監修(2015)『生きた会話を学ぶ「中級から上級への日本語なりきりリスニング」』ジャパンタイムズ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法:

kamadaosamu@gmail.com

FLTナンバー:

授業テーマ: 変化している日本語教育をタイムリーに見ていく

授業の概要: 日本語教育の基礎から各自の専門との関係を発見し運用する

到達目標: 各自のオリジナリティを発見する

授業方法: 講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	指定する論文を読みながら、自分の専門分野を別の角度から眺める	論文をよんでくる 分からない事、必要なことを調べてくる
2.		同上
	同上	
3.	同上	
		同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	中間発表会1	
7.	指定された論文を読みながら、自分の専門分野を追及する	論文をよんでくる 分からない点を調べたり、必要なことを調べてくる
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.		同上
	同上	
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	中間発表会2	
16.	指定された論文を読み、自分のテーマを追及する	資料を調べてくる
17.	同上	指定論文に関して、A4・1枚のレジメを作成し発表する
18.	同上	同上
19.	同上	同上
20.	同上	同上
21.	同上	同上
22.	同上	同上
23.	同上	同上
24.	同上	同上
25.	中間発表会3	
26.	指定論文を読んでくる	15分から20分の発表準備
27.	同上	
		同上
28.	同上	同上
29.	同上	同上
30.	発表とまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 将来日本語教育に従事しようとする人、或いは日本語教育に興味と関心のある人

フィードバックの方法: 毎回のコメント及び次回への指示

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究態度	50	
	準備度	30	
	その他	20	以上の総合判断で行う

教科書:

参考文献等: 文化庁、国立国語研究所等の諸発表などを注視する
外国人受入問題や日本語教育並びに少子高齢化対策に関する新聞報道等は、スクラップする

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 最初の授業時に説明します。

FLTナンバー:

授業テーマ: 平安朝文学を読む

授業の概要: 平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標: 自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	発表の準備
	2. 演習及び討議	発表の準備
	3. 演習及び討議	発表の準備
	4. 演習及び討議	発表の準備
	5. 演習及び討議	発表の準備
	6. 演習及び討議	発表の準備
	7. 演習及び討議	発表の準備
	8. 演習及び討議	発表の準備
	9. 演習及び討議	発表の準備
	10. 演習及び討議	発表の準備
	11. 演習及び討議	発表の準備
	12. 演習及び討議	発表の準備
	13. 演習及び討議	発表の準備
	14. 演習及び討議	発表の準備
	15. 演習及び討議	発表の準備
	16. 演習及び討議	発表の準備
	17. 演習及び討議	発表の準備
	18. 演習及び討議	発表の準備
	19. 演習及び討議	発表の準備
	20. 演習及び討議	発表の準備
	21. 演習及び討議	発表の準備
	22. 演習及び討議	発表の準備
	23. 演習及び討議	発表の準備
	24. 演習及び討議	発表の準備
	25. 演習及び討議	発表の準備
	26. 演習及び討議	発表の準備
	27. 演習及び討議	発表の準備
	28. 演習及び討議	発表の準備
	29. 演習及び討議	発表の準備
	30. 総括	論文執筆の準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 学位取得をめざして頑張ってほしい

フィードバックの方法: 口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の歴史語用論的研究

授業の概要: 日本語の歴史語用論に関する諸問題を取り上げ考察する。

到達目標: それぞれの関心に基づいて設定したテーマに関して考察し、論文にまとめる。

授業方法: 論文講読と対話と調査研究の検討による

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
2. 問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
3. 問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
4. 問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
5. 問題設定についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
6. リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
7. リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
8. リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
9. リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
10. リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
11. リサーチ方法についてのディスカッション	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
12. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
13. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
14. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
15. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
16. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
17. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
18. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
19. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
20. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
21. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
22. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
23. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
24. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
25. リサーチ結果の経過報告	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
26. レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
27. レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
28. レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
29. レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。
30. レポート執筆指導	各自必要と思われる準備を考え、準備してくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業時およびいつでも研究室にて対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業時の報告資料とディスカッション	50%	適切に情報を処理できているか。自ら考えて資料を作成できているか。主体的に考察できているか。
レポート	50%	リサーチクエスションは的確か。問題を解決するための方法は適切か。推論の根拠となる事実の検討とは適切か。論理的に整合性があり首尾一貫した文章で論述できているか。先行研究の検討は適切か。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力、

教員との連絡方法: Emailまたは来室

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語教育と社会の動きを読み取る。

授業の概要: 社会の動きによって日本語教育がどのように変わってきたかを、制度・学習者・教師・教材・学習内容・指導法などの点から考察する。当然そこには現実の社会の動きのみならず、日本語教育の周辺領域の変化も加わることとなるが、そうしたものにも目を向けていく。

到達目標: 学位論文の執筆ができるだけの知見と洞察力の獲得、それを論として構成し表出する力の育成を目指す。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	発表の準備
	2. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	3. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	4. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	5. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	6. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	7. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	8. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	9. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	10. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	11. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	12. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	13. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	14. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	15. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	16. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	17. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	18. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	19. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	20. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	21. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	22. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	23. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	24. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	25. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	26. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	27. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	28. 演習及び討議	発表の準備
	29. テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備
	30. 総括	論文執筆の準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 博士課程で学ぶことの意味を自覚し、当初の目標の実現に一步でも近づいてもらいたい。

フィードバックの方法: 授業中のテーマをめぐるやり取りについては教師も指導者としてではなく討論者の一人として加わる。そうした議論を通してフィードバックとしたい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	この課程としてふさわしい視点と内容・構成を持っているかを評価する。

教科書: 都度の指示

参考文献等: 都度の指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: kmaruyam@dw.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 作家の創作の秘密に迫る

授業の概要: 近代の作家を対象とし、文学作品がどのような精神の営みによって生み出されたのかを掘り下げていく。

到達目標: 自立した研究者として作家・作品と向き合えるようになることを目指す。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. はじめに	研究したい作家について考えてくること
	2. 演習	発表の準備
	3. 演習	発表の準備
	4. 演習	発表の準備
	5. 演習	発表の準備
	6. 演習	発表の準備
	7. 演習	発表の準備
	8. 演習	発表の準備
	9. 演習	発表の準備
	10. 演習	発表の準備
	11. 演習	発表の準備
	12. 演習	発表の準備
	13. 演習	発表の準備
	14. 演習	発表の準備
	15. 演習	発表の準備
	16. 演習	発表の準備
	17. 演習	発表の準備
	18. 演習	発表の準備
	19. 演習	発表の準備
	20. 演習	発表の準備
	21. 演習	発表の準備
	22. 演習	発表の準備
	23. 演習	発表の準備
	24. 演習	発表の準備
	25. 演習	発表の準備
	26. 演習	発表の準備
	27. 演習	発表の準備
	28. 演習	発表の準備
	29. 演習	発表の準備
	30. おわりに	今後の課題について考えてくること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	レポートが研究としてのレベルに達しているかどうかで評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メール

FLTナンバー:

授業テーマ: やさしい日本語の系譜

授業の概要: やさしい日本語をテーマに関する種々の文献(辞書類をふくむ)を博搜し批判的に精読する。

到達目標: ①文献を探索する能力をやしなう。
②文献の内容を適切に評価する能力を養う。
③やさしい日本語で表現する能力にみがきをかける。

授業方法: 受講者との議論を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	指示された課題にとりくむ。
2. やさしい日本語の基本事項	指示された課題にとりくむ。
3. やさしい日本語の基本事項	指示された課題にとりくむ。
4. やさしい日本語の基本事項	指示された課題にとりくむ。
5. やさしい日本語の基本事項	指示された課題にとりくむ。
6. やさしい日本語の基本事項	指示された課題にとりくむ。
7. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
8. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
9. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
10. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
11. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
12. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
13. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
14. 文献の紹介・批評	指示された課題にとりくむ。
15. 春学期のふりかえり	指示された課題にとりくむ。
16. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
17. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
18. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
19. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
20. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
21. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
22. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
23. 受講生による調査報告	指示された課題にとりくむ。
24. 学期末レポートのテーマの決定	指示された課題にとりくむ。
25. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。
26. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。
27. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。
28. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。
29. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。
30. 総まとめ	指示された課題にとりくむ。

受講者へのメッセージやアドバイス: 諸先学の研究成果を貪欲に吸収したいものです。

フィードバックの方法: 適宜、個別にまたは全体に対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末レポート	50	到達委目標による。
	授業時の報告	50	到達目標による。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメールによる。

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本近現代文学研究の方法と実践—文学と戦争

授業の概要: 19世紀半ばから現在に及ぶ長い期間に生成した日本近代文学の諸作品を読みながら、その研究と方法について考えます。明治初期に発生した日本近代文学と呼ばれる範疇は、もはや150年ちかくの歴史を持つこととなった。本授業では、その歴史をたどりながら、作品がもつ文学的喚起力を手掛かりに、文学研究の方法を学びます。
具体的には受講生が教科書から任意に作品を選択して、それを基盤に文学分析の様々な方法にアプローチします。特に文学理論の応用をどのように考えていけばいいかについてじっくりと考えていきたいと思います。
受講生は本授業の履修を通じて、文学研究とは何か、という根源的な問題について考えていってもらいたいと望んでいます。

到達目標: 受講生各自が文学研究の目的と、その実践について深い認識を得ること。
文学読解の方法を通じて文学研究の目的を考えること

授業方法: 講義と発表、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本近現代文学の流れ1 明治期文学と近代化への目覚め	日本近代文学史の概略を学習する
2.	日本近現代文学の流れ2 大正期から昭和期の文学勃興期	日本近代文学史の概略を学習する
3.	日本近現代文学の流れ3 昭和文学と戦争	日本近代文学史の概略を学習する
4.	日本近現代文学の流れ4 近現代文学における戦争表象	日本近代文学史の概略を学習する
5.	日本近現代文学の流れ5 同時代文学とヒューマニティ	日本近代文学史の概略を学習する
6.	プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
7.	プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
8.	プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
9.	プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
10.	プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
11.	プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
12.	プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
13.	プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
14.	プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
15.	総合討議	前期末レポート作成の準備
16.	日本文学研究と文学理論1 戦争論	文学理論の読解と質問
17.	日本文学研究と文学理論2 文体論	文学理論の読解と質問
18.	日本文学研究と文学理論3 構造主義からポスト構造主義へ	文学理論の読解と質問
19.	日本文学研究と文学理論4 ジェンダー理論	文学理論の読解と質問
20.	日本文学研究と文学理論5 ポストコロニアル理論	文学理論の読解と質問
21.	プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
22.	プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
23.	プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
24.	プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
25.	プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
26.	プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
27.	プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
28.	プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
29.	プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
30.	総合討議	後期レポート作成と準備

受講者へのメッセージやアドバイス: この授業では日本文学における戦争の問題を研究するというのがどのような意味を持ち、またその実践に向けてどのような基礎知識を学習しなければならないかについて勉強します。自分の主たる研究テーマに沿って、受講生は自由にそのテーマを考えてゆくとともに、具体的な作品分析の方法についても学びます。毎授業時に出たトピックについて、毎回それを身に付けていくスキルを獲得してください。

フィードバックの方法:	学生自身の専攻分野を問わず、各自の修士論文に資するように、研究技能の習得を目指します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業の参加度	50	授業の出席、課題の進捗状況などを加味して総合的に判断する
	各期末レポート	30	
	発表	20	
教科書:	中川成美『戦争をよむー70冊の小説案内』(岩波新書、2017)		
参考文献等:	受講時に各自に指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、文学理論の読解力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業時に指示します		

FLTナンバー:

授業テーマ: 平安朝和歌表現から研究する

授業の概要: 百人一首をテキストにして、和歌の表現の扱い方について論じる。

到達目標: 各自問題点を提起し、国歌大観などの検索を通して論文として書けるようになる。

授業方法: 講義中心だが、検索作業や発表も含む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	概論。一年間の予定などを確認する。いろいろな参考資料が使えるようにする。	担当したい和歌を考えてくる。
2.	和歌の技法を考える(1)掛詞	複数の辞書を調べてみる。
3.	和歌の技法を考える(2)縁語	国歌大観で検索してみる。
4.	和歌の技法を考える(3)枕詞	サイニーで検索してみる。
5.	和歌の技法を考える(4)序詞	ジャパンナレッジで検索してみる。
6.	和歌の技法を考える(5)歌枕	国文学研究資料館の論文目録で検索してみる。
7.	和歌の表現を考える(1)歌語・非歌語	注釈書で検索してみる。
8.	和歌の表現を考える(2)春夏秋冬	歌語辞典などを調べてみる。
9.	和歌の表現を考える(3)時間表現	先行文献を批判的に読む
10.	和歌の表現を考える(4)後朝	問題点のセールスポイントを明確にしてみる。
11.	和歌の物語性を考える(1)伊勢物語	用例の分類を通して方向性を定められるようにする。
12.	和歌の物語性を考える(2)蜻蛉日記	レポート執筆に際しての論の展開を考える。
13.	和歌の物語性を考える(3)枕草子	自身の解釈や発見と先行文献との違いを明確にする。
14.	和歌の物語性を考える(4)十訓抄	論をさらに深めるような工夫を考える。
15.	前半の総括	見直しをして誤字などを修正する。
16.	初出表現や用例の少ない表現をみつけていく。	国歌大観を活用する
17.	特定の表現の歴史的変遷をたどる。	国歌大観を活用する
18.	特定の表現の傾向を把握する。	国歌大観を活用する。
19.	『万葉集』などとの訓読の違いを理解する。	
20.	勅撰集や私家集との設定状況の違いを理解する。	
21.	和歌と散文での状況の違いを理解する。	
22.	藤原定家の引歌を考える。	
23.	藤原定家以外の引歌を考える。	
24.	百人一首の古注と新注の違いを考える。	
25.	百人一首歌の解釈の分かれについて考えてみる。	
26.	各自のテーマに基づいて研究発表を行なう。	
27.	各自のテーマに基づいて研究発表を行なう。	
28.	レポート作成を目指して議論を深める。	
29.	レポート作成をめざして議論を深める。	
30.	総括を行なう。	

受講者へのメッセージやアドバイス: 日本の古典文学における和歌の特殊性を、自らの作業を通して認識してもらいたい。

フィードバックの方法: 授業時常に質問の時間を設ける。また発表などを行なった場合は必ずそれについての意見交換を行なう。レポートの添削も行なっていく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	8割	年度末提出のレポートによって評価する。
	出席	2割	普段の授業への出席・参加度を評価する。

教科書: 吉海直人『読んで楽しむ百人一首』(角川書店)

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法: 原則は研究室で対応する。その他メールなどによる連絡も可能。

FLTナンバー:

授業テーマ: オペラ作品の歌唱とその表現

授業の概要: オペラ作品のアリア、重唱の歌唱、演技を通じて音楽作品再現時に、自分自身の個性と音楽スタイルの調和をどう図るか演習・演唱を通じて考察する。

到達目標: 作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。

授業方法: 演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、及び声質に合う曲目の選択。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
2. モーツァルト作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
3. モーツァルト作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
4. モーツァルト作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
5. モーツァルト作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
6. モーツァルト作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
7. ロッシーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
8. ロッシーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
9. ロッシーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
10. ロッシーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
11. ドニゼッティ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
12. ドニゼッティ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
13. ドニゼッティ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
14. ドニゼッティ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。
15. 研究発表	
16. ヴェルディ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
17. ヴェルディ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
18. ヴェルディ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
19. ヴェルディ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
20. プッチーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
21. プッチーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
22. プッチーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
23. プッチーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
24. プッチーニ作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。

- | | | |
|-----|----------------|--|
| 25. | 各自の個性に合った作品研究① | 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。 |
| 26. | 各自の個性に合った作品研究② | 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。 |
| 27. | 各自の個性に合った作品研究③ | 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。 |
| 28. | 各自の個性に合った作品研究④ | 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。 |
| 29. | 各自の個性に合った作品研究⑤ | 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。 |
| 30. | 研究発表 | |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
研究発表	40%	研究発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書: その都度指定する。

参考文献等: 授業内で紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール

FLTナンバー:

授業テーマ: 非和声音を含む四声体和声

授業の概要: 非和声音を用いたバス課題とソプラノ課題の実習

到達目標: 正確かつ美しい四声体和声を書くスキルを習得

授業方法: 課題実習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の概要の説明と準備	教科書を整える
	2. 個別指導1	課題実習
	3. 個別指導2	課題実習
	4. 個別指導3	課題実習
	5. 個別指導4	課題実習
	6. 個別指導5	課題実習
	7. 個別指導6	課題実習
	8. 個別指導7	課題実習
	9. 個別指導8	課題実習
	10. 個別指導9	課題実習
	11. 個別指導10	課題実習
	12. 個別指導11	課題実習
	13. 個別指導12	課題実習
	14. 個別指導13	課題実習
	15. 個別指導14	課題実習
	16. 個別指導15	課題実習
	17. 個別指導16	課題実習
	18. 個別指導17	課題実習
	19. 個別指導18	課題実習
	20. 個別指導19	課題実習
	21. 個別指導20	課題実習
	22. 個別指導21	課題実習
	23. 個別指導22	課題実習
	24. 個別指導23	課題実習
	25. 個別指導24	課題実習
	26. 個別指導25	課題実習
	27. 個別指導26	課題実習
	28. 個別指導27	課題実習
	29. 個別指導28	課題実習
	30. 総合	課題実習

受講者へのメッセージやアドバイス: 和声法I、和声法II、和声法II、和声法IV、和声法V、和声法VI、和声法VII、和声法VIIIの内容を理解していることが望ましい。

フィードバックの方法: 毎回の授業でフィードバック

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題実習	80	
	平常点	20	学習態度による平常点

教科書: 和声―理論と実習 III（音楽之友社）
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第9巻 9a Textes (Leduc)
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第10巻10a Textes第10巻 (Leduc)

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、構成力

教員との連絡方法: 研究室で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: スペイン音楽研究

授業の概要: スペイン音楽の歴史は、ローマ帝国の植民地だった古代から始まり、イスラム教徒たちによる占領時代のアラビア音楽の影響、多くのロマの人々の存在によるジプシー音楽の影響、そして地域ごとに非常に特色のある民俗音楽の展開、そして近現代におけるヨーロッパ近隣諸国からの影響などで、非常に複雑なものとなっている。そのような複雑な音楽史を通史的考察により把握しようと試みる。

到達目標: 知識・理解: 英語による読解によってスペイン音楽史を理解する。
関心・意欲・態度: 毎回の予習復習によって授業内容を深める。
表現・技能・能力: 最終レポートによって自らの知識をまとめる。

授業方法: Gilbert Chase, The Music of Spain (Dover, 1960)を読み進めて行く。必要に応じて参考資料などを配布し、視聴覚資料についても当該機器を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入: スペイン音楽	スペイン音楽についての興味を探る。
2.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」1	「ルネサンス時代の世俗音楽」1の部分を読んでおく。
3.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」2	「ルネサンス時代の世俗音楽」2の部分を読んでおく。
4.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」3	「ルネサンス時代の世俗音楽」3の部分を読んでおく。
5.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」1	「初期ギターの巨匠たち」1の部分を読んでおく。
6.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」2	「初期ギターの巨匠たち」2の部分を読んでおく。
7.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」3	「初期ギターの巨匠たち」3の部分を読んでおく。
8.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」1	「オルガン奏者と音楽理論家」1を読んでおく。
9.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」2	「オルガン奏者と音楽理論家」2を読んでおく。
10.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」3	「オルガン奏者と音楽理論家」3を読んでおく。
11.	テキスト講読。「スカルラッティを中心として」1	「スカルラッティを中心として」1を読んでおく。
12.	テキスト講読。「スカルラッティを中心として」2	「スカルラッティを中心として」2を読んでおく。
13.	テキスト講読。「スカルラッティを中心として」3	「スカルラッティを中心として」3を読んでおく。
14.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」1	「アルベニスとグラナドス」1を読んでおく。
15.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」2	「アルベニスとグラナドス」2を読んでおく。
16.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」3	「アルベニスとグラナドス」3を読んでおく。
17.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」1	「マヌエル・デ・ファリャ」1を読んでおく。
18.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」2	「マヌエル・デ・ファリャ」2を読んでおく。
19.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」3	「マヌエル・デ・ファリャ」3を読んでおく。
20.	テキスト講読。「若い世代」1	「若い世代」1を読んでおく。
21.	テキスト講読。「若い世代」2	「若い世代」2を読んでおく。
22.	テキスト講読。「若い世代」3	「若い世代」3を読んでおく。
23.	テキスト講読。「名演奏家たち」1	「名演奏家たち」1を読んでおく。
24.	テキスト講読。「名演奏家たち」2	「名演奏家たち」2を読んでおく。
25.	テキスト講読。「名演奏家たち」3	「名演奏家たち」3を読んでおく。
26.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」1	「イベリアの民族音楽」1を読んでおく。
27.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」2	「イベリアの民族音楽」2を読んでおく。
28.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」3	「イベリアの民族音楽」3を読んでおく。
29.	テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」1	「1941年以後のスペイン音楽」1を読んでおく。
30.	テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」2	「1941年以後のスペイン音楽」2を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメントおよび解説をする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する

教科書: プリント

参考文献等: 講義時に適宜必要に応じ指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

音楽美学研究

哲学的観点から音楽美学を捉え直す方法を探る。そのために、哲学と芸術、哲学と音楽(美学)の接点において重要な役割を果たした著作を、なるべく原文(最低限、英文)によって読み解いてゆく。具体的には、ショーペンハウアー、ニーチェ、ベルグソン、フッサール、ハイデッガー、ズッカーカンドル、ダールハウス、ダニエル・シャルルなどの著作から適宜選択する。

知識・理解:テキストの講読によって哲学的観点による音楽美学を理解する。
関心・意欲・態度:毎回の予習復習によって関心をもって学習する。
表現・技能・能力:学習によって得られた知識にもとづき自らの思考を構築する。

テキスト(主に英文)の講読と討論。

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入とテキスト選定。	自らの音楽美学的興味について考えておく。
2. 講読(テキスト1〜3頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト1〜3頁部分を読んでおく。
3. 講読(テキスト4〜6頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト4〜6頁部分を読んでおく。
4. 講読(テキスト7〜9頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト7〜9頁部分を読んでおく。
5. 講読(テキスト10〜12頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト10〜12頁部分を読んでおく。
6. 講読(テキスト13〜15頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト13〜15頁部分を読んでおく。
7. 講読(テキスト16〜18頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト16〜18頁部分を読んでおく。
8. 講読(テキスト19〜21頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト19〜21頁部分を読んでおく。
9. 講読(テキスト22〜24頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト22〜24頁部分を読んでおく。
10. 講読(テキスト25〜27頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト25〜27頁部分を読んでおく。
11. 講読(テキスト28〜30頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト28〜30頁部分を読んでおく。
12. 講読(テキスト31〜33頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト31〜33頁部分を読んでおく。
13. 講読(テキスト34〜36頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト34〜36頁部分を読んでおく。
14. 講読(テキスト37〜39頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト37〜39頁部分を読んでおく。
15. 講読(テキスト40〜42頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト40〜42頁部分を読んでおく。
16. 講読(テキスト43〜45頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト43〜45頁部分を読んでおく。
17. 講読(テキスト46〜48頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト46〜48頁部分を読んでおく。
18. 講読(テキスト49〜51頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト49〜51頁部分を読んでおく。
19. 講読(テキスト52〜54頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト52〜54頁部分を読んでおく。
20. 講読(テキスト55〜57頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト55〜57頁部分を読んでおく。
21. 講読(テキスト58〜60頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト58〜60頁部分を読んでおく。
22. 講読(テキスト61〜63頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト61〜63頁部分を読んでおく。
23. 講読(テキスト64〜66頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト64〜66頁部分を読んでおく。
24. 講読(テキスト67〜69頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト67〜69頁部分を読んでおく。
25. 講読(テキスト70〜72頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト70〜72頁部分を読んでおく。
26. 講読(テキスト73〜75頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト73〜75頁部分を読んでおく。
27. 講読(テキスト76〜78頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト76〜78頁部分を読んでおく。
28. 講読(テキスト79〜81頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト79〜81頁部分を読んでおく。
29. 講読(テキスト82〜84頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト82〜84頁部分を読んでおく。
30. 講読(テキスト85〜87頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト85〜87頁部分を読んでおく。

レポートについては、可能な範囲で、コメント・解説をする

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する。
授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する。

プリント

適宜指示する。

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

Eメール:rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: フィクション論から文学研究を考える ―文学と批評の哲学―

授業の概要: 文学を論じるとはどのような営みなのか。さらには、文学だけではなく、映画やアニメなど、フィクションと呼ばれるさまざまな表象を研究対象とするとはどのような行為なのか。「フィクションと何か」「フィクションを研究するとは何をする事なのか」といった基本的な問いは、これらフィクションの研究にとって重要でありながら、明確に答えることの難しい問いである。この授業では文学研究に関わるこのような原理的な問題について、主に近年の分析美学の成果を参照しながら理解を深めることを目的とする。

到達目標: 1.フィクションの主要な定義について説明できる
2.フィクションの研究の目的について説明できる

授業方法: 毎週、特定の文献を講読し、その内容について議論しながら理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(授業の進め方、発表スケジュール)	
2.	文学研究は客観的であるべきか1	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
3.	文学研究は客観的であるべきか2	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
4.	文学研究は客観的であるべきか3	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
5.	文学研究は客観的であるべきか4	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
6.	評価される作品とはどのような作品であるべきか1	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
7.	評価される作品とはどのような作品であるべきか2	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
8.	評価される作品とはどのような作品であるべきか3	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
9.	評価される作品とはどのような作品であるべきか4	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
10.	文学研究はどのような要素によって構成されているか1	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
11.	文学研究はどのような要素によって構成されているか2	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
12.	文学研究はどのような要素によって構成されているか3	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
13.	文学研究はどのような要素によって構成されているか4	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
14.	春学期のまとめ1	
15.	春学期のまとめ2	
16.	春学期の復習	
17.	表象体とごっこ遊び	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
18.	フィクションとノンフィクション	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
19.	表象の対象	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
20.	生成の機構	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
21.	謎と問題点	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
22.	参加すること	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
23.	心理的な参加	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
24.	絵画的描出による表象	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
25.	言語的表象体	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
26.	架空の存在者をしりぞける	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
27.	存在	教科書の該当章をあらかじめ読んでおく
28.	秋学期のまとめ1	
29.	秋学期のまとめ2	
30.	秋学期のまとめ3	

受講者へのメッセージやアドバイス: ★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！
受講人数にもよるが、教科書やより専門的な文献の内容を毎週読んでくる作業が課される。

フィードバックの方法: 授業中に発表に対してコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	報告・議論の内容	60	※欠席:1回……5点、2回……15点、3回……30点、4回……50点
	期末レポート	40	

教科書: ノエル・キャロル『批評について 芸術批評の哲学』(勁草書房、2017)
ケンダル・ウォルトン『フィクションとは何か ごっこ遊びと芸術』(名古屋大学出版会、2016)

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 学内メール: kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の配慮表現に関する研究

授業の概要: 日本語の配慮表現に関わる最新の論文を読み、研究の動向を知ると同時に、論文の読み方を学び、仮に設定したテーマに関わるレビューを作成する

到達目標: ①日本語の配慮表現についての知識を得る。(知識・理解)
②身近な日本語の配慮表現について関心をもち、説明できるようにする(関心・意欲・態度)
③日本語の配慮表現に関する論文のサマリーを簡潔にまとめることができる。(表現・技能)

授業方法: 講義とディスカッションを中心に進める。説明を聞いた上で、各自が担当する論文を精読してきた上で要約して説明し、その内容についてディスカッションを行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス・担当決め	特になし
2.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
3.	担当者による報告とディスカッション	こと。
4.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
5.	担当者による報告とディスカッション	こと。
6.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
7.	担当者による報告とディスカッション	こと。
8.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
9.	担当者による報告とディスカッション	こと。
10.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
11.	担当者による報告とディスカッション	こと。
12.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
13.	担当者による報告とディスカッション	こと。
14.	春学期講読分のまとめ1	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
15.	春学期講読分のまとめ2	こと。
16.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
17.	担当者による報告とディスカッション	こと。
18.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
19.	担当者による報告とディスカッション	こと。
20.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
21.	担当者による報告とディスカッション	こと。
22.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
23.	担当者による報告とディスカッション	こと。
24.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでく
25.	秋学期講読分のまとめ	こと。
26.	年間講読分のまとめ	特になし
27.	仮想の課題についての「レビュー」を各	特になし
28.	レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成
		レビュー原案の作成

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 授業中に解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加と貢献度	50%	各授業の発表や質疑応答により、到達目標①②の達成度を評価する。
	レポート	50%	レポートにより、到達目標③の達成度を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、
Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

FLTナンバー:

授業テーマ: 近世の絵本と古典文化 近世の女性表象と風俗

授業の概要: 西川祐信や菱川師宣の絵本には、日本の古典文化が題材になっています。本授業では、西川祐信筆『絵本徒然草』や菱川師宣『美人絵つくし』等の女性を主題とする絵本の分析を中心に、近世の日本文化や書物文化史を論じるための基本的な視座と方法の修得を目指します。

到達目標: 近世期の絵本と浮世絵師の関わりを理解できる。
平仮名を中心にくずし字を読むことができる。
近世の版本を中心に書誌学的な視点から書物を理解し、説明することができる。
各自の関心によって課題を掘り下げ、適切な言葉を用いて説明できる。
他の受講者の発表をよく聞き、積極的に発言し、課題を共有することができる。

授業方法: 講義および個人発表 講義や文献講読を中心とした絵巻や絵入り本の基礎知識の修得と、受講者各自で作品を選び、分析し、発表するという、二本の柱で演習を進めていきます。発表は短いものを2回～3回行ってもらいます。受講者数や受講者の関心に応じて論文や調査課題、発表内容を変更することがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の概要説明 資料配布	不要
	2. 西川祐信『絵本徒然草』について 資料の配布	事前に配布された資料を読んで、自分なりの見解を述べられるようにしておく。
	3. 文献講読 松平進「古典の大衆化と祐信絵本」(1)	事前に配布された論文を読んでおき、疑問点や意見が述べられるようにしておく。
	4. 文献講読 松平進「古典の大衆化と祐信絵本」(2)	事前に配布された論文を読んでおき、疑問点や意見が述べられるようにしておく。
	5. 西川祐信絵本の調査 資料の配布	これまでの授業内容を復習する。
	6. 文献講読 小池藤五郎「絵本文学の大家西川祐信と徒然草」	事前に配布された資料を読んでおき、疑問点や意見が述べられるようにしておく。
	7. 受講者による調査課題の報告(1)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	8. 受講者による調査課題の報告(2) 資料の配布	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	9. 受講者による調査課題の報告(3)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	10. 文献講読 横田冬彦『「徒然草」は江戸文学か?—書物史における読者の立場—	事前に配布された論文を読んでおき、疑問点や意見が述べられるようにしておく。
	11. レポート・論文の執筆について	後半の発表課題にむけて各自用意をすすめる。
	12. 受講者による発表と討論(1)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	13. 受講者による発表と討論(2)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	14. 受講者による発表と討論(3)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	15. まとめと補足	これまでの授業や課題を振り返り、各自の研究に活かせる視座を整理する。
	16. 授業の概要説明 資料配布	初期の浮世絵師について事典などで予習をしておく。
	17. 菱川師宣『美人絵つくし』について 資料の配付	事前に配布された資料を読んで、自分なりの見解を述べられるようにしておく。
	18. 文献講読 鈴木淳「菱川師宣絵づくし考」(1)	事前に配布された資料を読んで、自分なりの見解を述べられるようにしておく。
	19. 文献講読 鈴木淳「菱川師宣絵づくし考」(2)	事前に配布された資料を読んで、自分なりの見解を述べられるようにしておく。
	20. 菱川師宣絵本の調査 資料の配付	これまでの授業内容を復習する。
	21. 文献講読 日野原健司『「大和絵つくし」にみる菱川師宣の「大和絵」学習について」	事前に配布された論文を読んでおき、疑問点や意見が述べられるようにしておく。
	22. 受講者による調査課題の報告(1)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	23. 受講者による調査課題の報告(2)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	24. 受講者による調査課題の報告(3) 資料配付	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	25. 文献講読 塩村耕「近世文学と師宣絵本」	事前に配布された資料を読んで、自分なりの見解を述べられるようにしておく。
	26. 文献講読 信多純一「師宣慕効—延宝三年江戸四座役者付考」	事前に配布された資料を読んで、自分なりの見解を述べられるようにしておく。
	27. 受講者による発表と討論(1)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	28. 受講者による発表と討論(2)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	29. 受講者による発表と討論(3)	発表担当者は各自の関心に基づき、発表内容と資料を吟味してのぞむ。
	30. まとめと補足	これまでの授業や課題を振り返り、各自の研究に活かせる視座を整理する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 上記の予定は、受講者の関心や取り組みに応じて、変更することがあります。近世の絵本を書物文化に位置づけることを意識しながら、浮世絵を代表する西川祐信と菱川師宣の絵本の世界を読み解いていきましょう。春期は、近世の風俗を意識して描かれた徒然草の章段を、秋期は古浄瑠璃や説経、舞の本など芸能文化に登場する女性表象の分析を通して、近世期に開花する古典文化の再創造の諸相をとらえて考えていきます。

中世の絵巻や近世の風俗画といった美術史、近世の風俗や女性の服飾などの文化史、語り物や浄瑠璃などの芸能史など幅広く文化史に関心がある方の受講も歓迎します。

フィードバックの方法：
授業時間内で質問や疑問に答える。また、各自の発表についてもコメントをする。発表者だけでなく、他の受講者も課題を共有できるように適宜授業内容をふりかえる機会を設ける。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個別発表	40	近世の絵本に関して、基本図書を用いた調査し、その成果を適切な言葉を用いて報告できたか(知識・表現・関心・意欲)。
	レポート	40	個別発表の成果と質疑をふまえて、各自の関心にそくしたレポートを書くことができたか(知識・理解・表現・技能)。
	受講姿勢	20	他の受講者の発表に対して積極的に意見を述べることができたか(関心・意欲)。

教科書：小川剛生訳注『徒然草』(角川ソフィア文庫)

参考文献等：横田冬彦『日本近世書物文化史の研究』(岩波書店)
川平敏文『徒然草の十七世紀』(岩波書店)
稲田利徳『徒然草論』(笠間書院)
浅野秀剛『菱川師宣と浮世絵の黎明』(東京大学出版会)
鈴木淳、浅野秀剛編『江戸の絵本』(八木書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：基本的に授業時間前後で対応します。詳細は授業時に指示します。

FLTナンバー:

授業テーマ: 20世紀前半の東アジアの「外地」の娯楽空間をめぐる旅

授業の概要: 日本には多種多様な音楽・芸能が存在し、それらを創出し奏でるパフォーマー、視聴するオーディエンスにより育まれてきた。またその中にはプロフェッショナルな立場とアマチュアの立場を往来しながら音楽文化活動を行っているものもある。そして娯楽・教養を提供する劇場や映画館や学校などのハード面の創設とその場で展開されるパフォーマンスが、オーディエンスに感動をもたらすのである。本演習では、20世紀前半の遼東半島の大連(含朝鮮半島の京城(ソウル))における、多様な娯楽空間の成立とその展開を概観し、そのパフォーマンス(日本人と欧米人)の多様なプログラムについて、内地における公演と比較しながら考察を行う。

到達目標: 本演習では、1)大連・京城の都市空間における娯楽を提供する「場」がどのように立ち現れ、その背後にある経済界のサポートの仕掛け、内地の事例との関係性について、2)内地から両半島へのツアーがどのように実施されていたか、3)そのパフォーマンスの内容の意義、4)オーディエンスの反応を、現地で発行された邦字新聞を基に理解を深め、現代のパフォーマーやパフォーマーに対する評価との共通点と相違点について理解する力を身につける。

授業方法: 講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	20世紀前半の東アジアにおける「外地」とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
2.	朝鮮半島・遼東半島への航路	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
3.	朝鮮半島内／から遼東半島・欧州への鉄道網	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
4.	京城(ソウル)の劇場・映画館・公会堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
5.	奉天(瀋陽)・新京(長春)・哈爾浜の劇場・映画館・公会堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
6.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(1)「大連歌舞伎座」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
7.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(2)大連「電気遊園」の音楽堂・演芸館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
8.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(3)大連基督教青年会館／大連ヤマトホテル	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
9.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(4)大連西公園の「大連能楽堂」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
10.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(5)「大連劇場」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
11.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(6)南満州鉄道「社員倶楽部」と「協和会館」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
12.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(8)大連連鎖街の演芸館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
13.	大連の娯楽空間:ライブ視聴の場(7)「大連能楽殿」	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
14.	遼東半島・朝鮮半島における各種公演が行われた諸学校の講堂	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
15.	大連の娯楽空間:映画館	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
16.	<和物>ライブ公演:歌舞伎(含新派劇)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
17.	<和物>ライブ公演:能楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
18.	<和物>ライブ公演:浄瑠璃	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
19.	<和物>ライブ公演:近世邦楽と日本舞踊	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
20.	<和物>ライブ公演:浪曲・落語など	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
21.	<和物・洋物>混合プログラム:演芸大会	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
22.	<和物・洋物>混合プログラム:女性奇術師の公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
23.	<洋物>ライブ公演:外地／内地の少女歌劇	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
24.	<洋物>ライブ公演:世界的に活躍する男性クラシック声楽家	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
25.	<洋物>ライブ公演:世界的に活躍する女性クラシック声楽家	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
26.	<洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のバイオリニスト	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
27.	<洋物>ライブ公演:世界的に活躍する欧米のピアニスト	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
28.	<和物>映画の上映:無声映画・トーキー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
29.	<洋物>映画の上映:無声映画・トーキー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
30.	<草創期のラジオ放送>JQAK(大連放送局)／JOAK・JOBKからの中継	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者への メッセージや アドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの 方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	55%	課題各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	25%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、ディスカッション	20%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考文献等:	講義時に適宜、提示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

モンポウ研究

20世紀スペインで最重要な作曲家であるフラダリック・モンポウについて、その生涯と作品の関係について検討する。特に激動の20世紀スペインにおいてモンポウの生まれ育ったバルセロナ、カタルーニャは、常にマドリッド中央政府と緊張関係にあったと同時に、文化・言語・地理上フランス、パリと密接な関係があり、この複雑な政治・文化的状況がモンポウの音楽に及ぼした影響についても考慮する。

作曲家の生涯とその作品にはどのような関係があるのかを、政治・経済・文化的な様々な要素を考慮にいれながら詳細に探り、音楽学的研究の手続きを学ぶ。

講義と演習

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入1:スペイン音楽史	スペイン音楽史について調べる
2.	導入2:カタルーニャの歴史	カタルーニャの歴史について調べる
3.	1893年モンポウ生誕	1893年当時のバルセロナの状況について調べる
4.	1894～1910年少年期の経験・学習	モンポウ少年期について調べる
5.	1911～1913年パリ留学	モンポウのパリ留学について調べる
6.	1914～1920年バルセロナでの活動、初期作品群、ブランカフォルトとの友情	バルセロナ時代初期作品について、当時の政治経済文化状況、交友関係について調べる。作曲家ブランカフォルトについて調べる。
7.	1920年《魔法の歌》出版	《魔法の歌》について調べる
8.	1920～1930年パリ滞在、最初の高評価、さまざまな作品	当時のモンポウの状況(政治・社会・文化的状況、活動状況)について調べる
9.	《歌と踊り》第1番ほかの作品	《歌と踊り》第1番ほかの作品について調べる
10.	1930～1940年《前奏曲集》ほかの作品1	《前奏曲集》ほかの作品について調べる1
11.	1930～1940年《前奏曲集》ほかの作品2	《前奏曲集》ほかの作品について調べる2
12.	当時のヨーロッパの政治状況(スペイン内戦)	当時のヨーロッパ政治状況について調べる
13.	1941～1945年バルセロナ帰還と最初の栄誉	当時の作品や状況について調べる
14.	1945～1951年さまざまな作品	当時の作品や状況について調べる
15.	1952年サン・ジョルディのアカデミアで教鞭	当時の作品や状況について調べる
16.	1953～1957年母親の死と自らの結婚	当時の作品や状況について調べる
17.	1958年コンポステラ音楽祭での教授職	コンポステラ音楽祭について調べる
18.	1959年《ひそやかな音楽》第1集	《ひそやかな音楽》第1集について調べる
19.	1960～1962年さまざまな作品	当時の作品や状況について調べる
20.	1963年オラトリオ《Improperios》	オラトリオ《Improperios》について調べる
21.	1965年《ひそやかな音楽》第3集	《ひそやかな音楽》第2集、第3集について調べる
22.	1967年《ひそやかな音楽》第4集	《ひそやかな音楽》第4集について調べる
23.	1970年《Bequerianas》	《Bequerianas》について、詩人グスタボ・アドルフォ・ベケールについて調べる
24.	1973年《ポール・ヴァレリーの五つの歌曲》	《ポール・ヴァレリーの五つの歌曲》について、詩人ポール・ヴァレリーについて調べる
25.	1978年《歌と踊り》第14番	《歌と踊り》シリーズについて調べる
26.	《歌と踊り》シリーズ	《歌と踊り》シリーズについて調べる
27.	1979～1987年最晩年と死	当時の作品や状況について調べる
28.	作曲家の生涯と作品について1	作曲家の生涯と作品について学問的に考えてくる1
29.	作曲家の生涯と作品について2	作曲家の生涯と作品について学問的に考えてくる2
30.	まとめ	今までの学習成果をまとめる

毎回前回の振り返りを行う

	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50	授業準備を毎回きちんと行い、授業中に積極的に発言するなど、前向きに参加しているか
	最終レポート	50	授業内容をきちんと自分のものとしているか

Clara Janés, La vida callada de Federico Mompou, Vaso Roto, Madrid, 2012.

分析力, 思考力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 自己管理力, 自己実現力

メール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

専門実技

各専攻実技担当者

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

1. 個人指導①

2. 個人指導②

3. 個人指導③

4. 個人指導④

5. 個人指導⑤

6. 個人指導⑥

7. 個人指導⑦

8. 個人指導⑧

9. 個人指導⑨

10. 個人指導⑩

11. 個人指導⑪

12. 個人指導⑫

13. 個人指導⑬

14. 個人指導⑭

15. 個人指導⑮

準備学習等の内容

授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法

実技試験

割合

100%

評価基準

到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

FLTナンバー:			
授業テーマ:	専門実技		
授業の概要:	声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)		
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。		
授業方法:	個人指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。
教科書:	学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。		
参考文献等:	学生各々に対応した資料を適宜指定する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール		

FLTナンバー:

授業テーマ: 世界遺産富士山の保護と活用

授業の概要: 本演習では、静岡県富士宮市富士山世界遺産課の御指導の下、UNESCO世界文化遺産に登録されている富士山を対象としたプロジェクトに従事します。
このような計画の下、当該機関の要請を踏まえた上で、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定し、実地調査を企画・実施します。具体的には、富士山観光の拠点である富士宮市におけるインバウンド対応を対象として、現地での幅広い取り組みを学ぶとともに御指導を受けながら、その実現に貢献しうるデータ収集のための観察や聞き取りなどの現地調査を行う予定です。

到達目標: ・実社会が求める課題を理解し対応するための幅広い視野や能力を身に付ける。
・現実課題の解決を前提とした社会調査の方法とスキルを習得する。
・実体験を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。
・自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。

授業方法: 演習形式＆実習形式
・事前学習(1～5回)・事後学習(11～15回)は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。
・事前・事後授業は受講生と日程調整の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。
・プロジェクト実習(6～10回)は実習形式で行い、8月上旬に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。
・受講生の数によりますが、事前と事後ではグループワークを行っていただく予定です。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 事前学習Ⅰ:プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2. 事前学習Ⅱ:プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
3. 事前学習Ⅲ:プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
4. 事前学習Ⅳ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
5. 事前学習Ⅴ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11. 事後学習Ⅰ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12. 事後学習Ⅱ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
13. 事後学習Ⅲ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
14. 事後学習Ⅳ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。

15. 事後学習Ⅴ:総括と評価

プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験とされるとともに、国際的な文化財行政の役割や価値について理解を深められることを期待しています。
昨年度は、富士宮市において現地でご協力いただいた方々を対象とした調査報告会を実施しました。この報告会は、本年度も開催する予定です。

フィードバックの
方法:

・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。
・またレポート(報告書)も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題を理解し対応するための視点・能力」に基づいているか評価します。
レポート	20%	レポート(報告書)は、到達目標である「自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」に基づいて制作できているか評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である「社会調査のため方法とスキル」を習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

FLTナンバー:

授業テーマ: 北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査

授業の概要: 北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光的・地理学的・社会学など幅広い観点から実体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。

到達目標: 1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。
2: 観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。
さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。

授業方法: 事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認
2.	富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認
3.	地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認
4.	北海道富良野における現地学習調査 富良野地域の概要	配布資料の確認
5.	北海道富良野における現地学習調査 ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認
6.	北海道富良野における現地学習調査3 地域の食を通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習
7.	北海道富良野における現地学習調査3 スイーツを通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習
8.	北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習
9.	北海道富良野における現地学習調査1 鳥沼公園での自然学習2	現地の状況に関する予備学習
10.	北海道富良野における現地学習調査1 中富良野町長との町政に関する講話	現地の状況に関する予備学習
11.	北海道富良野における現地学習調査 コンテンツツーリズムの展開 研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習
12.	北海道富良野における現地学習調査 ドラマを通じたコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習
13.	北海道富良野における現地学習調査 インスタグラム・SNSを通じたコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習
14.	北海道富良野における現地学習調査 環境と観光1 観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習
15.	北海道富良野における現地学習調査 環境と観光 観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習
16.	北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習
17.	北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理
18.	北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習
19.	北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習
20.	北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析
21.	北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析
22.	北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査
23.	北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食を通じた地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習
24.	北海道富良野における現地学習調査 多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習
25.	北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
26.	北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
27.	現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
28.	現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
29.	全体の総括 (事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり
30.	総括 学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり

受講者へのメッセージやアドバイス: 夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。

フィードバックの方法: 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点 現地調査への参加度	50	到達目標1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。
	プレゼンテーション発表内容	30	到達目標2: 観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
	大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2: 観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する
教科書:	特になし。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう		
参考文献等:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通じた連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。		

FLTナンバー:

授業テーマ: 希望の多世代共創:ロボットのダンス・プログラミングで学ぶ楽しさ・生きる歓びを伝え合う！

授業の概要: これからの時代に必要なのは、答えをないところに新しい未来を拓く【創造力】、そのために多様な人とつながる【共感】力です。
このプロジェクトでは、人型ロボットのロボホン(RoBoHoN)やKOOVを使って、大学生と地域のシニアが協力して、小学生にプログラミングを教えます。プログラミングを通して学ぶ楽しさを伝える方法を、受講生が提案し実践します。この実践における、小学生や高齢者、企業の開発者、小学校の先生方等の多様な人との連携を通して、履修生の個々の「共感」する力「想像力」を発揮するとともに、目的を共有する関わり合いの中での信頼と希望の力の醸成をめざします。

到達目標: (1)現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割を知る
(2)長寿社会の多世代がつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができる。
(3)成果を社会に還元する視点を持って、課題解決に取り組むことができる。

授業方法: 事前学習では、演習形式でプログラミングに関する基礎知識と技術を身につけます。現地学習調査は大学を拠点に、ヒト型ロボットを用いた学習に携わり、社会への公表をめざします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習:グッド・コミュニケーションVSバッド・コミュニケーション	資料講読・観察
2.	事前学習:プログラミング学習の目標確認	資料講読
3.	事前学習:ロボットにダンスを踊らせる	プログラミングソフト試用
4.	事前学習:コミュニケーション・ロボットの活躍	文献・資料講読
5.	現地学習調査1:小学生のニーズを知ろう！	インタビュー
6.	現地学習調査2:プログラミング学習の現状を知ろう！	関連企業・企業ヒアリング
7.	現地学習調査3:ロボット・プログラミングをやってみよう！	プログラミング
8.	現地学習調査4:ワークショップを考えよう	プログラミング・企画案作成
9.	現地学習調査5:チーム別企画	企画案作成
10.	現地学習調査6:チーム別立案・発表	企画案発表準備
11.	現地学習調査7:チーム別再立案・リハーサル	企画案発表準備
12.	現地学習調査8:ワークショップ	ロボットプログラミング
13.	現地学習調査9:チーム別分析	ロボット活用・分析
14.	事後学習:チーム別プレゼン	プレゼン準備
15.	事後学習:全体報告と総評	報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 受講者は、パソコンソフトpower pointの基本操作ができるように練習しておくことが望ましい。

フィードバックの方法: 授業時間内の報告・発表・実施の際に、その都度担当者より評価をコメントとしてフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割の理解。プログラミングの必要性を他者に伝えることのできる技能を評価します。
	授業への参加度	30	長寿社会の人と人がつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができるかを評価します。
	開発の成果	40	開発した成果が、社会の還元を意識されたものであるか、またその実装の可能性を評価します。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: オフィスアワー、初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

FLTナンバー:

授業テーマ: プロジェクト演習「世界遺産富士山の保護と活用」の取り組みを通してリーダーシップを修得する

授業の概要: 本演習では、静岡県富士宮市富士山世界遺産課の御指導の下、UNESCO世界文化遺産に登録されている富士山の保護と活用を対象としたプロジェクトへの参加を通して、リーダーシップの修得を目的とします。
このような目的の下、当該機関の要請を基に実施する、現地調査や地域振興企画などに取り組む受講生の指導・サポートを行っていただきます。具体的には、富士山観光の拠点である富士宮市におけるインバウンド対応を対象とした現地調査と地域振興企画の立案、実施、報告などを行うなかで、受講生の取りまとめ役を担うとともに、ご協力いただいている行政機関の方々や担当教員のサポートなどで主導的役割も担っていただく予定です。
なお本演習は、プロジェクト演習Ⅰを受講し単位を取得した学生に限定します。

到達目標: ・実社会が求める課題に取る組む経験を通してリーダーシップを身に付ける。
・現実課題の解決を前提とした調査や企画を推進するために必要となるリーダーシップを学ぶ。
・リーダーシップの修得を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。

授業方法: 演習形式＆実習形式
・事前学習(1～5回)・事後学習(11～15回)は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。
・事前・事後授業は受講生と日程調整の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。
・プロジェクト実習(6～10回)は実習形式で行い、8月上旬に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。
・受講生の数によりますが、事前と事後ではグループワークを行っていただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 事前学習Ⅰ:プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2. 事前学習Ⅱ:プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
3. 事前学習Ⅲ:プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
4. 事前学習Ⅳ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。
5. 事前学習Ⅴ:プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10. プロジェクト実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11. 事後学習Ⅰ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12. 事後学習Ⅱ:活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
13. 事後学習Ⅲ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。
14. 事後学習Ⅳ:報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。

15. 事後学習Ⅴ：総括と評価

プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス： 本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験としてリーダーシップの修得を目指されるとともに、国際的な文化財行政の役割や価値についても理解を深められることを期待しています。過去2年は、富士宮市において現地でご協力いただいた方々を対象とした調査報告会を実施しました。この報告会は、本年度も開催する予定ですので、その場でもリーダーシップを発揮していただくことを期待しています。

フィードバックの方法： ・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。
・またレポート(報告書)も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題に取る組む経験を通して身に付けたリーダーシップ」に基づいて実施しているか評価します。
	レポート	20%	レポート(報告書)は、到達目標である「現実課題の解決を前提とした調査や企画を推進する際に必要となるリーダーシップ」に基づいて制作できているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である受講生のなかで主導的役割を積極的に何う姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法： オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

FLTナンバー:

授業テーマ: 北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査

授業の概要: 北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光的・地理学的・社会学など幅広い観点から実体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。

到達目標: 1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。
2: 観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。
さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。
3: プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、地域の人々との連絡を緊密に図る力を養う。

授業方法: 事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認
	2. 富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認
	3. 地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認
	4. 北海道富良野における現地学習調査 富良野地域の概要	配布資料の確認
	5. 北海道富良野における現地学習調査 ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認
	6. 北海道富良野における現地学習調査3 地域の食を通した地域振興	現地の状況に関する予備学習
	7. 北海道富良野における現地学習調査3 スイーツを通した地域振興	現地の状況に関する予備学習
	8. 北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習
	9. 北海道富良野における現地学習調査1 鳥沼公園での自然学習2	現地の状況に関する予備学習
	10. 北海道富良野における現地学習調査1 中富良野町長との町政に関する講話	現地の状況に関する予備学習
	11. 北海道富良野における現地学習調査 コンテンツツーリズムの展開 研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習
	12. 北海道富良野における現地学習調査 ドラマを通したコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習
	13. 北海道富良野における現地学習調査 インスタグラム・SNSを通したコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習
	14. 北海道富良野における現地学習調査 環境と観光1 観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習
	15. 北海道富良野における現地学習調査 環境と観光 観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習
	16. 北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通した観光とまちづくり フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習
	17. 北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通した観光とまちづくり フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理
	18. 北海道富良野における現地学習調査 農業を通した観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習
	19. 北海道富良野における現地学習調査 農業を通した観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習
	20. 北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析
	21. 北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析
	22. 北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査
	23. 北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食を通した地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習
	24. 北海道富良野における現地学習調査 多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習
	25. 北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通した発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	26. 北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通した発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	27. 現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	28. 現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	29. 全体の総括 (事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり
	30. 総括 学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり

受講者へのメッセージやアドバイス: 夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。

フィードバックの方法: 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点 現地調査への参加度	40	到達目標1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。
	プレゼンテーション発表内容	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
	大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する
	全体の統括・管理	20	到達目標3:プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、地域の人々との連絡を緊密に図る力を養う。
教科書:	特にない。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう		
参考文献等:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通した連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。		

FLTナンバー:

授業テーマ: 希望の多世代共創:ロボットのダンス・プログラミングで学ぶ楽しさ・生きる歓びを伝え合う！

授業の概要: これからの時代に必要なのは、答えをないところに新しい未来を拓く【創造力】、そのために多様な人とつながる【共感】力です。
このプロジェクトでは、人型ロボットのロボホン(RoBoHoN)やKOOVを使って、大学生と地域のシニアが協力して、小学生にプログラミングを教えます。プログラミングを通して学ぶ楽しさを伝える方法を、受講生が提案し実践します。この実践における、小学生や高齢者、企業の開発者、小学校の先生方等の多様な人との連携を通して、履修生の個々の「共感」する力「想像力」を発揮するとともに、目的を共有する関わり合いの中での信頼と希望の力の醸成をめざします。

到達目標: (1)現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割を知る
(2)長寿社会の多世代がつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができる。
(3)成果を社会に還元する視点を持って、課題解決に取り組むことができる。

授業方法: 事前学習では、演習形式でプログラミングに関する基礎知識と技術を身につけます。現地学習調査は大学を拠点に、ヒト型ロボットを用いた学習に携わり、社会への公表をめざします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習:グッド・コミュニケーションVSバッド・コミュニケーション	資料講読・観察
2.	事前学習:プログラミング学習の目標確認	資料講読
3.	事前学習:ロボットにダンスを踊らせる	プログラミングソフト試用
4.	事前学習:コミュニケーション・ロボットの活躍	文献・資料講読
5.	現地学習調査1:小学生のニーズを知ろう！	インタビュー
6.	現地学習調査2:プログラミング学習の現状を知ろう！	関連企業・企業ヒアリング
7.	現地学習調査3:ロボット・プログラミングをやってみよう！	プログラミング
8.	現地学習調査4:ワークショップを考えよう	プログラミング・企画案作成
9.	現地学習調査5:チーム別企画	企画案作成
10.	現地学習調査6:チーム別立案・発表	企画案発表準備
11.	現地学習調査7:チーム別再立案・リハーサル	企画案発表準備
12.	現地学習調査8:ワークショップ	ロボットプログラミング
13.	現地学習調査9:チーム別分析	ロボット活用・分析
14.	事後学習:チーム別プレゼン	プレゼン準備
15.	事後学習:全体報告と総評	報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 受講者は、パソコンソフトpower pointの基本操作ができるように練習しておくことが望ましい。

フィードバックの方法: 授業時間内の報告・発表・実施の際に、その都度担当者より評価をコメントとしてフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	現代社会におけるテクノロジーの進歩、役割の理解。プログラミングの必要性を他者に伝えることのできる技能を評価します。
	授業への参加度	30	長寿社会の人と人がつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができるかを評価します。
	開発の成果	40	開発した成果が、社会の還元を意識されたものであるか、またその実装の可能性を評価します。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: オフィスアワー、初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

FLTナンバー:

授業テーマ: Model United Nations

授業の概要: This class involves preparing and participating in the Model United Nations event (JEMUN). The event will be held in Osaka in July. It requires a fee and two nights hotel stay. In a Model UN, you will become a Delegate of the United Nations. You choose a country to represent and study about important issues there. At the event, around 300 students from around the world participate. Working together, you will create solutions to global problems and try to find agreement. See this website for more information: <http://www.jemun.net/>

到達目標: Objectives are to improve students' knowledge of the world, negotiation skills, English level and self-confidence

授業方法: Groupwork

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Orientation. Introduction to the Model United Nations	Research and homework
	2. World issues. Introduction to negotiation. Choosing a country	Research and homework
	3. Learning about the issue	Research and homework
	4. Learning about the issue	presentation prep
	5. Informal presentation: country and issue	Research and homework
	6. Learning the meeting protocols of the United Nations Writing a draft resolution	Position paper
	7. Research and discussion. Debate practice and preparation informal and formal debate	Position paper
	8. Research and discussion. Debate practice and preparation Amendments	Position paper
	9. Research and discussion. Debate practice and preparation	Position paper
	10. Speechmaking and negotiation Draft resolution Debate practice	Research and homework
	11. Research and discussion. Draft resolution Debate and preparation	Research and homework
	12. Event participation	Event participation
	13. Event participation	Event participation
	14. Event participation	Event participation
	15. Debriefing	None

受講者へのメッセージやアドバイス: You must be interested in international issues and organisations like the UN or other NGOs. You must be prepared to speak out in English in every class.

フィードバックの方法: Feedback will be given to all presentations and written work

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Debate participation	30	Participation
	Position paper	20	Preparation and quality
	Presentations	20	Preparation and quality
	Homework	10	Participation
	General participation	20	Participation

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: Research Project

授業の概要: After graduating, many students will find themselves working with people from other countries in companies. Even if they do not leave Japan, they may have to communicate with people working in other countries using English. This course requires actively using English to complete a task with team members.
The aims are for students to use English and teamwork skills to do the following:
1) Actively do research by communicating with people in Japan and other countries and to produce something useful to either the university or society.
2) Organize and manage group work to successfully complete a project similar to real world workplaces
3) Present research project findings in English

到達目標: Upon completion of this course, students will understand and be able to use English to do a research project and present a final project report. They will also learn and practice to improve their communication and leadership skills as they gain self-confidence.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. This course will meet 15 times during the year. Even though the course is scheduled for Wednesdays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with groups and individuals in other countries. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for research project
2.	Discuss research skills and how to present research results	Reading and note-taking and preparation for research project
3.	Communication and team building skills 1	Reading and note-taking and preparation for research project
4.	Communication and team building skills 2 and choose research projects	Reading and note-taking and preparation for research project
5.	Discuss research project updates	Reading and note-taking to prepare to begin a research project
6.	Organizational skills & continue research project	Reading and note-taking and working on research project
7.	Discuss research project details with individuals or group in another country	Reading and researching about another country and review important English vocabulary and phrases
8.	Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Reading and researching about another organization in Japan and practice important English vocabulary and phrases
9.	Continue research project	Researching and working to complete project
10.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
11.	Continue research project	Researching and working to complete project
12.	Complete Project	Researching and working to complete project
13.	Complete Project and prepare research report	Work to complete the project and organize report summary
14.	Present research report	Prepare a formal presentation using PowerPoint
15.	Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Self-reflection

受講者へのメッセージやアドバイス: Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give periodic updates and feedback to other groups. They will do this through class discussions on campus, online discussions and through presentations. Students will do outside research, including talking with people in other countries and in Japan, to complete a project.

This course will meet 15 times during the year. Even though the course is scheduled on Mondays, meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete the project. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be class excursions and group travel required depending on the total number of students enrolled. When going off campus, students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used outside the classroom.

フィードバックの方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Research Project updates and final presentation	50%	Presentation contents and preparation
	Research activities organization	40%	Research activities such as gathering background information, planning, and carrying out necessary surveys, and so on
	Group work	10%	Ability and efforts to work as a team

教科書: No Textbook

参考文献等: Will be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

思考力、分析力、リーダーシップ、コミュニケーション力、自己管理力

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: International Tourism and Hospitality

授業の概要: “Tourism and hospitality” is something very familiar theme for many of you. Some of you might be even thinking of choosing a career in tourism and hospitality filed in the future. According to UNWTO (United Nation World Tourism Organization), international tourist arrivals grew 7.0% in 2017, which is the highest increase since the 2009 global economic crisis and well above UNWTO’s long-term forecast of 3.8% per year for the period 2010 to 2020.

The study of tourism and hospitality can cover various topics, such as Economics, Diverse culture, Sociology, Psychology, Geography, Business studies, Political Science, and Law; for instance:

- Tourism destination-Inbound tourism in Japan/Kyoto,
- Tourist’s psychology of buying souvenir,
- Tourism and new technology,
- Tourism and demography change, etc.

Also this course will give you a well-established foundation for your future Seminar work in the area of tourism and hospitality during the third year.

到達目標:

1. The research project should stimulate students to be able to construct knowledge through their various research activities and group discussions.
2. Using English, students will conduct research to solve a real world problem by: (1) studying and planning → (2) taking action → (3) collecting and analyzing evidence → (4) presenting a final product.
3. As a result, students will develop deep content knowledge as well as critical thinking, creativity, and communication skills by doing an authentic and meaningful project
4. Students will work independently as well as in group for the research project
5. This course is student-driven to some significant degree, therefore, they have the chance to reflect on learning, the effectiveness of their project activities, the quality of research work, obstacles and how to overcome them.

In spite of everything, Tourism and Hospitality topic is FUN!

授業方法: Students will conduct research independently and share their findings and update their progress in class. They will work in a team to complete the research project. Active participation is expected. This course will meet 15 times all in all during the academic year. Although the class is scheduled to meet on Thursdays, students will plan which Thursday to meet. There will also be some excursions and group travel required. Students are responsible for any costs. However, discussion and decisions about excursions will be made together. Thus, students can choose not to participate in excursions without penalty.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course introduction and “set the stage”, Introductory activity	Preparation for research project discussion
2. Discuss research project: Essential question – real-world topic and authentic situation around tourism	Read materials and prepare for research project discussion
3. Brainstorm and discuss research project topic: contents, purpose, set direction, targets, & desired outcome	Gather necessary background information for topic
4. Communication and team-work skill building	Reading and researching on the topic
5. Design a plan for the research project: Create a schedule for tasks	Continue reading and researching on the topic
6. Field-work or visit location(s) for research project outside DWC	Summarize Field-work or visit location(s)
7. Share findings from Field-work or visit location(s) and continue research project	Continue reading and researching on the topic
8. Continue research project: Status reports – share update and evaluate the progress	Prepare research project status report
9. Continue research project	Continue reading and researching on the topic
10. Continue research project (If necessary: Field-work or visit location(s) for research project outside DWC #2)	Continue reading and researching on the topic (Summarize Field-work or visit location(s))
11. Continue research project	Continue reading and researching on the topic
12. Continue research project	Work to complete research project
13. Complete research project and prepare to present the research project	Presentation preparation
14. Presentation of research project	Prepare self-reflection and evaluation Prepare to submit research paper
15. Summary and feedback: Assess the outcome; Evaluate the experience; and Reflection	Individual reflection, share feelings and experiences

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・ It’s a student-driven to some significant degree, therefore, the teacher will give necessary guidance and play a facilitator or a coach.
- ・ It’s a realistic, not school-like course. Student’s self-motivation and initiative are the key to succeed in completing the research project.
- ・ At the end of the research project it should have some kind of tangible final product to be able to present.

フィードバックの方法: Written and in class

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Research project activities & progress update	50	Work progress on research and sharing findings
	Final presentation + report	40	Contents and presentation style
	Group work	10	Attitude and effort to work as a team member

教科書: No textbook

参考文献等: Will be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡
方法: cstraumann6@gmail.com

FLTナンバー:

授業テーマ: Model United Nations

授業の概要: This class involves preparing and participating in the Model United Nations event (JEMUN). The event will be held in Osaka in July. It requires a fee and two nights hotel stay. In a Model UN, you will become a Delegate of the United Nations. You choose a country to represent and study about important issues there. At the event, around 300 students from around the world participate. Working together, you will create solutions to global problems and try to find agreement. See this website for more information: <http://www.jemun.net/>

到達目標: Objectives are to improve students' knowledge of the world, negotiation skills, English level and self-confidence

授業方法: Groupwork

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Orientation. Introduction to the Model United Nations	Research and homework
	2. World issues. Introduction to negotiation. Choosing a country	Research and homework
	3. Learning about the issue	Research and homework
	4. Learning about the issue	presentation prep
	5. Informal presentation: country and issue	Research and homework
	6. Learning the meeting protocols of the United Nations Writing a draft resolution	Position paper
	7. Research and discussion. Debate practice and preparation informal and formal debate	Position paper
	8. Research and discussion. Debate practice and preparation Amendments	Position paper
	9. Research and discussion. Debate practice and preparation	Position paper
	10. Speechmaking and negotiation Draft resolution Debate practice	Research and homework
	11. Research and discussion. Draft resolution Debate and preparation	Research and homework
	12. Event participation	Event participation
	13. Event participation	Event participation
	14. Event participation	Event participation
	15. Debriefing	None

受講者へのメッセージやアドバイス: You must be interested in international issues and organisations like the UN or other NGOs. You must be prepared to speak out in English in every class.

フィードバックの方法: Feedback will be given to all presentations and written work

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Debate participation	30	Participation
	Position paper	20	Preparation and quality
	Presentations	20	Preparation and quality
	Homework	10	Participation
	General participation	20	Participation

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: Research Project Management

授業の概要: This is for students who have completed Project-Based English I and who want to develop their organizational and leadership skills.

After graduating, many students will find themselves working with people from other countries in companies. Even if they do not leave Japan, they may have to communicate with people working in other countries using English. This course requires actively using English to complete a task with team members.
The aims are for students to use English and teamwork skills to do the following:
1) Actively do research by communicating with people in Japan and other countries and to produce something useful to either the university or society.
2) Organize and manage group work to successfully complete a project similar to real world workplaces
3) Present research project findings in English

到達目標: Upon completion of this course, students will be able to manage a work team and assist managers.

They will better understand and be able to use English to do a research project and present a final project report. They will also learn and practice to improve their communication and leadership skills as they gain self-confidence.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. This course will meet 15 times during the year. Even though the course is scheduled for Wednesdays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with groups and individuals in other countries. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Help students understand course and research project guidelines	Help students prepare to begin a research project
2. Discuss research skills and how to present research results	Help students organize research projects
3. Communication and team building skills 1	Help students do a needs assessment for a research project
4. Communication and team building skills 2 and choose research projects	Help students work on research projects
5. Discuss research project updates	Help students work on research projects
6. Organizational skills & continue research project	Help students work on research projects
7. Discuss research project details with individuals or group in another country	Help students work on research projects
8. Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Help students work on research projects
9. Continue research project	Help students work on research projects
10. Research project and activity planning updates	Help students work on research projects
11. Continue research project	Help students work on research projects
12. Complete Project	Help students work on research projects
13. Complete Project and prepare research report	Help students complete the project and organize report summary
14. Present research report	Help students prepare a formal presentation using PowerPoint
15. Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Lead self-reflection session

受講者への
メッセージや
アドバイス: Students will help groups choose a project, conduct research, and give periodic updates and feedback to other groups. They will assist the teacher and Project-Based English I students organize and complete a project.

This course will meet 15 times during the year. Even though the course is scheduled on Mondays, meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete the project. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. There will also be class excursions and group travel required depending on the total number of students enrolled. When going off campus, students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

Students should have completed Project-Based English I successfully. If they have not completed Project-Based I, an interview will be required.

フィードバックの
方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Assisting in class management	50%	Communicating with teacher and helping prepare for classes and projects
Assisting & Guiding student projects	40%	Helping students with research activities such as gathering background information, planning, and carrying out necessary surveys, and so on
Organization & effort	10%	Ability and efforts to work with students and teacher

教科書: No Textbook

参考文献等: Will be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

思考力、分析力、リーダーシップ、コミュニケーション力、自己管理力

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: International Tourism and Hospitality

授業の概要: “Tourism and hospitality” is something very familiar theme for many of you. Some of you might be even thinking of choosing a career in tourism and hospitality filed in the future. According to UNWTO (United Nation World Tourism Organization), international tourist arrivals grew 7.0% in 2017, which is the highest increase since the 2009 global economic crisis and well above UNWTO’s long-term forecast of 3.8% per year for the period 2010 to 2020.

The study of tourism and hospitality covers various topics, such as Economics, Diverse culture, Sociology, Psychology, Geography, Business studies, Political Science, and Law; for instance:

- Tourism destination-Inbound tourism in Japan/Kyoto,
- Tourist’s psychology of buying souvenir,
- Tourism and new technology,
- Tourism and demography change, etc

Also this course will give you a well-established foundation for your future Seminar work in the area of tourism and hospitality during the third year.

到達目標: 1. The research project should stimulate students to be able to construct knowledge through their various research activities and group discussions.
2. Using English, students will conduct research to solve a real world problem by: (1) studying and planning → (2) taking action → (3) collecting and analyzing evidence → (4) presenting a final product.
3. As a result, students will develop deep content knowledge as well as critical thinking, creativity, and communication skills by doing an authentic and meaningful project
4. Students will work independently as well as in group for the research project
5. This course is student-driven to some significant degree, therefore, they have the chance to reflect on learning, the effectiveness of their project activities, the quality of research work, obstacles and how to overcome them.
In spite of everything, Tourism and Hospitality topic is FUN!

授業方法: students will conduct research independently and share their findings and update their progress in class. They will work in a team to complete the research project. Active participation is expected.
This course will meet 15 times all in all during the academic year. Although the class is scheduled to meet on Thursdays, students will plan which Thursday to meet.
There will also be some excursions and group travel required. Students are responsible for any costs. However, discussion and decisions about excursions will be made together. Thus, students can choose not to participate in excursions without penalty.

The course contents are subject to change depending on students understanding and research project progress.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course introduction and “set the stage”, Introductory activity	Preparation for research project discussion
2. Discuss research project: Essential question – real-world topic and authentic situation around tourism	Read materials and prepare for research project discussion
3. Brainstorm and discuss research project topic: contents, purpose, set direction, targets, & desired outcome	Gather necessary background information for topic
4. Communication and team-work skill building	Reading and researching on the topic
5. Design a plan for the research project: Create a schedule for tasks	Continue reading and researching on the topic
6. Field-work or visit location(s) for research project outside DWC	Summarize Field-work or visit location(s)
7. Share findings from Field-work or visit location(s) and continue research project	Continue reading and researching on the topic
8. Continue research project: Status reports – share update and evaluate the progress	Prepare research project status report
9. Continue research project	Continue reading and researching on the topic
10. Continue research project (If necessary: Field-work or visit location(s) for research project outside DWC #2)	Continue reading and researching on the topic (Summarize Field-work or visit location(s))
11. Continue research project	Continue reading and researching on the topic
12. Continue research project	Work to complete research project
13. Complete research project and prepare to present the research project	Presentation preparation
14. Presentation of research project	Prepare self-reflection and evaluation Prepare to submit research paper
15. Summary and feedback: Assess the outcome; Evaluate the experience; and Reflection	Individual reflection, share feelings and experiences

受講者へのメッセージやアドバイス: · It’s a student-driven to some significant degree, therefore, the teacher will give necessary guidance and play a facilitator or a coach.
· It’s a realistic, not school-like course. Student’s self-motivation and initiative are the key to succeed in completing the research project.
· At the end of the research project it should have some kind of tangible final product to be able to present.

フィードバックの方法: Written and in class

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Research project activities & progress update	50	Work progress on research and sharing findings

Final presentation + report	40	Presentation contents and presentation
Group work	10	Attitude and effort to work as a team member

教科書: No textbook

参考文献等: Will be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法: cstraumann6@gmail.com

FLTナンバー:

授業テーマ: いのちと倫理～思想研究を通し～

授業の概要: 同志社女子大学(人間生活学科)での4年間の様々な学びの集大成として、各人の設定した研究テーマを探究します。ゼミ内での討論等を通し、互いに切磋琢磨し、研究の方法、まとめ方、発表の仕方等習得します。

到達目標: 1. 各人のテーマに即し、先行研究に基づき、論理的に考察した卒業論文を完成し、所定の期日までに指導教員に提出します。
2. 12月初旬には卒業論文のテーマを提出し、12月下旬には卒業論文発表会の要旨を提出します。
3. プレゼンテーションの技術を習得し、卒論委員会が運営する卒論発表会において、ゼミ生全員が卒業論文の要旨を口頭発表します。

授業方法: 演習形式を基本とします。個人発表、グループ討議、グループ批評等を通し、学習者相互の思考を深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
16.	中間原稿提出。	夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。
17.	中間原稿相互批判	事前に預かった受講生の中間原稿への批評コメント作成。他者からのコメントに対応できるよう、自身の卒論を再検討する。
18.	中間原稿の深化と発展1	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。
19.	中間原稿の深化と発展2	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。
20.	中間原稿の深化と発展3	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。
21.	ポスター発表(ゼミ内)	ポスター発表資料準備。後輩にむけ、卒論の論理構成を提示。自己の卒論の論理構成を確認。
22.	ポスター発表後の再検討課題発表1	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。
23.	ポスター発表後の再検討課題発表2	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。
24.	ポスター発表後の再検討課題発表3	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。
25.	卒業論文第一次提出。ゼミ内査読者選定。	卒業論文第一次原稿を執筆。提出用と査読用の2部準備。
26.	卒論タイトル・要旨の最終確認。	相互議論、相互批評による、タイトルの明確化、要旨の的確化に努める。配布資料の作成。
27.	卒論査読者よりコメント。	冬季休暇を用いて、他の受講者の卒論批評。自分自身の卒論ポイントの整理と深化。配布資料の作成。
28.	各卒論への批評大会。	他者からの批評に耐えうよう、自身の卒論の再検証。及び、最終提出に向けた整理。
29.	発表資料作成による卒論の深化	卒論の中心テーマ、結論への吟味。再度、構成の確認など。発表用資料の作成。
30.	卒業論文の提出。卒論発表会に向けて淳義。	最終原稿の提出。発表会に向けた資料作成など。引用方法などを含め、誤字脱字等、校正の上、提出。
1.	オリエンテーション 演習での学びの振り返り。	シラバスにより当該科目の内容、到達目標、評価基準を整理する。
2.	基礎学習とテーマ探し1 問題意識の探究と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理。
3.	基礎学習とテーマ探し2 問題意識の探究と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理。
4.	基礎学習とテーマ探し3 問題意識の探究と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介と方法論確認)と発表ポイントの整理。
5.	卒論デザイン作成、及び、先行研究検索、基本文献検索、批評に向けた確認	卒論デザイン作成に向けて、自身の卒論の焦点を絞る。仮説と論証方法を模索し、整理する。
6.	先行研究と資料収集1	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。
7.	先行研究と資料収集2	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。
8.	先行研究と資料収集3	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。
9.	先行研究と資料収集4	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。
10.	卒論デザイン作成説明	配布資料や参考文献を用いて、卒業論文を執筆の方法論などを再考しつつ、深め、整理する。
11.	卒論デザイン発表1	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。
12.	卒論デザイン発表2	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理。
13.	卒論デザイン発表3	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。
14.	卒論デザイン発表4	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。
15.	中間原稿提出に向けて	夏季休暇後の中間原稿提出に向けて思索の深化と下書き作成準備。

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業時間外の自主学習及びグループ学習等が求められます。先行研究(文献研究など)を踏まえた上での思想の構築が期待されます。

フィードバックの方法: 毎回のゼミ内で、相互の学びを深めるコメントペーパーを作成します。ゼミ生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを積極的に用います。学生からのコメントはゼミ内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有し、かつ個々人へフィードバックします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラスへの参加・貢献	40	クラス内での互いの学びへの批判力、貢献度などにより評価します。 卒業論文かつ卒業論文発表会における完成度、独自性、科学性などを総合的に評価します。よって、いずれかが不十分の場合は単位認定にならないことを付言する。
	卒業論文・卒業論文発表	60	
教科書:	教室にて指示します。		
参考文献等:	教室にて指示します。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡 方法:	授業前後の対応を基本としますが、オフィスアワー、Eメール、別途個人面談など随時対応します。		

FLTナンバー:

授業テーマ: 社会福祉の歴史・制度・実践

授業の概要: 応用演習ⅠⅡで学んだ社会福祉の歴史・制度・実践を踏まえ、各自でテーマを絞り込み、研究計画に基づいて卒業論文の作成および論文要旨の口頭発表を行う。

到達目標: 卒業論文の完成

授業方法: レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議などをおし、一部で社会福祉見学・配属実習を行うことによって、各自の研究テーマを深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
16.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
17.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
18.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
19.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
20.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
21.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
22.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
23.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
24.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
25.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
26.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
27.	論文修正	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
28.	論文提出	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
29.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
30.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出席を含む授業への参加・態度
	卒業論文	50	卒業論文および論文要旨の口頭発表による総合評価

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール等を利用

FLTナンバー:

授業テーマ: 社会心理学(日常を計量する)

授業の概要: 社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として、そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。卒業研究では、「社会心理学」という学問ツールに触れることによって、だれもが「体感」している日常素材を対象として各自が実際に「心の冒険」をし<=研究>,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく、実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力や他の処理スキルを身につけることも併せて目指します。

この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめ発表することです。これは、「感想文」とは異なり,あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての研究(卒業論文+口頭発表)の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残すことになります。

到達目標: 特定主題での社会心理学的研究の達成

授業方法: 1時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 1年間の概観	本演習のシラバスでの確認
2. 卒業研究テーマの同定作業	前回演習作業の確認
3. 卒業研究テーマの同定作業と研究準備	前回演習作業の確認
4. 卒業研究テーマの同定作業と研究準備	前回演習作業の確認
5. 卒業研究の準備	前回演習作業の確認
6. 卒業研究の準備と着手	前回演習作業の確認
7. 卒業研究の着手	前回演習作業の確認
8. 卒業研究の着手	前回演習作業の確認
9. 収集データの整理	前回演習作業の確認
10. 収集データの整理	前回演習作業の確認
11. 収集データの整理	前回演習作業の確認
12. 収集データの整理と解析	前回演習作業の確認
13. 収集データの整理と解析	前回演習作業の確認
14. 卒業研究の中間発表	前回演習作業の確認
15. 卒業研究の中間発表	演習全体での作業確認
16. 卒業論文作成に向けた概観	演習全体での作業確認
17. 収集データの解析	演習全体での作業確認
18. 収集データの解析	演習全体での作業確認
19. 卒業研究データの「図表」化作業	演習全体での作業確認
20. 卒業研究データの「図表」化作業	演習全体での作業確認
21. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
22. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
23. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
24. 卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
25. 卒業論文全体の作成	演習全体での作業確認
26. 卒業論文全体の作成	演習全体での作業確認
27. 卒業論文の完成	演習全体での作業確認
28. 発表会用の「要約」の作成、発表会用の「発表スライド」の作成作業	演習全体での作業確認
29. 発表会用の「発表スライド」の作成作業	演習全体での作業確認
30. 発表会の最終準備(発表スライド+口頭発表)	演習全体での作業確認

受講者へのメッセージやアドバイス: 準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないようにしましょう。

フィードバックの方法: 演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と研究取り組み状況	50	授業時・時間外の熱心さ
	卒業論文の完成	25	論文としての完成度
	卒論発表会パフォーマンス	25	呈示と発表の完成度

教科書: 演習時に指示する。

参考文献等: 適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡
方法:

マナーおよび日常的接触

FLTナンバー:

授業テーマ: 児童文化の世界の広がり深みを研究する。

授業の概要: 児童文化には、人間でも動物でもない、第三の幻の生き物がうごめいている。そういう第三の生き物と共に暮らしている私たちの世界の豊かさや、そういう世界に支えられている私たちのあり方を追求し研究する。

到達目標: ① 文献を調べ、実地見学もし、先行研究の広がりを調べる。
② 調べたことは毎回パワーポイントにして発表し、みんなの意見を聞く。
③ みんなにわかるようにパワーポイントを作ることも大きな目標。
④ ゼミ生同士は、発表されたテーマについて意見を言い、疑問をぶつけ合う。
⑤ 質問に答えられなかった分を宿題として持ち帰り、さらに調べて発表し合う。
⑥ プレゼンテーションの力を付ける。

授業方法: パワーポイント使って毎回、自分の卒論のテーマに関わる研究を発表する。
司会者と発表者を順番に持ち回りして、学生同士で発表しやすい雰囲気をつくる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション(1)	卒論を書くときの基本的な注意事項の説明。
	2. 自分なりのテーマ探し(2)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	3. 自分なりのテーマ探し(3)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	4. 自分なりのテーマ探し(4)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	5. 自分なりのテーマ探し(5)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	6. 自分なりのテーマ探し(6)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	7. 自分なりのテーマ探し(7)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	8. 自分なりのテーマ探し(8)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	9. 自分なりのテーマ探し(9)	自分の関心を広げるために、ヨーロッパや、日本の児童文化を、みんなで調べる。
	10. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(1)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	11. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(2)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	12. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(3)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	13. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(4)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	14. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(5)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	15. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(6)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	16. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(7)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	17. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(8)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、4人ずつ分担し研究をし発表する準備をする。
	18. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(1)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	19. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(2)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	20. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(3)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	21. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(4)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	22. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(5)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	23. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(6)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	24. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(7)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	25. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(8)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	26. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(9)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	27. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(10)	児童文学作品を、歴史、地理、伝記、主題に分け、一人でこの4つの分野をしらべて発表する準備をする。
	28. 研究の成果の冊子作り	発表したものを参考資料の整理も含め冊子にする準備。
	29. 研究の成果の冊子作り	発表したものを参考資料の整理も含め冊子にする準備。
	30. 研究の成果の冊子作り	発表したものを参考資料の整理も含め冊子にする準備。

受講者へのメッセージやアドバイス: 好きな児童文学作品にこだわるのではなく、幅広く、世界の児童文化に関心を広げる努力をすること。

フィードバックの方法: 調べて発表してきたことは、冊子にして、それを元に卒論につなげる道筋をアドバイスする。

「成績評価方法」		評価基準	
「成績評価基準」:		評価方法	割合
		発表の内容	65
		質疑応答の積極性	25
		遅刻。欠席	10
教科書:		随時、指示する。	
参考文献等:		随時、指示する。	
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:		分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、すべてが要求される。	
教員との連絡 方法:		ラインを使って、グループ同士の連絡の取り合い、教員との連絡も密に取っている。	

FLTナンバー:

授業テーマ: 居住環境の評価

授業の概要: 人間生活学科における学びの集大成として卒業論文を執筆する

到達目標: 各自が設定するテーマに基づき、問題解決のための手法を検討し、その結果をわかりやすく提示する

授業方法: 各自のテーマに基づき、問題解決手法(文献調査、フィールド調査、心理実験)を実施し、進捗状況を授業内で発表・議論する。卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマ・研究手法の発表1	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
2.	研究テーマ・研究手法の発表2	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
3.	研究テーマ・研究手法の発表3	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
4.	研究計画の発表1	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
5.	研究計画の発表2	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
6.	研究計画の発表3	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
7.	研究計画の発表4	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
8.	研究計画の発表5	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
9.	研究計画の発表6	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
10.	進捗状況の発表1	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
11.	進捗状況の発表2	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
12.	進捗状況の発表3	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
13.	進捗状況の発表4	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
14.	進捗状況の発表5	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
15.	進捗状況の発表6	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
16.	中間発表1	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする
17.	中間発表2	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする
18.	研究結果の発表1	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
19.	研究結果の発表2	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
20.	研究結果の発表3	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
21.	研究結果の発表4	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
22.	研究結果の発表5	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
23.	研究結果の発表6	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
24.	研究要旨の作成1	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす
25.	研究要旨の作成2	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす
26.	研究概要の作成1	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する
27.	研究概要の作成2	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する
28.	卒論発表資料の作成1	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える
29.	卒論発表資料の作成2	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える
30.	卒論発表資料の作成3	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	ゼミでの発表内容、他者発表時の質問・ディスカッションなど
	ディスカッション	30	他者の発表に関する議論、自身の発表に対する回答など
	論文	40	研究の実施状況、論文の出来栄

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力
教員との連絡 方法:	e-mail、マナビーによる

FLTナンバー:			
授業テーマ:	服飾文化の歴史と現在		
授業の概要:	4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆します。これまでなされてきた服飾文化に関する研究をととして生活文化のさまざまな課題を探索し、これからあるべき生活にむけてその可能性を示すことを目指します。ゼミでのプレゼンテーションや意見交換のなかで互いに知見を広め思考を深めるとともに論文執筆の手順と方法を習得します。		
到達目標:	①卒業論文として適切な文章表現を身につける。 ②卒業論文として適切な情報収集と論理的な分析の手法を身につける。 ③互いの卒業研究に関して建設的なディスカッションができる。 ④卒業論文の成果をプレゼンテーションで表現し伝えることができる。		
授業方法:	ゼミナール形式を基本に個人指導も行います。各自で研究テーマを設定し、論文執筆にむけて計画をたて、それにもとづいて資料収集、調査、執筆をすすめます。中間報告や経過報告をととして進行状況を確認しながら卒業論文の完成を目指します。完成した卒業論文は所定の期日までに指導教員に提出し、その後、卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 卒業研究の進め方 2. テーマ発表① 3. テーマ発表② 4. テーマ発表③ 5. 文献資料の検索と収集 6. 研究計画を発表① 7. 研究計画を発表② 8. 研究計画を発表③ 9. 文献資料研究① 10. 文献資料研究② 11. 文献資料研究③ 12. 中間報告Ⅰおよび意見交換① 13. 中間報告Ⅰおよび意見交換② 14. 中間報告Ⅰおよび意見交換③ 15. 学外見学 16. 中間発表Ⅱおよび意見交換① 17. 中間発表Ⅱおよび意見交換② 18. 中間発表Ⅱおよび意見交換③ 19. 論文の構成① 20. 論文の構成② 21. 卒業論文タイトル検討① 22. 卒業論文タイトル検討② 23. 卒業論文要旨および概要作成① 24. 卒業論文要旨および概要作成② 25. 卒業論文要旨および概要作成③ 26. 卒業論文発表会準備 パワーポイント作成① 27. 卒業論文発表会準備 パワーポイント作成② 28. 卒業論文発表会準備 原稿作成① 29. 卒業論文発表会準備 原稿作成② 30. 卒業論文発表会準備 仕上げ	「応用演習Ⅱ」で計画した予備調査の成果をまとめる テーマについてのレポート作成および発表準備 テーマについてのレポート作成および発表準備 テーマについてのレポート作成および発表準備 文献等資料の検索結果をまとめる 研究計画書の作成および発表準備 研究計画書の作成および発表準備 研究計画書の作成および発表準備 研究計画書の作成および発表準備 文献資料に関するレポート作成 文献資料に関するレポート作成 文献資料に関するレポート作成 中間レポートの作成および発表準備 中間レポートの作成および発表準備 中間レポートの作成および発表準備 見学のための 中間レポートの作成および発表準備 中間レポートの作成および発表準備 中間レポートの作成および発表準備 構成表と目次の下書き 構成表と目次の下書き タイトル案を考える タイトル案を考える 要旨および概要の下書き 要旨および概要の下書き 要旨および概要の下書き パワーポイント作成の準備 パワーポイント作成の準備 原稿下書き 原稿下書き 発表練習を行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内でコメントし、適宜授業時間外にも個人指導を行います。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度 論文 口頭発表	30 50 20	授業への準備と到達目標③に関する態度や発言を評価する。 到達目標①②および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。 到達目標④および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。
教科書:			
参考文献等:	適宜指示します		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	オフィスアワー マナビーの掲示板機能 メール		

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

各自が設定した卒業論文のテーマに基づき、先行研究調査、現地調査、データ分析等を行ない、その進捗状況を報告する。その際、積極的に質疑を受け、応答し、討議を行なう。また、個人ゼミを行なうことで、進行状況を確認しつつ、より卒業論文テーマの内容について深めていく。
最終的には、卒業論文を期日までに提出し、卒業論文発表会にて発表する。

・まちづくりに関する専門的な知識について、卒業論文の作成を通して理解を深める

・設定したテーマに対し、研究の方法、まとめ、発表の仕方を習得する

・卒業論文の完成

ゼミナール形式で行なう。進捗状況の報告時にはレジュメを用意し、質疑応答、討議ができるようにしておく。なお、現地調査、データ分析などにおいて授業時間外の作業を伴うことが多い。
また、卒業論文の完成には数回の修正を求めることがある。

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業の進め方と卒業論文に関する説明	自身の研究テーマについて整理しておく。
2. 研究計画の報告1	研究テーマの確認と研究計画について、スライドの作成を求める
3. 研究計画の報告2	研究テーマの確認と研究計画について、スライドの作成を求める
4. 研究の進捗状況報告1	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
5. 研究の進捗状況報告2	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
6. 研究の進捗状況報告3	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
7. 研究の進捗状況報告4	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
8. 研究の進捗状況報告5	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
9. 研究の進捗状況報告6	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
10. 研究の進捗状況報告7	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
11. 研究の進捗状況報告8	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
12. 研究の進捗状況報告9	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
13. 研究の進捗状況報告10	研究の進捗状況についてスライドの作成を求める
14. 中間報告1	中間発表に向けてスライドの作成を求める
15. 中間報告2	中間発表に向けてスライドの作成を求める
16. 研究の進捗状況報告と卒論目次の作成1	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメの作成を求める
17. 研究の進捗状況報告と卒論目次の作成2	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメの作成を求める
18. 研究結果の報告1	研究結果についてスライドの作成を求める
19. 研究結果の報告2	研究結果についてスライドの作成を求める
20. 研究結果の報告3	研究結果についてスライドの作成を求める
21. 研究結果の報告4	研究結果についてスライドの作成を求める
22. 研究結果の報告5	研究結果についてスライドの作成を求める
23. 研究結果の報告6	研究結果についてスライドの作成を求める
24. 卒業論文の要旨作成1	研究内容を要旨として端的にまとめる
25. 卒業論文の要旨作成2	研究内容を要旨として端的にまとめる
26. 卒業論文の概要作成1	卒業論文全体の概要を整理するとともに、結論について自身の考えをまとめる
27. 卒業論文の概要作成2	卒業論文全体の概要を整理するとともに、結論について自身の考えをまとめる
28. 卒業論文発表資料作成1	卒業論文口頭発表時に用いるスライドの作成を求める
29. 卒業論文発表資料作成2	卒業論文口頭発表時に用いるスライドの作成を求める
30. 卒業論文発表資料作成3	前回指摘を受けた箇所を修正し、スライドの作成を求める

4年間の学びの集大成として、多少つらい時期があるかもしれないが、最後まで粘り強く取り組むことを望む。

個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却するほか、マナビー掲示板機能によりコメントすることもある。

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、卒業論文の完成に向けて取り組んでいるかを評価する。
卒業論文・口頭発表	50	自身が調べた内容に対し、きちんとまとめ、発表できているかを評価する。

分析力、プレゼンテーション力

オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

FLTナンバー:

授業テーマ:

被服造形とデザイン

授業の概要:

本科目は、ゼミナール科目である。大学での学びの集大成として、主に被服造形およびデザインの視点から被服学に関する研究に取り組む。研究成果は、論文にまとめ、所定の期日までに指導教員に提出する。また卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表する。

到達目標:

1.造形・デザインを中心に被服学分野の諸問題への関心を高め、知見を広げる。

2.被服学分野における諸問題を探求し、思考する態度を養う。

3.被服学分野における独自の視点にたった表現力を養う。

4.効果的な研究成果のまとめとプレゼンテーションの手順および方法を習得する。

授業方法:

ゼミナール形式および個人面談を中心とする。各自で研究に取り組み、授業時には報告とディスカッション等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	各自の研究テーマ・手法について考える。
2. 研究テーマ・手法の発表(1)	発表準備を行う。
3. 研究テーマ・手法の発表(2)	ディスカッションの内容を踏まえて研究準備を進める。
4. 研究計画(1)	発表準備を行う。
5. 研究計画(2)	ディスカッションの内容を踏まえて研究準備を進める。
6. 経過報告とディスカッション(1)	研究計画書を作成する。
7. 経過報告とディスカッション(2)	研究計画書を作成する。
8. 経過報告とディスカッション(3)	研究に取り組む。
9. 経過報告とディスカッション(4)	報告準備を行う。
10. 経過報告とディスカッション(5)	研究に取り組む。
11. 経過報告とディスカッション(6)	報告準備を行う。
12. 経過報告とディスカッション(7)	研究に取り組む。
13. 中間発表(1)	報告準備を行う。
14. 中間発表(2)	発表準備を行う。
15. 中間発表(3)	ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。
16. 研究の進捗確認とディスカッション	発表準備を行う。
17. 経過報告とディスカッション(8)	ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。
18. 経過報告とディスカッション(9)	発表準備を行う。
19. 作品撮影と資料整理	ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。
20. 論文作成(1)	発表準備を行う。
21. 論文作成(2)	ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。
22. 論文作成(3)	発表準備を行う。
23. 論文作成(4)	ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。
24. 卒業論文要旨および概要作成(1)	これまでの研究成果と今後の計画についてまとめる。
25. 卒業論文要旨および概要作成(2)	研究に取り組む。
26. 卒業論文発表会の資料作成(1)	報告準備を行う。
27. 卒業論文発表会の資料作成(2)	研究に取り組む。
28. 卒業論文発表会の原稿作成(1)	報告準備を行う。
29. 卒業論文発表会の原稿作成(2)	作品・資料を整理する。
30. 卒業論文発表会の準備とまとめ	論文を執筆する。
	論文を執筆する。
	論文を執筆する。
	論文を執筆する。
	論文をまとめ、仮提出する。
	卒業論文要旨および概要を作成する。
	卒業論文要旨および概要を作成する。
	発表用のパワーポイントを作成する。
	発表用のパワーポイントを作成する。
	発表原稿を作成する。
	発表原稿を作成する。
	卒業論文発表会の発表練習を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

研究計画書はディスカッションの際に解説して返却する。

仮提出した要旨や論文は添削して返却する。

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
論文(作品を含む)	40	研究内容と作品および論文完成度により到達目標1,2,3,4の達成度を評価する。
口頭発表	20	到達目標4を実践し、研究成果を正しく明瞭に伝えることができたかを基準とする。
参加度	40	到達目標1,2,3,4の達成に向けた研究および授業への取り組みへの積極性、態度・意欲を評価する。

「成績評価基準」:

教科書:

参考文献等：

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法：	Eメール, オフィスアワー

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

ゼミ形式を基本とし、必要に応じて個別指導を行う。
期限までに論文を指導教員に提出し、卒業論文発表会において口頭発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究の進め方・論文執筆の基本	特になし。
2.	研究課題の相談①	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。
3.	研究課題の相談②	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。
4.	研究課題の相談③	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。
5.	先行研究の調査、研究手法の検討①	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。
6.	先行研究の調査、研究手法の検討②	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。
7.	先行研究の調査、研究手法の検討③	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。
8.	進捗状況の発表①	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。
9.	進捗状況の発表②	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。
10.	進捗状況の発表③	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。
11.	進捗状況の発表④	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。
12.	進捗状況の発表⑤	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。
13.	進捗状況の発表⑥	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。
14.	夏季休暇中の調査計画の作成①	各自休暇中の研究計画をレジュメとしてまとめる。
15.	夏季休暇中の調査計画の作成②	各自休暇中の研究計画をレジュメとしてまとめる。
16.	中間発表①	各自調査を進め、その成果をレジュメとパワーポイントでまとめておく。
17.	中間発表②	各自調査を進め、その成果をレジュメとパワーポイントでまとめておく。
18.	論文執筆と進捗発表①	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。
19.	論文執筆と進捗発表②	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。
20.	論文執筆と進捗発表③	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。
21.	論文執筆と進捗発表④	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。
22.	論文執筆と進捗発表⑤	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。
23.	論文執筆と進捗発表⑥	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。
24.	要旨と概要の作成①	各自要旨と概要を作成しておく。
25.	要旨と概要の作成②	各自要旨と概要を作成しておく。
26.	卒業論文の仕上げ①	各自論文を仕上げる。
27.	卒業論文の仕上げ②	各自論文を仕上げる。
28.	研究発表会のパワーポイント作成①	各自パワーポイントを作成し、また必要に応じて発表原稿をまとめておく。
29.	研究発表会のパワーポイント作成②	各自パワーポイントを作成し、また必要に応じて発表原稿をまとめておく。
30.	発表リハーサル	各自発表準備を行っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミ形式の授業でのコメントの他、必要に応じて個別面談による指導を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	50	授業での定期的な研究発表
	論文	50	研究の構成、適切な調査分析、文章の論理性など

教科書:

なし

参考文献等:

適宜、授業の際に紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法:

メール・manaビー

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究の実施, 卒業論文の作成とプレゼンテーション

授業の概要: 栄養・調理・食品の各分野の専任教員の指導のもとに大学4年間の締めくくりとして, テーマを定めて1年間研究を行う。その成果を卒業論文発表会において発表し, 卒業論文としてまとめる。これらを通して, 学術研究における倫理的規範を身につけると共に, 研究のすすめ方, 問題点の解決法, 研究のまとめ方, プレゼンテーションの方法を学ぶ。

到達目標: 持続的な研究活動により, 配属研究室独自の高い技能を学修するだけでなく, 分析・思考力やプレゼンテーション力, さらに計画立案・実行力, 変化対応力, リーダーシップ, 責任感と自己管理力, 協同性など, 社会人として求められる資質を身につける。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出し, 学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表する。

授業方法: 授業方法は担当する教員によって異なる。1テーマにつき1～複数名で行う。年間を通して教員の指導のもとで研究を進めるが, 受け身ではなく, 各自がグループ内で協調的に役割を果たしつつ, 自律的に行動する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. オリエンテーション(心構え, 研究の進め方, 研究倫理など)	研究を遂行するに当たっては, 各自がテーマに関連する科学論文を読み, 計画をたて, 実験や調査を行い, 結果を分析する作業が必須である。そのため, 授業時間外に継続的にまとまった時間を確保する必要がある。また, 卒業論文発表会用のスライド作成や卒業論文をまとめる作業も, 必要に応じて授業時間外に行う。
2.	2-27. 文献検索, 討論, 実験・調査(準備, 測定, フィールドワーク, 培養・飼育, データ処理, 後片付けなど)を各研究室および各自の研究内容に応じて行い, 研究室内で中間発表を行う。さらに, 卒業論文発表会にむけて研究成果をまとめ, 論文を作成す	
3.	28-30. 卒業論文まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 3年次に実施したオリエンテーションでの説明を参照して下さい。

フィードバックの方法: 教員が日常的に学生とディスカッションを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的参加度および研究に対する貢献度	50	
	卒業論文発表会の発表および卒業論文	50	「卒業論文」に関しては, 研究活動に対する取り組み状況, 提出された論文や卒業論文発表会での内容に基づいて, 指導教員が総合評価する。なお, 卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表し, その完成度が評価される。

教科書: 特に指定なし

参考文献等: 卒業論文のテーマにより異なる

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, リーダーシップ, 思いやる力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法: 研究室内で対応

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
----------------------------------	------	----------

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
-----------------------	------	----	------

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
------------------------	--

教員との連絡
方法:

FLTナンバー:																																																																	
授業テーマ:	臨床栄養学																																																																
授業の概要:	春学期は臨床検査学や食品の文責について学ぶ。秋学期は妊産婦と小児、骨粗鬆症について臨床現場で働く医師と管理栄養士による講義を受け、ディスカッションを行う。																																																																
到達目標:	臨床検査と各疾患の病態をよく理解して臨床現場で行われている栄養管理について学ぶ																																																																
授業方法:	講義形式																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 病態解析検査学</td><td>臨床検査について予習する</td></tr><tr><td>2. 病態解析検査学</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>3. 病態解析検査学</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>4. 病態解析検査学</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>5. 健康食品管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>6. 健康食品管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>7. 健康食品管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>8. 健康食品管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>9. 食品検査と微生物学</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>10. 食品検査と微生物学</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>11. 食品検査と微生物学</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>12. 栄養と病態解析</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>13. 栄養と病態解析</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>14. 栄養と病態解析</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>15. 栄養と病態解析</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>16. 妊産婦・婦人科疾患</td><td>妊産婦と婦人科疾患についての知識の整理</td></tr><tr><td>17. 妊産婦・婦人科疾患</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>18. 妊産婦・婦人科疾患</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>19. 妊産婦・婦人科疾患</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>20. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>21. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>22. 小児科疾患</td><td>小児と成人の違いと成長発達および臨床栄養学の復習</td></tr><tr><td>23. 小児科疾患</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>24. 小児科疾患</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>25. 小児の栄養管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>26. 小児の栄養管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>27. 小児の栄養管理</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>28. 骨粗鬆症</td><td>骨粗鬆症についての知識の整理</td></tr><tr><td>29. 骨粗鬆症</td><td>前回の講義内容の復習</td></tr><tr><td>30. まとめ</td><td>総復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 病態解析検査学	臨床検査について予習する	2. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習	3. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習	4. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習	5. 健康食品管理	前回の講義内容の復習	6. 健康食品管理	前回の講義内容の復習	7. 健康食品管理	前回の講義内容の復習	8. 健康食品管理	前回の講義内容の復習	9. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習	10. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習	11. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習	12. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習	13. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習	14. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習	15. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習	16. 妊産婦・婦人科疾患	妊産婦と婦人科疾患についての知識の整理	17. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習	18. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習	19. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習	20. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理	前回の講義内容の復習	21. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理	前回の講義内容の復習	22. 小児科疾患	小児と成人の違いと成長発達および臨床栄養学の復習	23. 小児科疾患	前回の講義内容の復習	24. 小児科疾患	前回の講義内容の復習	25. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習	26. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習	27. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習	28. 骨粗鬆症	骨粗鬆症についての知識の整理	29. 骨粗鬆症	前回の講義内容の復習	30. まとめ	総復習		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. 病態解析検査学	臨床検査について予習する																																																																
2. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習																																																																
3. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習																																																																
4. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習																																																																
5. 健康食品管理	前回の講義内容の復習																																																																
6. 健康食品管理	前回の講義内容の復習																																																																
7. 健康食品管理	前回の講義内容の復習																																																																
8. 健康食品管理	前回の講義内容の復習																																																																
9. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習																																																																
10. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習																																																																
11. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習																																																																
12. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習																																																																
13. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習																																																																
14. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習																																																																
15. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習																																																																
16. 妊産婦・婦人科疾患	妊産婦と婦人科疾患についての知識の整理																																																																
17. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習																																																																
18. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習																																																																
19. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習																																																																
20. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理	前回の講義内容の復習																																																																
21. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理	前回の講義内容の復習																																																																
22. 小児科疾患	小児と成人の違いと成長発達および臨床栄養学の復習																																																																
23. 小児科疾患	前回の講義内容の復習																																																																
24. 小児科疾患	前回の講義内容の復習																																																																
25. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習																																																																
26. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習																																																																
27. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習																																																																
28. 骨粗鬆症	骨粗鬆症についての知識の整理																																																																
29. 骨粗鬆症	前回の講義内容の復習																																																																
30. まとめ	総復習																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	遅刻しないこと。 予習としてあらかじめ知識の整理をしておく(学部生時代に習ったことの復習や臨床現場で得た知識等)と講義の理解度が 増すので、実践すること。 講義を受けたあとは必ず復習をすること。																																																																
フィードバックの方法:	毎回の授業において質疑応答を行う																																																																
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																																														
「成績評価基準」:	まとめの試験	100	70点以上を合格とする																																																														
教科書:																																																																	
参考文献等:	伊藤節子編著 臨床病態学 化学同人																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	授業後																																																																

FLTナンバー:			
授業テーマ:	臨床栄養学、病態栄養学、臨床栄養管理		
授業の概要:	消化器疾患の内科系および外科系臨床と栄養管理および強制栄養補給法としての静脈・経腸栄養管理について当該分野専門の臨床医および管理栄養士によるオムニバス講義		
到達目標:	消化器疾患の内科系および外科系臨床と栄養管理および強制栄養補給法としての静脈・経腸栄養管理について知識を深める		
授業方法:	配布資料やパワーポイント等による資料提示を含む少人数講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 内科 上部消化管(1)	消化管の構造と機能、主要疾患について予習する	
	2. 内科 上部消化管(2)	前回の復習	
	3. 上部消化管疾患における栄養管理	前回の復習	
	4. 内科 下部消化管(1)	前回の復習	
	5. 内科 下部消化管(2)	前回の復習	
	6. 下部消化管の栄養管理(1)	前回の復習	
	7. 下部消化管の栄養管理(2)	前回の復習	
	8. 内科 肝臓・胆のう(1)	肝臓の構造と機能、主要疾患について予習する	
	9. 内科 肝臓・胆のう(2)	前回の復習	
	10. 肝・胆疾患の栄養管理(1)	前回の復習	
	11. 肝・胆疾患の栄養管理(2)	前回の復習	
	12. 内科 すい臓(1)	すい臓の構造と機能、主要疾患について予習する	
	13. 内科 すい臓(2)	前回の復習	
	14. 内科 すい臓(3)	前回の復習	
	15. 膵疾患の栄養管理	前回の復習	
	16. 外科 消化管(1)	術後侵襲時の代謝変動について調べておく	
	17. 外科 消化管(2)	前回の復習	
	18. 外科 消化管(3)	前回の復習	
	19. 外科 肝臓(1)	前回の復習	
	20. 外科 肝臓(2)	前回の復習	
	21. 外科 胆のう・すい臓(1)	前回の復習	
	22. 外科 胆のう・すい臓(2)	前回の復習	
	23. 外科疾患の栄養管理	前回の復習	
	24. 経静脈・経腸栄養学(1)	経静脈栄養法および経腸栄養法における投与ルート、栄養剤、合併症について予習する	
	25. 経静脈・経腸栄養学(2)	前回の復習	
	26. 経静脈・経腸栄養学(3)	前回の復習	
	27. 経静脈・経腸栄養学(4)	前回の復習	
	28. 消化器疾患の栄養管理のまとめ(1)	前回の復習	
	29. 消化器疾患の栄養管理のまとめ(2)	前回の復習	
	30. 全体のまとめ	これまでの配布資料等を整理し、全般の復習をしておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	夜間講義のため遅れないように注意すること。欠席時はあらかじめ連絡すること。		
フィードバックの方法:	少人数に対する講義であり、外部講師が多いため、その場で積極的に質問し解決することが重要		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	まとめの試験	100%	受験資格は出席80%以上、試験70点以上を合格
教科書:	配布資料		
参考文献等:	専門分野により多くの参考図書が出版されるので、それぞれの講師に確認する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メールが望ましい(それぞれの講師に確認する)		

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養学

授業の概要: 臨床現場で働く医師と管理栄養士による講義とディスカッション

到達目標: 各疾患の病態をよく理解して臨床現場で行われている栄養管理について学ぶ

授業方法: 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	腎疾患	腎・尿路系の臨床病態学の復習
2.	腎疾患	前回講義内容の復習
3.	腎疾患	前回講義内容の復習
4.	腎疾患の栄養管理	前回講義内容の復習
5.	内分泌疾患	内分泌系の臨床病態学の復習
6.	内分泌疾患	前回講義内容の復習
7.	内分泌疾患	前回講義内容の復習
8.	内分泌疾患	前回講義内容の復習
9.	内分泌疾患の栄養管理	前回講義内容の復習
10.	血液疾患	血液失火の臨床病態学の復習
11.	血液疾患	前回講義内容の復習
12.	血液疾患の栄養管理	前回講義内容の復習
13.	アレルギー性疾患	食物アレルギーについての知識のまとめ
14.	アレルギー性疾患	前回講義内容の復習
15.	アレルギー性疾患	前回講義内容の復習
16.	呼吸器疾患	呼吸器系の臨床病態学の復習
17.	呼吸器疾患	前回講義内容の復習
18.	呼吸器疾患の栄養管理	前回講義内容の復習
19.	老年者の疾患	老年者の疾患と神経疾患についての臨床病態学の復習
20.	老年者の疾患	前回講義内容の復習
21.	老年者の疾患	前回講義内容の復習
22.	老年者の疾患	前回講義内容の復習
23.	老年者の疾患の栄養管理	前回講義内容の復習
24.	老年者の疾患の栄養管理	前回講義内容の復習
25.	悪性腫瘍	病理学、特に悪性腫瘍についての臨床病態学の復習
26.	悪性腫瘍	前回講義内容の復習
27.	悪性腫瘍	前回講義内容の復習
28.	悪性腫瘍の栄養管理	前回講義内容の復習
29.	悪性腫瘍の栄養管理	前回講義内容の復習
30.	まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 遅刻しないこと。予習としてあらかじめ知識の整理をしておく(学部生時代に習ったことの復習や臨床現場で得た知識等)と講義の理解度が増すので、実践すること。講義を受けたあとは必ず復習をすること。

フィードバックの方法: 授業中の質疑応答による

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	まとめの試験	100	70点以上を合格

教科書:

参考文献等: 伊藤節子編著 臨床病態学 化学同人

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業後

FLTナンバー:			
授業テーマ:	臨床栄養研究		
授業の概要:	研究計画、実施、解析、修士論文作成に関する個別指導を行う		
到達目標:	先行研究の検索から修士論文作成までの一連の経験と教員による指導を通して、自らの力で研究活動を遂行できる基礎的能力を身に着ける		
授業方法:	個別面談、メールその他の方法により指導する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 研究計画 2. 研究倫理審査受審 3. 研究の実施 4. データベースの構築 5. データの解析、統計処理 6. 論文作成 7. 学会発表 8. 修士論文審査	準備学習等の内容 先行研究の検索と検証、計画立案について、教員や指導者と相談しながら進める 審査書類の作成を行い、受審手続きを行えるよう取り組む スケジュール管理とともに研究実技(分析機器等の実技)の習熟に取り組む データ管理の基本、コンピュータソフトの活用能力を身に着ける 統計処理の基本学習とともにSPSS等の統計ソフトに習熟する 論文作成指導を受けながら、論文審査の2か月前を目途に計画的に進める プレゼンテーションのソフトの活用力や表現力を磨く 適切な質疑応答が出来るよう研究や研究結果への理解を深める	
受講者へのメッセージやアドバイス:	常に指導者や教員と連携を心がけること(報告・連絡・相談)		
フィードバックの方法:	面談やメール等により随時対応します		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 研究への取り組み 論文内容 審査発表	割合 30 30 40	評価基準 日ごろの取り組みの評価 論文の内容、論旨、図表等を総合的に評価 適切な発表と質疑応答ができているかを総合的に評価
教科書:			
参考文献等:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メール、電話、面談等随時		

FLTナンバー:

授業テーマ: 問題解決能力の醸成 薬学アドバンスド教育A-F-(2)

授業の概要: 研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標: 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解し、自らが実施する研究に係る法令、指針を理解した上で、それらを遵守して研究に取り組み、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。

授業方法: 実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ G(1)－1)～4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理 G(2)－1)～3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)・④-3再掲 (3)研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 G(3)－1)～6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

全員毎回出席が原則。

フィードバックの
方法:

指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50	積極的に研究しているかをルーブリックにより評価する。
発表・研究論文内容	50	研究内容を適正に発表・纏めているかをルーブリックにより評価する。

教科書:

それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考文献等:

それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

各教員で対応

FLTナンバー:

授業テーマ： 問題解決能力の醸成

授業の概要: 研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標：薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。

授業方法： 実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。

[illegible]

参考文献等：	それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法：	各教員で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: 問題解決能力の醸成

授業の概要: 研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標: 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。実験・調査・観察などで得られた結果を適切に解析・評価するとともに、わかりやすく報告・発表する力を身に付けている。

授業方法： 実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
- (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。
- E1(1)－(1)～(7)
1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度)
 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度)
 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度)
 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度)
 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度)
 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度)
 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度)
- (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。
- E1(2)－(1)～(13)
1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能)
 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。
 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能)
 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能)
 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能)
 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度)
 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度)
 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度)
 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能)
 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能)
 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度)
 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)
 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能)
- (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。
- E1(3)－(1)～(3)
1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度)
 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度)
 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

教科書:	それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。
参考文献等:	それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	各教員で対応

FLTナンバー：NUSd15-KG

授業テーマ：安全で安楽な生活援助技術を修得する。

授業の概要：看護の基本となる生活援助技術を、対象者の安全・安楽と、看護者自身の安全・安楽の視点を踏まえて学ぶ。生活援助技術としては、環境、活動、清潔、食事、排泄、安楽の援助に関する項目を含む。

到達目標：安全・安楽な生活援助技術を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。安全・安楽に配慮した生活援助技術を獲得することができる。

授業方法：授業は講義、演習より構成される。講義では、科学的根拠および、対象者や看護者の安全・安楽に関する視点に重点をおいて行う。演習では、デモンストレーションをみた後に、2～4名のグループとなり、看護師役、患者役、観察者役に分かれて実施する。倫理的態度を身に着ける視点も含める。演習後の振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 科目オリエンテーション/安全安楽に配慮した生活援助技術とは/生活環境とは	シラバスを読む(予習)教科書関連ページを読む(復習)
	2. 活動の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
	3. 体験学習①(グループワーク)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	4. 体験学習②(発表・まとめ)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	5. 病床の作り方と整備①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	6. 病床の作り方と整備②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	7. 体位と体位変換①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	8. 体位と体位変換②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	9. ストレッチャーと車椅子移乗と移送①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	10. ストレッチャーと車椅子移乗と移送②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	11. 清潔の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
	12. 衣生活の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
	13. リネン・寝衣交換①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	14. リネン・寝衣交換②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	15. 全身清拭①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	16. 全身清拭②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	17. 洗髪・整容の援助とは	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習)
	18. 洗髪・整容①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	19. 洗髪・整容②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	20. 食事の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
	21. 食事・口腔清拭①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	22. 食事・口腔清拭②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	23. 排泄の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
	24. 床上排泄・陰部洗浄①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	25. 床上排泄・陰部洗浄②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	26. 安楽確保の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習)
	27. 足浴①(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	28. 足浴②(デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習)演習後レポートを作成する(復習)
	29. 実技チェック	プラクティカルサポートセンター、演習室で自己学習を行う
	30. まとめ	学習範囲の総復習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス：上記30コマの授業内容は順序を変更して開講することがあります。

フィードバックの方法：各単元に課したレポートの内容を確認後にコメントをつけて返却します。また、技術に対してコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実技チェック	40	到達目標2に対する達成度より評価する
	筆記試験	30	到達目標1に対する知識や理解度より評価する
	レポート	20	到達目標1、2を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し、対象者への配慮をもって技術を達成できたかを基準とする

演習態度	10	到達目標2に対する準備状態と態度・意欲より評価する
欠席		減点する

教科書：阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第7版、医学書院。
看護がみえるVOL1 基礎看護技術、MEDIC MEDIA.

参考文献等：角濱春美ほか、看護実践のための根拠が分かる基礎看護技術 第2版、メヂカルフレンド社。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法：オフィスアワー、マナビーなどで対応する。

FLTナンバー: NUSd25-KG

授業テーマ: 安全で安楽な診療の補助技術を修得する

授業の概要: 看護の基本となる診療の補助技術を、対象の安全・安楽のみでなく、看護者自身の安全・安楽に配慮して実施する視点に重点をおいて学ぶ。

到達目標: 1. 科学的根拠に基づいて診療の補助技術を実施するために必要な基礎的知識を習得することができる。
2. 安全・安楽に配慮した診療の補助技術を獲得することができる。

授業方法: 授業は、講義、デモンストレーション、演習により構成される。
講義では、科学的根拠および、対象者や看護師の安全・安楽に関して重点をおく。
演習では、2～4名の小グループで看護師役、患者役、観察者役を交代して実施し、倫理的態度を身に付ける視点も含めながら行う。
また、演習後も振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目のオリエンテーション 診療の補助技術とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習)
2.	感染予防の基礎知識	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習)
3.	感染予防 【手指衛生・個人防護具の取り扱い①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
4.	感染予防 【手指衛生・個人防護具の取り扱い②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
5.	感染予防 【無菌操作①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
6.	感染予防 【無菌操作②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
7.	感染予防 【無菌操作③】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
8.	感染予防 【無菌操作④】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)
9.	薬物療法の基礎 【与薬】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) 1年次に使用した「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。
10.	薬物療法の基礎 【注射】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習)
11.	注射 【皮下注射①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
12.	注射 【皮下注射②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
13.	注射 【筋肉注射①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
14.	注射 【筋肉注射②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
15.	注射 【静脈注射①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
16.	注射 【静脈注射②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
17.	採血	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習)
18.	採血 【静脈血採血①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
19.	採血 【静脈血採血②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習)
20.	呼吸に伴う医療処置 【吸引・吸入】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習)
21.	呼吸に伴う医療処置 【吸引】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習内容を整理する(復習)
22.	呼吸に伴う医療処置 【吸入】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習内容を整理する(復習)
23.	排泄に関する医療処置 【導尿・浣腸】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習)
24.	排泄に関する医療処置 【導尿①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習)
25.	排泄に関する医療処置 【導尿②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習)

- | | | |
|-----|---------------------|---|
| 26. | 排泄に関する医療処置
【導尿③】 | 教科書関連ページを読む(予習・復習)
演習後レポートを作成する(復習)
プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習) |
| 27. | 排泄に関する医療処置
【浣腸①】 | 教科書関連ページを読む(予習・復習)
演習後レポートを作成する(復習) |
| 28. | 排泄に関する医療処置
【浣腸②】 | 教科書関連ページを読む(予習・復習)
演習後レポートを作成する(復習) |
| 29. | 実技チェック | 教科書関連ページを読む(復習)
プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習)
全学習範囲の総復習を行う |
| 30. | まとめ | 全学習範囲の総復習を行う |

受講者へのメッセージやアドバイス:
 フィードバックの方法:
 上記30コマの授業内容は、順序を変更し開講することがあります。
 全体の2/3以上の授業コマに出席していない場合は、単位認定を行いません。

各単元ごとに課したレポート内容を確認後、コメントをつけて返却します。
 また、技術に対し、コメントをします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技チェック	40%	到達目標2. に対する達成度より評価する。
	筆記試験	40%	到達目標1. に対する知識や理解度より評価する。
	レポート	10%	到達目標1. 2. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。
	演習態度	10%	到達目標2. に対する準備状態と態度、意欲より評価する。
	欠席		減点する。

教科書:
 阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第7版、医学書院
 看護技術がみえるVOL2、基礎看護技術、MEDIC MEDIA
 看護技術がみえるVOL1、基礎看護技術、MEDIC MEDIA

参考文献等:
 角濱春美ほか、基礎看護技術、メヂカルフレンド社
 竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研
 系統看護学講座、基礎看護技術Ⅱ、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:
 オフィスアワーを活用してください。

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	在宅看護または高齢者看護学領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる 2.在宅看護または高齢者看護学領域の保健医療福祉に関する研究の情報を収集し、解明されている点と未解明な点を分析し、研究テーマを焦点化する 3.研究テーマについて、研究の意義や目的を明確にできる 4.研究目的にそった適切な研究方法を選択することができる 5.研究倫理に配慮した研究計画書を作成できる		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 卒業研究Ⅱガイダンス 文献検索の目的と意義	在宅看護学や高齢者看護学について関心のある研究テーマを持参する	
	2. 研究テーマの明確化:リサーチクエスチョンを意識化する	実習場面や講義を振り返り、関心のある看護研究テーマを持参する	
	3. 研究テーマの明確化:リサーチクエスチョンとキーワードを焦点化する	いくつかの研究テーマから絞り込み、キーワードを考えておく	
	4. 文献検索演習(1): キーワードをもとに検索	適切なキーワードを5つ程度考えておく	
	5. 文献検索演習(2): 絞り込み検索	疾患や年齢、性別、看護方法や場等について絞りこみができる準備をしておく	
	6. 文献検索演習(3): 有用な文献を選択	アブストラクトを読み、有用な文献を選択しておく	
	7. 研究テーマに関連した文献検討(1): 文献を読み込み文献カード作成	収集した文献を読んでおく	
	8. 研究テーマに関連した文献検討(2): 作成した文献カードを分類する	収集した文献を読み、整理する	
	9. 研究テーマに関連した文献検討(3): 先行研究成果を明らかにする	収集した文献から、先行研究成果について発表できるように準備する	
	10. 研究テーマに関連した文献検討(4): 先行研究結果から研究課題を明確にする	テーマに関する文献検討資料の作成	
	11. 研究テーマに関連した文献検討(5): 先行研究結果から研究課題の意義をまとめる	テーマに関する文献検討資料の作成	
	12. 研究テーマに関連した文献検討(6): 文献検討結果をわかりやすく整理し文章化する	文献検討結果をレポートにまとめておく	
	13. 研究テーマに関連した文献検討(7): 文献検討結果をレポートとしてまとめる	レポート①を修正し、提出する	
	14. 研究テーマに関連した文献検討(8): 文献検討結果のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく	
	15. 研究計画書の意義、構成等について	資料を読み、計画書の作成について復習しておく。卒業研究Ⅰで作成した計画書を見直す。	
	16. 研究方法の検討(対象者の選定やデザイン)	量的研究、質的研究の分析方法について学習しておく 研究実施の予算やスケジュールについて	
	17. 研究倫理について(1): 研究倫理の現状、法律と制度	研究倫理について、卒業研究Ⅰの内容を復習しておく	
	18. 研究倫理について(2): 倫理的配慮の手続方法きについて	倫理審査委員会について調べておく	
	19. 研究方法について(1): 実験研究	実験研究方法について復習しておく	
	20. 研究方法について(2): 質的研究法	質的研究方法について復習しておく	
	21. 研究方法について(3): 事例研究	事例研究について復習しておく	
	22. 研究方法について(4): 実態調査: 質問紙法)	質問紙法について復習しておく	
	23. 研究計画について(分析方法の検討)	研究計画の検討	
	24. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画原案の作成	
	25. 研究計画書の作成(修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	26. 研究計画書の作成(推敲)	研究計画書の見直しと修正案の作成	
	27. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(レポート②)の仕上げをしておく	
	28. 研究計画書のプレゼンテーション準備	資料の作成	
	29. 研究計画書のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく	
	30. まとめ		
	受講者へのメッセージやアドバイス:	興味あるテーマを見つけて、看護の現象について深く考え将来的に看護の質の向上につながるような研究を計画しましょう。	
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標1~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		

参考文献等：	必要時、紹介する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法：	講義時又はメールで連絡する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と修得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	文献検索の意義と方法を理解し、関心ある研究に関する文献を検討する。そこから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的、取り組むための適切な方法などを検討し、研究計画を立案・作成する。ここでは、主として健康長寿に関するテーマを取り上げ、研究に取り組む。		
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索することができる。 2. 関心ある研究に関する文献を検討することができる。 3. 文献検討などから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にすることができる。 4. 自らの研究テーマに取り組むための適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 自らの研究テーマに沿った研究計画書が作成できる。		
授業方法:	演習・ゼミナール		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション:研究をすすめること	卒業研究Ⅰでの学びの確認	
	2. 在宅・高齢者看護学関連の研究とは1	関心あるテーマの資料の準備	
	3. 在宅・高齢者看護学関連の研究とは2	関心あるテーマの資料の準備	
	4. 文献検索とは何か1:目的・意義	関心あるテーマの資料の準備	
	5. 文献検索とは何か2:その方法	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	6. 疑問から研究テーマへ	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	7. 研究テーマの明確化1	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	8. 研究テーマの明確化2	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	9. 研究テーマに関連した文献検討1	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	10. 研究テーマに関連した文献検討2	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	11. 研究テーマに関連した文献検討3	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	12. 研究テーマに関連した文献検討4	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	13. 研究テーマに関連した文献検討5	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	14. 研究テーマに関連した文献検討6	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	15. 研究テーマに関連した文献検討7	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	16. 研究テーマに関連した文献検討8	関心あるテーマの文献検討資料の作成	
	17. 研究倫理を考える1	研究倫理に関する資料の準備	
	18. 研究倫理を考える2	研究倫理に関する資料の準備	
	19. 研究方法の検討1:研究テーマに取り組むための方法①	研究方法に関する資料の準備	
	20. 研究方法の検討2:研究テーマに取り組むための方法②	研究方法に関する資料の準備	
	21. 研究計画書の作成1:研究計画書をすすめる前に	研究計画書作成の準備	
	22. 研究計画書の作成2:研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成の準備	
	23. 研究計画書の作成3:研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成(原案)	
	24. 研究計画書の作成4:原案作成①	研究計画書作成(原案)	
	25. 研究計画書の作成5:原案作成②	研究計画書作成(原案)	
	26. 研究計画書の作成6:修正	研究計画書作成(修正)	
	27. 研究計画書の作成7:完成・確認	研究計画書作成(修正)	
	28. 研究計画書のプレゼンテーション1:準備	研究計画書のプレゼンテーション準備	
	29. 研究計画書のプレゼンテーション2:発表	研究計画書のプレゼンテーション準備	
	30. 研究計画書のプレゼンテーション3:まとめ	研究計画書のプレゼンテーション準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	楽しく研究しましょう		
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考文献等:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	適宜ゼミ内で助言する。		

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究Ⅰの学修を基盤として、ウイメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

1) 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2) 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3) 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4) 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5) 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	演習(プレゼンテーション、ディスカッションなど)	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 関心のあるテーマの模索①ブレインストーミング	これまでの学習や経験からウイメンズヘルス領域における関心のあるテーマについて考える
	3. 関心のあるテーマの模索②ブレインストーミング後の情報整理、テーマを絞る	前回の授業内容から、情報整理をしておく
	4. 関心のあるテーマと文献検討①	卒業研究Ⅰで学習した文献クリティークの視点を確認しておく
	5. 関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく
	6. 関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく
	7. 関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく
	8. 関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく
	9. 関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく
	10. 関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく
	11. 関心のあるテーマと文献検討⑧	文献を丁寧に読んでおく
	12. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ①	文献レビューを作成する
	13. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ②	文献レビューを作成する
	14. 研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討の総括をする
	15. 研究方法の検討①研究倫理	卒業研究Ⅰで学習した研究倫理を確認しておく
	16. 研究方法の検討②研究デザイン	卒業研究Ⅰで学習した研究デザインを確認しておく
	17. 研究方法の検討③データ収集方法	卒業研究Ⅰで学習したデータ収集方法を確認しておく
	18. 研究方法の検討④データ分析方法	卒業研究Ⅰ、保健医療統計で学習したデータ分析方法を確認しておく
	19. 研究計画書の作成①背景	卒業研究Ⅰで学習した研究計画書の構成を確認しておく
	20. 研究計画書の作成②背景	これまでに作成した文献レビューを整理しておく
	21. 研究計画書の作成③研究方法	研究目的・仮説を確認しておく
	22. 研究計画書の作成④分析方法	研究目的・仮説・研究方法を確認しておく
	23. 研究計画書の作成⑤倫理的配慮	卒業研究Ⅰで学習した「倫理的配慮の必要性やその理由について」再確認しておく
	24. 研究計画書の作成⑥原案完成	授業19～23を振り返り、計画書の作成準備を行う
	25. 研究計画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備をしておく
	26. 研究計画書のプレゼンテーション②	配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する
	27. 研究計画書の推敲	授業25,26を振り返り、アドバイスを参考に推敲しておく
	28. 研究計画書の完成	誤字脱字などないように確認しておく
	29. 夏期休暇中の課題の明確化	研究実施に向けて、具体的に進め方をイメージする
	30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

関心のあるテーマについての研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言などの文献を読み込み、論理的・批判的な思考力を学修していきます。

フィードバックの方法:

授業内で解説・フィードバックを行う、計画書はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	50	到達目標1)～5)の到達度や計画書の完成度により評価する
	発表、討論	30	到達目標1)2)の理解度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
	授業への参加度	20	積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考文献等:

テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメールなど

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。</td></tr><tr><td>2. リサーチクエスションの探索</td><td>看護に関する疑問の探索と追及。</td></tr><tr><td>3. 研究テーマの明確化</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>4. 研究テーマの決定</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討1</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討2</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討3</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>8. 研究テーマに関連した文献検討4</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>9. 研究倫理</td><td>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。</td></tr><tr><td>10. 仮説の検討</td><td>仮説を検討しておく。</td></tr><tr><td>11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)</td><td>研究デザインを検討しておく。</td></tr><tr><td>12. 研究方法の検討(研究対象の検討)</td><td>研究対象を検討しておく。</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)</td><td>データ収集方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討(分析方法の検討)</td><td>分析方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>15. 研究倫理の再確認</td><td>自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。</td></tr><tr><td>16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>19. 研究計画書とは</td><td>研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成(背景・目的)1</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成(背景・目的)2</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成(用語の定義)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>23. 計画書の作成(研究方法)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>26. 計画書の作成(倫理的配慮)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の作成(まとめ)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の発表準備</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の発表準備</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>30. 研究計画書の発表</td><td>発表の準備。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。	2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。	28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。	29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。	30. 研究計画書の発表	発表の準備。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。																																																																
2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。																																																																
3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。																																																																
4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。																																																																
5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。																																																																
10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。																																																																
11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。																																																																
12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。																																																																
13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。																																																																
14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。																																																																
15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。																																																																
16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。																																																																
17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。																																																																
18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。																																																																
19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。																																																																
20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。																																																																
21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。																																																																
22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。																																																																
23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。																																																																
24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。																																																																
25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。																																																																
26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。																																																																
27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。																																																																
28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。																																																																
29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。																																																																
30. 研究計画書の発表	発表の準備。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究計画書</td><td>70</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																																
参考文献等:	小笠原知枝, 松木光子編(2017) これからの看護研究—基礎と応用, ニューヴェルヒロカワ。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。																																																																

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																														
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																														
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。																																																														
到達目標:	・文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 ・研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 ・自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 ・研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 ・研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																														
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																														
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 卒業研究Ⅱの科目オリエンテーション</td><td>卒業研究Ⅰの授業資料を整理する(予習) シラバスを確認する(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習)</td></tr><tr><td>2. 文献検索の目的と意義</td><td>授業内容を整理する(復習) 自身が受けた授業内容や実習体験などから、研究疑問を考える(復習)</td></tr><tr><td>3. 研究疑問(テーマ)の明確化</td><td>関心のあるテーマを探す(予習) 関心のあるテーマに関連した文献を探す(復習)</td></tr><tr><td>4. 研究テーマに関連した文献検討①</td><td>テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討②</td><td>テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討③</td><td>テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>7. 研究計画書作成の目的と意義</td><td>研究計画書作成についての資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)</td></tr><tr><td>8. 研究計画書作成の方法</td><td>研究計画書作成についての資料を読む(復習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)</td></tr><tr><td>9. 研究方法の検討(研究倫理①)</td><td>研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)</td></tr><tr><td>10. 研究方法の検討(研究倫理②)</td><td>研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)</td></tr><tr><td>11. 研究方法の検討(分析方法①)</td><td>研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理する(復習)</td></tr><tr><td>12. 研究方法の検討(分析方法②)</td><td>研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理し、自身の研究に適した分析方法について考える(復習)</td></tr><tr><td>13. 研究計画書(背景①)</td><td>研究計画(背景)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>14. 研究計画書(背景②)</td><td>研究計画(背景)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>15. 研究計画書(研究デザイン)</td><td>研究計画(研究デザイン)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>16. 研究計画書(倫理的配慮①)</td><td>研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>17. 研究計画書(倫理的配慮②)</td><td>研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>18. 研究計画書(分析方法の検討①)</td><td>研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>19. 研究計画書(分析方法の検討②)</td><td>研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成(原案作成①)</td><td>研究計画書(案)を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成(原案作成②)</td><td>研究計画書(案)を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成(原案作成③)</td><td>研究計画書(案)を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>23. 研究計画書の作成(推敲・修正①)</td><td>研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>24. 研究計画書の作成(推敲・修正②)</td><td>研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)</td></tr><tr><td>25. 研究計画書の作成(完成)</td><td>研究計画書全体の検討を行う(予習・復習)</td></tr><tr><td>26. 研究計画書のプレゼンテーションに向けた準備</td><td>研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>27. 研究計画書のプレゼンテーション①</td><td>研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>28. 研究計画書のプレゼンテーション②</td><td>研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>29. 研究計画書のプレゼンテーション③</td><td>研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)</td></tr><tr><td>30. まとめ</td><td>研究計画書全体を振り返る(予習・復習)</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 卒業研究Ⅱの科目オリエンテーション	卒業研究Ⅰの授業資料を整理する(予習) シラバスを確認する(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習)	2. 文献検索の目的と意義	授業内容を整理する(復習) 自身が受けた授業内容や実習体験などから、研究疑問を考える(復習)	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	関心のあるテーマを探す(予習) 関心のあるテーマに関連した文献を探す(復習)	4. 研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)	5. 研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)	6. 研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)	7. 研究計画書作成の目的と意義	研究計画書作成についての資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)	8. 研究計画書作成の方法	研究計画書作成についての資料を読む(復習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)	9. 研究方法の検討(研究倫理①)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)	10. 研究方法の検討(研究倫理②)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)	11. 研究方法の検討(分析方法①)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理する(復習)	12. 研究方法の検討(分析方法②)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理し、自身の研究に適した分析方法について考える(復習)	13. 研究計画書(背景①)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習)	14. 研究計画書(背景②)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習)	15. 研究計画書(研究デザイン)	研究計画(研究デザイン)を検討する(予習・復習)	16. 研究計画書(倫理的配慮①)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)	17. 研究計画書(倫理的配慮②)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)	18. 研究計画書(分析方法の検討①)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)	19. 研究計画書(分析方法の検討②)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)	20. 研究計画書の作成(原案作成①)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)	21. 研究計画書の作成(原案作成②)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)	22. 研究計画書の作成(原案作成③)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)	23. 研究計画書の作成(推敲・修正①)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)	24. 研究計画書の作成(推敲・修正②)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)	25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書全体の検討を行う(予習・復習)	26. 研究計画書のプレゼンテーションに向けた準備	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)	27. 研究計画書のプレゼンテーション①	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)	28. 研究計画書のプレゼンテーション②	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)	29. 研究計画書のプレゼンテーション③	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)	30. まとめ	研究計画書全体を振り返る(予習・復習)
授業内容	準備学習等の内容																																																														
1. 卒業研究Ⅱの科目オリエンテーション	卒業研究Ⅰの授業資料を整理する(予習) シラバスを確認する(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習)																																																														
2. 文献検索の目的と意義	授業内容を整理する(復習) 自身が受けた授業内容や実習体験などから、研究疑問を考える(復習)																																																														
3. 研究疑問(テーマ)の明確化	関心のあるテーマを探す(予習) 関心のあるテーマに関連した文献を探す(復習)																																																														
4. 研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)																																																														
5. 研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)																																																														
6. 研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習)																																																														
7. 研究計画書作成の目的と意義	研究計画書作成についての資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)																																																														
8. 研究計画書作成の方法	研究計画書作成についての資料を読む(復習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)																																																														
9. 研究方法の検討(研究倫理①)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)																																																														
10. 研究方法の検討(研究倫理②)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習)																																																														
11. 研究方法の検討(分析方法①)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理する(復習)																																																														
12. 研究方法の検討(分析方法②)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理し、自身の研究に適した分析方法について考える(復習)																																																														
13. 研究計画書(背景①)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習)																																																														
14. 研究計画書(背景②)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習)																																																														
15. 研究計画書(研究デザイン)	研究計画(研究デザイン)を検討する(予習・復習)																																																														
16. 研究計画書(倫理的配慮①)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)																																																														
17. 研究計画書(倫理的配慮②)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習)																																																														
18. 研究計画書(分析方法の検討①)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)																																																														
19. 研究計画書(分析方法の検討②)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習)																																																														
20. 研究計画書の作成(原案作成①)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)																																																														
21. 研究計画書の作成(原案作成②)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)																																																														
22. 研究計画書の作成(原案作成③)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習)																																																														
23. 研究計画書の作成(推敲・修正①)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)																																																														
24. 研究計画書の作成(推敲・修正②)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習)																																																														
25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書全体の検討を行う(予習・復習)																																																														
26. 研究計画書のプレゼンテーションに向けた準備	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)																																																														
27. 研究計画書のプレゼンテーション①	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)																																																														
28. 研究計画書のプレゼンテーション②	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)																																																														
29. 研究計画書のプレゼンテーション③	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)																																																														
30. まとめ	研究計画書全体を振り返る(予習・復習)																																																														
受講者へのメッセージやアドバイス:																																																															
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。																																																														
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																																												
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																												
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																												
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																												
教科書:																																																															

参考文献等：	基礎看護学④ 看護研究、メディカ出版、2018 D.F.ポーリット, C.T.ベック、看護研究 原理と方法、医学書院、2010 西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院 黒田裕子、黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第5版、医学書院、2017
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法：	オフィスアワーを活用して下さい。

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。</td></tr><tr><td>2. リサーチクエスションの探索</td><td>看護に関する疑問の探索と追及。</td></tr><tr><td>3. 研究テーマの明確化</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>4. 研究テーマの決定</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討1</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討2</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討3</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>8. 研究テーマに関連した文献検討4</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>9. 研究倫理</td><td>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。</td></tr><tr><td>10. 仮説の検討</td><td>仮説を検討しておく。</td></tr><tr><td>11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)</td><td>研究デザインを検討しておく。</td></tr><tr><td>12. 研究方法の検討(研究対象の検討)</td><td>研究対象を検討しておく。</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)</td><td>データ収集方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討(分析方法の検討)</td><td>分析方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>15. 研究倫理の再確認</td><td>自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。</td></tr><tr><td>16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>19. 研究計画書とは</td><td>研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成(背景・目的)1</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成(背景・目的)2</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成(用語の定義)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>23. 計画書の作成(研究方法)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>26. 計画書の作成(倫理的配慮)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の作成(まとめ)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の発表準備</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の発表準備</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>30. 研究計画書の発表</td><td>発表の準備。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。	2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。	28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。	29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。	30. 研究計画書の発表	発表の準備。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。																																																																
2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。																																																																
3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。																																																																
4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。																																																																
5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。																																																																
10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。																																																																
11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。																																																																
12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。																																																																
13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。																																																																
14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。																																																																
15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。																																																																
16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。																																																																
17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。																																																																
18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。																																																																
19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。																																																																
20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。																																																																
21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。																																																																
22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。																																																																
23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。																																																																
24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。																																																																
25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。																																																																
26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。																																																																
27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。																																																																
28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。																																																																
29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。																																																																
30. 研究計画書の発表	発表の準備。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究計画書</td><td>70%</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20%</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10%</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																																
参考文献等:	小笠原知枝, 松木光子編(2017) これからの看護研究―基礎と応用,ヌーヴェルヒロカワ。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。																																																																

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方 2. 関心領域の明確化1 3. 関心領域の明確化2 4. 関心領域の研究の動向の探索1 5. 関心領域の研究の動向の探索2 6. 研究疑問の絞り込み1 7. 研究疑問の絞り込み2 8. 研究課題の明確化 9. 研究課題に関する文献検討1 10. 研究課題に関する文献検討2 11. 研究の背景・意義・目的の検討1 12. 研究の背景・意義・目的の検討2 13. 研究デザインの検討(質的・量的) 14. 研究方法の検討(質的・量的)1 15. 研究方法の検討(質的・量的)2 16. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1 17. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2 18. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3 19. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1 20. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2 21. 倫理的配慮の検討 22. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成1 23. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成2 24. 研究計画書(原案)章立ての作成 25. 研究計画書文献レビューの作成 26. 研究計画書の作成(推敲・修正)1 27. 研究計画書の作成(推敲・修正)2 28. 研究計画書の作成(完成) 29. 研究計画書のプレゼンテーション1 30. 研究計画書のプレゼンテーション2	卒業研究Ⅰの復習 成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する 成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する 図書館の医学データベースで調べ、発表資料を準備する 図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する 実施可能性のあるテーマを考えておく 実施可能性のあるテーマを考えておく 実施可能性のあるテーマを考えておく 図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する 図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する 文献から研究課題の位置づけを探る 文献から研究課題の位置づけを探る 研究課題に即した研究デザインを選択する 研究課題に即した研究方法を選択する 研究課題に即した研究方法を選択する 研究枠組の作成方法を復習する 研究枠組の作成方法を復習する 研究枠組の作成方法を復習する 統計方法を復習する 統計方法を復習する 研究倫理を復習する 資料の作成 資料の作成 資料の作成 資料の作成 資料の作成 資料の作成 資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく 資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく	
受講者への メッセージや アドバイス:	臨床実習や講義を通して関心ある看護現象を明らかにし、研究計画書作成までのプロセスを獲得してください。		
フィードバックの 方法:	研究計画書の作成に沿って、その都度助言をします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
	プレゼンテーション、ディ スカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		
参考文献等:	必要時、紹介する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	講義時又はメールで連絡する。		

FLTナンバー:	NUSI47-KG
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)
授業の概要:	成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。
授業方法:	グループで一つの研究課題に取り組む。学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
2.	関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える
3.	関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考える
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考える
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考える
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る
13.	研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する
14.	研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する
15.	研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する
16.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する
17.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する
18.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する
19.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する
20.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成
24.	研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成
26.	研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成
27.	研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成
28.	研究計画書の作成(完成)	資料の作成
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法:

研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	研究の独自性、論理性、計画書の形式、プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

適宜、紹介する。

参考文献等:

必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール マナビー

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>興味・関心あるテーマを準備する。</td></tr><tr><td>2. 文献検索の目的と意義</td><td>文献検索するためのキーワードを準備する。</td></tr><tr><td>3. 研究疑問(テーマ)の明確化</td><td>興味・関心あるテーマを準備する。</td></tr><tr><td>4. 研究テーマに関連した文献収集</td><td>文献検索するためのキーワードを準備する。</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討①</td><td>収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける。</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討②</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討③</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>8. 文献検討結果の発表準備</td><td>文献検討結果を発表するための構成を考えておく。</td></tr><tr><td>9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>11. 研究課題の明確化</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>12. 研究計画書作成の目的と意義、方法</td><td>計画書の概要について復習しておく。</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討①</td><td>研究課題に沿った研究方法を学習しておく。</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討②</td><td>研究課題に沿った研究方法を学習しておく。</td></tr><tr><td>15. データ収集方法の学習</td><td>研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。</td></tr><tr><td>16. データ収集方法の検討</td><td>研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。</td></tr><tr><td>17. 研究倫理の確認</td><td>研究倫理について復習しておく</td></tr><tr><td>18. 分析方法の検討①</td><td>研究課題に沿った分析方法を学習しておく。</td></tr><tr><td>19. 分析方法の検討②</td><td>研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成①</td><td>研究計画書の構成について学習しておく。</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成②</td><td>研究計画書の原案を作成する</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成③</td><td>研究計画書の原案を作成する</td></tr><tr><td>23. 研究計画書の作成④</td><td>研究計画書の原案を作成する</td></tr><tr><td>24. 研究計画書の発表準備</td><td>研究計画書作成の準備を行う。</td></tr><tr><td>25. 研究計画書の発表・ディスカッション①</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>26. 研究計画書の発表・ディスカッション②</td><td>プレゼンテーションの準備を行う。</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の発表・ディスカッション③</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の見直し</td><td>研究計画書の修正を行う</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の完成</td><td>研究計画書の修正を行う</td></tr><tr><td>30. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。	2. 文献検索の目的と意義	文献検索するためのキーワードを準備する。	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。	4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。	5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける。	6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。	9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	11. 研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。	13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく	18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。	19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。	20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。	21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する	22. 研究計画書の作成③	研究計画書の原案を作成する	23. 研究計画書の作成④	研究計画書の原案を作成する	24. 研究計画書の発表準備	研究計画書作成の準備を行う。	25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。	27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う	28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う	29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う	30. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。																																																																
2. 文献検索の目的と意義	文献検索するためのキーワードを準備する。																																																																
3. 研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。																																																																
4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。																																																																
5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける。																																																																
6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく																																																																
7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく																																																																
8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。																																																																
9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
11. 研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。																																																																
13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。																																																																
14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。																																																																
15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。																																																																
16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。																																																																
17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく																																																																
18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。																																																																
19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。																																																																
20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。																																																																
21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する																																																																
22. 研究計画書の作成③	研究計画書の原案を作成する																																																																
23. 研究計画書の作成④	研究計画書の原案を作成する																																																																
24. 研究計画書の発表準備	研究計画書作成の準備を行う。																																																																
25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。																																																																
27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う																																																																
29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う																																																																
30. まとめ																																																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	文献を読み込み、自己の研究課題を明確化し、有用な研究のもととなる研究計画書を作成しましょう。																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する																																																																
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究計画書の内容</td><td>70</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:																																																																	
参考文献等:	適宜紹介する。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	講義時、オフィスアワーに対応する。																																																																

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 看護実践に必要な知識や情報収集・分析のための知識を習得し、豊かな人間性や倫理観と情報分析力、問題解決能力を培う。
文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 文献検索の目的と意義	卒業研究Ⅰの資料を読み直しておく
	2. 研究疑問(テーマ)の明確化	関心あるテーマの資料を持参する
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化(推敲・修正)	前回の授業を受けて関心のあるテーマをさらに絞り込む
	4. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献検討資料の作成
	5. 研究テーマに関連した文献検討(推敲・修正)	テーマに関する文献検討資料の作成・修正
	6. 研究テーマに関連した文献検討(推敲・修正)	テーマに関する文献検討資料の作成・修正
	7. 研究計画書作成の目的と意義、方法(草案)	文献検討を元に、研究の目的・意義・方法について検討
	8. 研究計画書の目的の明確化	文献検討を元に、研究の目的について検討
	9. 研究計画書作成の意義の明確化	文献検討を元に、研究の意義について検討
	10. 研究計画書作成の意義の明確化(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の意義について検討
	11. 研究計画書作成の方法の明確化	文献検討を元に、研究の方法について検討
	12. 研究計画書作成の方法の明確化(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の方法について検討
	13. 研究方法の検討(研究倫理)	文献検討を元に、研究倫理について検討
	14. 研究方法の検討(研究倫理)(推敲・修正)	文献検討を元に、研究倫理について検討
	15. 研究方法の検討(分析方法)	文献検討を元に、研究の分析方法について検討
	16. 研究方法の検討(分析方法)(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の分析方法について検討
	17. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(原案作成)	研究計画の検討
	18. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(推敲・修正)	研究計画の検討
	19. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(推敲・修正)	研究計画の検討
	20. 研究計画書(分析方法)(原案作成)	分析方法の検討
	21. 研究計画書(分析方法)(推敲・修正)	分析方法の修正
	22. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)の作成
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(案)の作成
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成
	25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(修正案)の作成
	26. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)	資料の作成
	27. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)(推敲・修正)	資料の修正
	28. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成
	29. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成
	30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメールを利用 葉山 yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	ウィメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文献検索の目的と意義		
	2. ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(1)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を持参する	
	3. ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(2)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を持参する	
	4. 研究テーマに関連した文献検索(1)	文献検索の方法を復習しておく	
	5. 研究テーマに関連した文献検索(2)		
	6. 研究テーマに関連した文献検索(3)		
	7. 研究テーマに関連した文献検索(4)		
	8. 文献の講読・検討(1)		
	9. 文献の講読・検討(2)		
	10. 文献の講読・検討(3)		
	11. 文献の講読・検討(4)		
	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	テーマに関する文献検討資料の作成	
	13. 研究方法の検討(研究倫理)	研究計画の検討	
	14. 研究方法の検討(分析方法)	研究計画の検討	
	15. 研究計画書(背景)		
	16. 研究計画書(研究デザイン、方法)	研究デザイン・方法について復習しておく	
	17. 研究計画書(分析方法)	分析方法について復習しておく	
	18. 研究計画書(倫理的配慮)	倫理的配慮について復習しておく	
	19. 研究計画書の作成(原案作成)		
	20. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)の作成	
	21. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	22. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成	
	25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(修正案)の作成	
	26. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)		
	27. 研究計画書のプレゼンテーション(準備)		
	28. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成	
	29. 研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成	
	30. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考文献等:	系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院 ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版 黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	質問などは主にゼミ中に対応する		

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要:

精神看護学領域において関心のある研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。

到達目標:

1.関心のあるテーマを明確にすることができる。
2.データベース(医学中央雑誌、CINAL、PubMed等)を活用して、関心のあるテーマに関する文献検索ができる。
3.文献検索で得た文献を整理し、関心のあるテーマについての現状を明らかにすることができる。
4.文献検討に基づき、自己の研究テーマを明確にすることができる。
5.研究テーマについての看護上の意義、目的を明確にすることができる。
6.研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

授業方法:	演習形式	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 関心のあるテーマを明らかにする。	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて考えておくこと。
	2. 関心のあるテーマについて:発表・意見交換	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて図書等を活用し調べておく。
	3. 関心のあるテーマについての文献検索(1)	データベースを活用した文献検索の方法を確認しておく。
	4. 関心のあるテーマについての文献検索(2)	文献検索で得た文献の整理
	5. 関心のあるテーマについての文献検索(3)	文献検索で得た文献の整理
	6. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(1)	文献検索で得た文献の整理
	7. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(2)	文献検索で得た文献の整理
	8. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(3)	文献検索で得た文献の整理
	9. 関心のあるテーマについての現状について(1)	文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる。
	10. 関心のあるテーマについての現状について(2)	文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる。
	11. 関心のあるテーマについての現状について(3):発表、意見交換	発表資料の作成
	12. 研究テーマの方向性についての検討	文献検討等の結果から、研究の目的を考えておく。
	13. 研究テーマの方向性についての検討	指導を受けて修正する。
	14. 研究方法の検討(1)	研究テーマ、研究目的に合致した研究方法を考えておく。
	15. 研究方法の検討(2)	指導を受けて修正する。
	16. 研究倫理について	一般的に「人を対象とした研究」を実施する際の研究倫理の重要性、および倫理的配慮について図書等を活用し整理しておく
	17. 研究倫理の重要性について:発表、意見交換	発表資料の作成
	18. 研究計画書の作成(1):研究の背景	研究計画書の作成
	19. 研究計画書の作成(2):研究の背景	指導を受けて、修正する。
	20. 研究計画書の作成(3):研究の目的	研究計画書の作成
	21. 研究計画書の作成(4):研究の目的	指導を受けて、修正する。
	22. 研究計画書の作成(5):研究方法	研究計画書の作成
	23. 研究計画書の作成(6):研究方法	指導を受けて、修正する。
	24. 研究計画書の作成(7):全体	研究計画書の作成
	25. 研究計画書の作成(8):全体	指導を受けて、修正する。
	26. 研究計画書の作成(9):全体	指導を受けて、修正する。
	27. 研究計画についての発表準備	発表資料の作成
	28. 研究計画についての発表・意見交換	
	29. 研究計画書の提出	
	30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

グループ、あるいは個々にフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書の作成	80	研究計画書作成に至るプロセスを理解し、実施することができる。
	授業への取り組み	20	主体的に取り組むことができる。

教科書:

適宜紹介する。

参考文献等:

適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。</td></tr><tr><td>2. リサーチクエスションの探索</td><td>看護に関する疑問の探索と追及。</td></tr><tr><td>3. 研究テーマの明確化</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>4. 研究テーマの決定</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討1</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討2</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討3</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>8. 研究テーマに関連した文献検討4</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>9. 研究倫理</td><td>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。</td></tr><tr><td>10. 仮説の検討</td><td>仮説を検討しておく。</td></tr><tr><td>11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)</td><td>研究デザインを検討しておく。</td></tr><tr><td>12. 研究方法の検討(研究対象の検討)</td><td>研究対象を検討しておく。</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)</td><td>データ収集方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討(分析方法の検討)</td><td>分析方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>15. 研究倫理の再確認</td><td>自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。</td></tr><tr><td>16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>19. 研究計画書とは</td><td>研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成(背景・目的)1</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成(背景・目的)2</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成(用語の定義)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>23. 計画書の作成(研究方法)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>26. 計画書の作成(倫理的配慮)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の作成(まとめ)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の発表準備1</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の発表準備2</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>30. 研究計画書の発表</td><td>発表の準備。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。	2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成。	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成。	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。	28. 研究計画書の発表準備1	発表資料の作成。	29. 研究計画書の発表準備2	発表資料の作成。	30. 研究計画書の発表	発表の準備。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。																																																																
2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。																																																																
3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。																																																																
4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。																																																																
5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																																
9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。																																																																
10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。																																																																
11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。																																																																
12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。																																																																
13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。																																																																
14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。																																																																
15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。																																																																
16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。																																																																
17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。																																																																
18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。																																																																
19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。																																																																
20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。																																																																
21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。																																																																
22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。																																																																
23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。																																																																
24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成。																																																																
25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成。																																																																
26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。																																																																
27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。																																																																
28. 研究計画書の発表準備1	発表資料の作成。																																																																
29. 研究計画書の発表準備2	発表資料の作成。																																																																
30. 研究計画書の発表	発表の準備。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究計画書</td><td>70%</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20%</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10%</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																																
参考文献等:	適宜提示する。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 自己管理力, 自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。																																																																

FLTナンバー：NUSI47-KG

授業テーマ：ウィメンズヘルスに関する課題の明確化と、研究プロセスの理解と習得（研究計画書の作成）。

授業の概要：ウィメンズヘルスに関する研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標：ウィメンズヘルスに関する課題や疑問を明らかにできる。
文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる（現状を把握できる）。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法：学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究の目的と意義(ガイダンス)	シラバスを持参する
2.	文献検索の目的と意義	医学中央雑誌Webの検索ガイドを見ておく
3.	文献検索①	関心あるテーマの資料を検索する
4.	文献検索②	関心あるテーマの資料を検索する
5.	研究疑問(テーマ)の明確化①	関心あるテーマの資料を持参する
6.	研究疑問(テーマ)の明確化②	関心あるテーマの資料を持参する
7.	研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料の作成
8.	研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料の作成
9.	研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料の作成
10.	研究計画書作成の目的と意義、方法	卒業研究Ⅰの授業資料を持参する
11.	研究方法の検討(研究倫理)	卒業研究Ⅰの授業資料を持参する
12.	研究方法の検討(分析方法①:量的分析)	保健医療統計の授業資料を持参する
13.	研究方法の検討(分析方法②:量的分析)	保健医療統計の授業資料を持参する
14.	研究方法の検討(分析方法③:質的分析)	保健医療統計の授業資料を持参する
15.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	卒業研究Ⅰの授業資料を持参する
16.	研究計画書の作成(原案作成①):背景	研究計画書(案)の作成
17.	研究計画書の作成(原案作成②):推敲・修正	研究計画書(案)の作成
18.	研究計画書の作成(原案作成③):研究デザイン	研究計画書(案)の作成
19.	研究計画書の作成(原案作成④):推敲・修正	研究計画書(案)の作成
20.	研究計画書の作成(原案作成⑤):方法	研究計画書(案)の作成
21.	研究計画書の作成(原案作成⑥):推敲・修正	研究計画書(案)の作成
22.	研究計画書の作成(原案作成⑦):倫理的配慮	研究計画書(案)の作成
23.	研究計画書の作成(推敲・修正①)	研究計画書(修正案)の作成
24.	研究計画書の作成(推敲・修正②)	研究計画書(修正案)の作成
25.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書(修正案)の作成
26.	研究計画書のプレゼンテーション(準備①)	資料の作成
27.	研究計画書のプレゼンテーション(準備②)	資料の作成
28.	研究計画書のプレゼンテーション(準備③)	資料の作成
29.	研究計画書のプレゼンテーション	
30.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法：教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

ゼミにおける直接連絡

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>興味・関心あるテーマを準備する。</td></tr><tr><td>2. 文献検索の目的と意義</td><td>文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。</td></tr><tr><td>3. 研究疑問(テーマ)の明確化</td><td>興味・関心あるテーマを準備する。</td></tr><tr><td>4. 研究テーマに関連した文献収集</td><td>文献検索するためのキーワードを準備する。</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討①</td><td>収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける。</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討②</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討③</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>8. 文献検討結果の発表準備</td><td>文献検討結果を発表するための構成を考えておく。</td></tr><tr><td>9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>11. 研究課題の明確化</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>12. 研究計画書作成の目的と意義、方法</td><td>計画書の概要について復習しておく。</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討①</td><td>研究課題に沿った研究方法を学習しておく。</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討②</td><td>研究課題に沿った研究方法を学習しておく。</td></tr><tr><td>15. データ収集方法の学習</td><td>研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。</td></tr><tr><td>16. データ収集方法の検討</td><td>研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。</td></tr><tr><td>17. 研究倫理の確認</td><td>研究倫理について復習しておく</td></tr><tr><td>18. 分析方法の検討①</td><td>研究課題に沿った分析方法を学習しておく。</td></tr><tr><td>19. 分析方法の検討②</td><td>研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成①</td><td>研究計画書の構成について学習しておく。</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成②</td><td>研究計画書の原案を作成する</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成③</td><td>研究計画書の修正案を作成する</td></tr><tr><td>23. 研究計画書の作成④</td><td>研究計画書の修正案を作成する</td></tr><tr><td>24. 研究計画書の発表準備</td><td>研究計画書発表の準備を行う。</td></tr><tr><td>25. 研究計画書の発表・ディスカッション①</td><td>プレゼンテーションの準備を行う。</td></tr><tr><td>26. 研究計画書の発表・ディスカッション②</td><td>プレゼンテーションの準備を行う。</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の発表・ディスカッション③</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の見直し</td><td>研究計画書の修正を行う</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の完成</td><td>研究計画書の修正を行う</td></tr><tr><td>30. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。	2. 文献検索の目的と意義	文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。	4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。	5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける。	6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。	9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	11. 研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。	13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。	15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。	17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく	18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。	19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。	20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。	21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する	22. 研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する	23. 研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する	24. 研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う。	25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う。	26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。	27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う	28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う	29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う	30. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。																																																																
2. 文献検索の目的と意義	文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。																																																																
3. 研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。																																																																
4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。																																																																
5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける。																																																																
6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく																																																																
7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく																																																																
8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。																																																																
9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
11. 研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。																																																																
13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。																																																																
14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。																																																																
15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。																																																																
16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。																																																																
17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく																																																																
18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。																																																																
19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。																																																																
20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。																																																																
21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する																																																																
22. 研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する																																																																
23. 研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する																																																																
24. 研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う。																																																																
25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う。																																																																
26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。																																																																
27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う																																																																
29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う																																																																
30. まとめ																																																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究計画書の内容</td><td>70</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:																																																																	
参考文献等:																																																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	講義時、オフィスアワーに対応する。																																																																

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																															
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																															
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。																																																															
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																															
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																															
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。</td></tr><tr><td>2. リサーチクエスションの探索</td><td>看護に関する疑問の探索と追及。</td></tr><tr><td>3. 研究テーマの明確化</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>4. 研究テーマの決定</td><td>関連のある文献を検索、検討。</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討1</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討2</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討3</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>8. 研究テーマに関連した文献検討4</td><td>研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。</td></tr><tr><td>9. 研究倫理</td><td>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。</td></tr><tr><td>10. 仮説の検討</td><td>仮説を検討しておく。</td></tr><tr><td>11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)</td><td>研究デザインを検討しておく。</td></tr><tr><td>12. 研究方法の検討(研究対象の検討)</td><td>研究対象を検討しておく。</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)</td><td>データ収集方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討(分析方法の検討)</td><td>分析方法を検討しておく。</td></tr><tr><td>15. 研究倫理の再確認</td><td>自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。</td></tr><tr><td>16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)</td><td>資料を作成しておく。</td></tr><tr><td>19. 研究計画書とは</td><td>研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成(背景・目的)1</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成(背景・目的)2</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成(用語の定義)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>23. 計画書の作成(研究方法)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>26. 計画書の作成(倫理的配慮)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の作成(まとめ)</td><td>研究計画書の作成。</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の発表準備1</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の発表準備2</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>30. 研究計画書の発表</td><td>発表の準備。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。	2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。	4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。	19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成。	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成。	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。	28. 研究計画書の発表準備1	発表資料の作成。	29. 研究計画書の発表準備2	発表資料の作成。	30. 研究計画書の発表	発表の準備。	
授業内容	準備学習等の内容																																																															
1. オリエンテーション	研究Ⅰを見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。																																																															
2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。																																																															
3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。																																																															
4. 研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討。																																																															
5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																															
6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																															
7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																															
8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。																																																															
9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。																																																															
10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。																																																															
11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。																																																															
12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。																																																															
13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。																																																															
14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。																																																															
15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。																																																															
16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。																																																															
17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。																																																															
18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。																																																															
19. 研究計画書とは	研究Ⅰで作成した研究計画書の再検討をしておく。																																																															
20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。																																																															
21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。																																																															
22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。																																																															
23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。																																																															
24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成。																																																															
25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成。																																																															
26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。																																																															
27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。																																																															
28. 研究計画書の発表準備1	発表資料の作成。																																																															
29. 研究計画書の発表準備2	発表資料の作成。																																																															
30. 研究計画書の発表	発表の準備。																																																															
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。																																																															
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																															
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																																													
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																													
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																													
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																													
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																															
参考文献等:	適宜提示する。																																																															
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																															
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。																																																															

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)		
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する		
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。 6. 看護の事象について問題意識を持ち、積極的に探求する姿勢をもつ		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文献検索の目的と意義	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す	
	2. 研究疑問(テーマ)の明確化	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す	
	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	研究テーマとして考えていることをその理由も含めてまとめておく テーマに関する資料・文献を探す	
	4. 研究疑問(テーマ)の明確化	テーマに関する資料・文献を探す	
	5. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む	
	6. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	7. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	8. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	9. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	10. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	11. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成	
	12. 研究テーマに関連した文献検討	卒業研究Ⅰの資料を読んでおく	
	13. 研究計画書作成の目的と意義、方法	研究テーマの背景についてまとめる	
	14. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究デザインをまとめる	
	15. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究方法をまとめる	
	16. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究の倫理的配慮についてまとめる	
	17. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究の分析方法について考える	
	18. 研究計画書(分析方法)	研究の分析方法をまとめる	
	19. 研究計画書(分析方法)	研究計画書の前案をまとめる	
	20. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書を修正する	
	21. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	22. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する	
	25. 研究計画書の作成(完成)	プレゼンテーションの準備をする	
	26. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	27. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	28. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	29. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする	
	30. まとめ	研究計画書を修正し、完成させる データ収集など今後の計画についてまとめる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していく基礎となる力を身につけましょう。		
フィードバックの方法:	授業中にその都度フィードバックする 個別指導については、必要時メールで、または対面で時間外に行う		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70%	研究計画書を作成し、修正することができる(目標1〜5)
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	自分の考えや学習成果を授業の中で明確に発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること(目標1〜6)
	態度	10%	自主性および授業に臨む態度(目標6)
教科書:			

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

メールまたはマナビーを通じて連絡する(hihashim@dwc.doshisha.ac.jp)
必要であれば研究室に来てください

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス</td><td>興味・関心あるテーマを準備する</td></tr><tr><td>2. 文献検索の目的と意義</td><td>興味・関心あるテーマを準備する</td></tr><tr><td>3. 研究疑問(テーマ)の明確化</td><td>文献検索するためのキーワードを準備する</td></tr><tr><td>4. 研究テーマに関連した文献収集</td><td>文献検索するためのキーワードを準備する</td></tr><tr><td>5. 研究テーマに関連した文献検討①</td><td>収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける</td></tr><tr><td>6. 研究テーマに関連した文献検討②</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>7. 研究テーマに関連した文献検討③</td><td>文献を丁寧に読んでおく</td></tr><tr><td>8. 文献検討結果の発表準備</td><td>文献検討結果を発表するための構成を考えておく</td></tr><tr><td>9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>11. 研究課題の明確化</td><td>プレゼンテーション結果をふまえ、研究課題を再検討する</td></tr><tr><td>12. 研究計画書作成の目的と意義、方法</td><td>計画書の概要について復習しておく</td></tr><tr><td>13. 研究方法の検討①</td><td>研究課題に沿った研究方法を学習しておく</td></tr><tr><td>14. 研究方法の検討②</td><td>研究課題に沿った研究方法を学習しておく</td></tr><tr><td>15. データ収集方法の学習</td><td>研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく</td></tr><tr><td>16. データ収集方法の検討</td><td>研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく</td></tr><tr><td>17. 研究倫理の確認</td><td>研究倫理について復習しておく</td></tr><tr><td>18. 分析方法の検討①</td><td>研究課題に沿った分析方法を学習しておく</td></tr><tr><td>19. 分析方法の検討②</td><td>研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。</td></tr><tr><td>20. 研究計画書の作成①</td><td>研究計画書の構成について学習しておく</td></tr><tr><td>21. 研究計画書の作成②</td><td>研究計画書の原案を作成する</td></tr><tr><td>22. 研究計画書の作成③</td><td>研究計画書の修正案を作成する</td></tr><tr><td>23. 研究計画書の作成④</td><td>研究計画書の修正案を作成する</td></tr><tr><td>24. 研究計画書の発表準備</td><td>研究計画書発表の準備を行う</td></tr><tr><td>25. 研究計画書の発表・ディスカッション①</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>26. 研究計画書の発表・ディスカッション②</td><td>プレゼンテーションの準備を行う</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の発表・ディスカッション③</td><td>プレゼンテーションの準備を行う。</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の見直し</td><td>研究計画書の修正を行う</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の完成</td><td>研究計画書の修正を行う</td></tr><tr><td>30. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス	興味・関心あるテーマを準備する	2. 文献検索の目的と意義	興味・関心あるテーマを準備する	3. 研究疑問(テーマ)の明確化	文献検索するためのキーワードを準備する	4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する	5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける	6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく	7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく	8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく	9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	11. 研究課題の明確化	プレゼンテーション結果をふまえ、研究課題を再検討する	12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく	13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく	14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく	15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく	16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく	17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく	18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく	19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。	20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく	21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する	22. 研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する	23. 研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する	24. 研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う	25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う	26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う	27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う。	28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う	29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う	30. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. ガイダンス	興味・関心あるテーマを準備する																																																																
2. 文献検索の目的と意義	興味・関心あるテーマを準備する																																																																
3. 研究疑問(テーマ)の明確化	文献検索するためのキーワードを準備する																																																																
4. 研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する																																																																
5. 研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおり、必要な論文を選んで優先度をつける																																																																
6. 研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく																																																																
7. 研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく																																																																
8. 文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく																																																																
9. 文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
10. 文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
11. 研究課題の明確化	プレゼンテーション結果をふまえ、研究課題を再検討する																																																																
12. 研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく																																																																
13. 研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく																																																																
14. 研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく																																																																
15. データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく																																																																
16. データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく																																																																
17. 研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく																																																																
18. 分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく																																																																
19. 分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。																																																																
20. 研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく																																																																
21. 研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する																																																																
22. 研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する																																																																
23. 研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する																																																																
24. 研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う																																																																
25. 研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
26. 研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う																																																																
27. 研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う。																																																																
28. 研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う																																																																
29. 研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う																																																																
30. まとめ																																																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:																																																																	
フィードバックの方法:	授業(ゼミ)でまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する																																																																
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究計画書</td><td>70</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>10</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加態度</td><td>20</td><td>研究に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	10	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	10	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	医学書院 系統看護学講座別巻 看護研究(著者代表 坂下玲子)																																																																
参考文献等:																																																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	manabeまたはE-mailにて対応する																																																																

FLTナンバー:	NUSI47-KG
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)
授業の概要:	成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する
到達目標:	1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。
授業方法:	グループで一つの研究課題に取り組む。学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習
	2. 関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える
	3. 関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える
	4. 関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく
	5. 関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく
	6. 研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考える
	7. 研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考える
	8. 研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考える
	9. 研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく
	10. 研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく
	11. 研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る
	12. 研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る
	13. 研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する
	14. 研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する
	15. 研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する
	16. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する
	17. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する
	18. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する
	19. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する
	20. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する
	21. 倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する
	22. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成
	23. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成
	24. 研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成
	25. 研究計画書文献レビューの作成	資料の作成
	26. 研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成
	27. 研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成
	28. 研究計画書の作成(完成)	資料の作成
	29. 研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく
	30. 研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法:

研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	到達目標2～5の到達について評価する。
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	研究の独自性、論理性、計画書の形式、プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

適宜、紹介する。

参考文献等:

必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義時又はメールで連絡する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と成果発表)		
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	1.研究倫理を遵守し、主体的に研究計画を遂行できる。 2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3.国内外の先行文献を用いて論理的に考察できる。 4.研究成果を論文形式にまとめることができる。 5.研究の概要について発表およびディスカッションができる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成のための準備	
	2. 卒業研究の実施準備ー研究協力の依頼	実施計画書に沿った研究依頼の手順を考えておく。	
	3. 卒業研究の実施準備ー研究調査の準備	調査の準備をしておく	
	4. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査①	データ収集の準備をしておく	
	5. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査②	データ収集の準備をしておく	
	6. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査③	データ収集の準備をしておく	
	7. 卒業研究のデータ整理	収集したデータを確認し、持参する	
	8. 卒業研究データ入力①	入力準備をしておく	
	9. 卒業研究データ入力②	データ入力をすすめるとともに分析資料の作成	
	10. 卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法 の確認)	分析資料を持参する	
	11. 卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法 の確認)	分析資料を持参する	
	12. 卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の 理解)	分析資料の作成	
	13. 卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の 理解)	分析資料の作成	
	14. 論文作成(背景の記述:先行研究結果から位置づけ)	文献検討結果と分析結果を照合しておく	
	15. 論文作成(背景の記述:研究の目的と意義)	文献検討結果と分析結果を照合しておく	
	16. 論文作成(方法の記述(1))	方法を記述しておく	
	17. 論文作成(方法の記述(2))	方法を見直し記述しておく	
	18. 論文作成(結果の構成)	結果の構成を考えておく	
	19. 論文作成(図表の作成)	結果を正確かつわかりやすく示す図表を作成しておく	
	20. 論文作成(結果の記述)	結果のアウトラインを記述しておく	
	21. 論文作成(結果の記述)	結果を記述しておく	
	22. 論文作成(結果の推敲)	結果を見直ししておく	
	23. 論文作成(考察の構成)	考察の構成を考える	
	24. 論文作成(考察の記述)	考察を記述しておく	
	25. 論文作成(考察の推敲)	考察の見直しをしておく	
	26. 論文の結論及び抄録作成	結論と抄録の作成	
	27. 抄録の作成とプレゼンテーション準備	抄録と発表資料の作成	
	28. 研究のプレゼンテーション	発表資料の作成	
	29. 研究のプレゼンテーション	発表資料の作成	
	30. 研究実施プロセスの評価		
受講者への メッセージや アドバイス:	将来的に看護の質の向上につながる研究課題を論文としてまとめるプロセスを経験します。 専門職としての問題意識、学習姿勢を養い、生涯自己研鑽を続けるための基本姿勢を身に付けましょう。		
フィードバックの 方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		

参考文献等：	必要時、紹介する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法：	講義時又はメールにて連絡する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と修得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	作成した研究計画書を確認し、それにそって研究をすすめる。データを収集、整理と分析を行う。研究結果を解釈し、論文形式にまとめて、発表する。		
到達目標:	1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。 5. 研究について発表し、ディスカッションすることができる。		
授業方法:	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究実施計画の立案1:研究計画書の確認	卒業研究Ⅱ(研究計画書)の確認	
	2. 研究実施計画の立案2:実施計画の確認	研究実施計画の準備	
	3. 研究の実施1:研究協力依頼、予備的な調査①	実施計画に基づく準備・確認	
	4. 研究の実施2:研究協力依頼、予備的な調査②	実施計画に基づく準備・確認	
	5. 研究の実施3:データ収集①	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	6. 研究の実施4:データ収集②	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	7. 研究の実施5:データ収集③	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	8. 研究の実施6:データ収集④	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	9. 研究の実施7:データ収集⑤	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	10. 研究の実施8:データ収集⑥	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	11. 研究の実施9:データ収集⑦	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	12. 研究の実施10:データ収集⑧	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	13. 研究の実施11:データ収集⑨	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	14. 研究の実施12:データ収集⑩	実施計画に基づく研究の実施準備・確認	
	15. 研究の実施13:データの整理・入力①	分析資料の作成準備	
	16. 研究の実施14:データの整理・入力②	分析資料の作成準備	
	17. 研究の実施15:データの分析①	分析資料の作成	
	18. 研究の実施16:データの分析②	分析資料の作成	
	19. 研究成果を論文にまとめる1:まとめ方の確認	論文作成	
	20. 研究成果を論文にまとめる2:表題や研究目的や意義、背景の記述	論文作成	
	21. 研究成果を論文にまとめる3:方法の記述①	論文作成	
	22. 研究成果を論文にまとめる4:方法の記述②	論文作成	
	23. 研究成果を論文にまとめる5:結果の記述①	論文作成	
	24. 研究成果を論文にまとめる6:結果の記述②	論文作成	
	25. 研究成果を論文にまとめる7:考察の記述①	論文作成	
	26. 研究成果を論文にまとめる8:考察の記述②	論文作成	
	27. 研究結果を論文にまとめる9:考察の記述③	論文作成	
	28. 研究成果を論文にまとめる10:なとめ・文献の記述、論文の体裁、流れなどの確認	論文作成	
	29. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成	
	30. 研究成果の発表・デスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	楽しく研究しましょう		
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独往性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	研究への態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:			
参考文献等:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	適宜ゼミ内で助言する		

教員との連絡
方法:

Eメールなど

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)																																																																
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する																																																																
到達目標:	研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 研究成果を論文形式にまとめることができる。 研究について発表することができる。 研究についてディスカッションすることができる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 1. データ収集に向けての準備</td><td>作成した研究計画書を熟読しておく。</td></tr><tr><td>2. 2. データの収集1</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>3. 3. データの収集2</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>4. 4. データの収集、整理、入力1</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>5. 5. データの収集、整理、入力2</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>6. 6. データのクリーニング、見直し</td><td>データを俯瞰する。</td></tr><tr><td>7. 7. データの分析1</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>8. 8. データの分析2</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>9. 9. データの分析3</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>10. 10. データの分析4</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>11. 11. 図表の作成1</td><td>図表などを作成する。</td></tr><tr><td>12. 12. 図表の作成2</td><td>図表などを作成する。</td></tr><tr><td>13. 13. 図表の作成3</td><td>図表などを作成する。</td></tr><tr><td>14. 14. データの分析、図表の見直し。</td><td>データ分析、図表などを見直す。</td></tr><tr><td>15. 15. 論文の記述に向けて</td><td>研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。</td></tr><tr><td>16. 16. 論文作成(背景)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>17. 17. 論文作成(方法)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>18. 18. 論文作成(結果)1</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>19. 19. 論文作成(結果)2</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>20. 20. 論文作成(考察)1</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>21. 21. 論文作成(考察)2</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>22. 22. 論文作成(考察)3</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>23. 23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>24. 24. 論文作成(見直し、印刷)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>25. 25. 抄録の作成</td><td>研究論文の本筋部分を取り出しておく。</td></tr><tr><td>26. 26. 抄録の作成</td><td>抄録の作成</td></tr><tr><td>27. 27. 研究発表の準備</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>28. 28. 研究発表の準備</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>29. 29. 研究の発表</td><td>発表の準備。</td></tr><tr><td>30. 30. 研究の報告と研究後の倫理について</td><td>研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。	2. 2. データの収集1	データを収集を進める。	3. 3. データの収集2	データを収集を進める。	4. 4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。	5. 5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。	6. 6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。	7. 7. データの分析1	データの分析を進める。	8. 8. データの分析2	データの分析を進める。	9. 9. データの分析3	データの分析を進める。	10. 10. データの分析4	データの分析を進める。	11. 11. 図表の作成1	図表などを作成する。	12. 12. 図表の作成2	図表などを作成する。	13. 13. 図表の作成3	図表などを作成する。	14. 14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。	15. 15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。	16. 16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。	17. 17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。	18. 18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。	19. 19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。	20. 20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。	21. 21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。	22. 22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。	23. 23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。	24. 24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。	25. 25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。	26. 26. 抄録の作成	抄録の作成	27. 27. 研究発表の準備	発表資料の作成。	28. 28. 研究発表の準備	発表資料の作成。	29. 29. 研究の発表	発表の準備。	30. 30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. 1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。																																																																
2. 2. データの収集1	データを収集を進める。																																																																
3. 3. データの収集2	データを収集を進める。																																																																
4. 4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。																																																																
5. 5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。																																																																
6. 6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。																																																																
7. 7. データの分析1	データの分析を進める。																																																																
8. 8. データの分析2	データの分析を進める。																																																																
9. 9. データの分析3	データの分析を進める。																																																																
10. 10. データの分析4	データの分析を進める。																																																																
11. 11. 図表の作成1	図表などを作成する。																																																																
12. 12. 図表の作成2	図表などを作成する。																																																																
13. 13. 図表の作成3	図表などを作成する。																																																																
14. 14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。																																																																
15. 15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。																																																																
16. 16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。																																																																
17. 17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。																																																																
18. 18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。																																																																
19. 19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。																																																																
20. 20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。																																																																
21. 21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。																																																																
22. 22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。																																																																
23. 23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。																																																																
24. 24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。																																																																
25. 25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。																																																																
26. 26. 抄録の作成	抄録の作成																																																																
27. 27. 研究発表の準備	発表資料の作成。																																																																
28. 28. 研究発表の準備	発表資料の作成。																																																																
29. 29. 研究の発表	発表の準備。																																																																
30. 30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究論文</td><td>70</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																																
参考文献等:	小笠原知枝, 松木光子編(2007) これからの看護研究—基礎と応用, ヌーヴェルヒロカワ。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。																																																																

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる。

到達目標: ・研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
・データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
・既存の文献を用いて論理的に考察できる。
・研究成果を論文形式にまとめることができる。
・研究について発表することができる。
・研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	本科目のオリエンテーション 卒業研究における実施計画とは	卒業研究ⅠⅡの授業資料を確認する(予習) シラバスを読む(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習)
2.	卒業研究における実施計画の方法	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書内容を確認する(予習) 授業内容を整理する(復習)
3.	卒業研究の実施－研究の依頼について	研究依頼方法について調べる(予習) 授業内容を整理する(復習)
4.	卒業研究の実施－研究対象者の応募について	研究対象者の応募方法について調べる(予習) 授業内容を整理する(復習)
5.	卒業研究の実施－データ収集①	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
6.	卒業研究の実施－データ収集②	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
7.	卒業研究の実施－データ収集③	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
8.	卒業研究の実施－データ収集④	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
9.	卒業研究の実施－データ収集⑤	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習)
10.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力①	データを整理し、資料を作成する(予習・復習)
11.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力②	データを整理し、資料を作成する(予習・復習)
12.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力③	データを整理し、資料を作成する(予習・復習)
13.	卒業研究の実施－データ分析①(記述統計)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
14.	卒業研究の実施－データ分析②(記述統計)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
15.	卒業研究の実施－データ分析①(統計解析)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
16.	卒業研究の実施－データ分析②(統計解析)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習)
17.	論文作成－背景の記述①	論文(背景)を作成するために必要な引用文献を選定する(予習・復習) 論文(背景)を整理する(復習)
18.	論文作成－背景の記述②	論文(背景)を作成するために必要な引用文献を選定する(予習・復習) 論文(背景)を整理する(復習)
19.	論文作成－方法の記述①	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する(予習・復習)
20.	論文作成－方法の記述②	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する(予習・復習)
21.	論文作成－結果の記述①	収集したデータから結果を整理する(予習・復習)
22.	論文作成－結果の記述②	収集したデータから結果を整理する(予習・復習)
23.	論文作成－考察の記述①	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する(予習・復習)
24.	論文作成－考察の記述②	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する(予習・復習)
25.	抄録の作成①	論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
26.	抄録の作成②	論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
27.	抄録の作成③	論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
28.	研究についてのプレゼンテーション	プレゼンテーション資料を作成する(予習) プレゼンテーション後、プレゼンテーション資料を振り返る(復習)
29.	研究についてのプレゼンテーションの振り返り	プレゼンテーションの振り返りを整理する(予習) プレゼンテーションの振り返りから、最終プレゼンテーション資料を作成する(復習)
30.	まとめ	本科目を振り返る(予習・復習)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等: 基礎看護学④ 看護研究、メディカ出版、2018
D.F、ポーリット、C.T.ベック、看護研究 原理と方法、医学書院、2010
西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院
黒田裕子、黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版、医学書院、2017

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法: オフィスアワーを活用して下さい。

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標:

研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。
	2. データの収集1	データの収集を進める。
	3. データの収集2	データの収集を進める。
	4. データの収集、整理、入力1	データの収集を進める。
	5. データの収集、整理、入力2	データの収集を進める。
	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。
	7. データの分析1	データの分析を進める。
	8. データの分析2	データの分析を進める。
	9. データの分析3	データの分析を進める。
	10. データの分析4	データの分析を進める。
	11. 図表の作成1	図表などを作成する。
	12. 図表の作成2	図表などを作成する。
	13. 図表の作成3	図表などを作成する。
	14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。
	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。
	16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。
	17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。
	18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。
	19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。
	20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。
	21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。
	22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。
	23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。
	24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。
	25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。
	26. 抄録の作成	抄録の作成。
	27. 研究発表の準備	発表資料の作成。
	28. 研究発表の準備	発表資料の作成。
	29. 研究の発表	発表の準備。
	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等:

小笠原知枝, 松木光子編(2017) これからの看護研究―基礎と応用,ヌーヴェルヒロカワ。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: ①研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる
②データを正確に分析し結果を明確に示すことができる
③既存の文献を用いて論理的に考察できる
④研究成果を論文形式にまとめることができる
⑤研究について発表することができる
⑥研究についてディスカッションすることができる
看護学科ディプロマポリシーにおける「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」を身に付けることができる

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成①	研究実施計画の作成
2.	研究実施計画の作成②	研究実施計画の作成
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集①	
4.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集②	
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	
10.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	
11.	卒業研究の実施－データ整理①	
12.	卒業研究の実施－データ整理②	
13.	卒業研究の実施－データ入力①	分析資料の作成
14.	卒業研究の実施－データ入力②	分析資料の作成
15.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)①	分析資料の作成
16.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)②	分析資料の作成
17.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)①	分析資料の作成
18.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)②	分析資料の作成
19.	論文作成－背景の記述①	論文の作成
20.	論文作成－背景の記述②	論文の作成
21.	論文作成－方法の記述①	論文の作成
22.	論文作成－方法の記述②	論文の作成
23.	論文作成－結果の記述①	論文の作成
24.	論文作成－結果の記述②	論文の作成
25.	論文作成－考察の記述①	論文の作成
26.	論文作成－考察の記述②	論文の作成
27.	抄録の作成および研究についてのプレゼンテーション①	抄録と発表資料の作成
28.	抄録の作成および研究についてのプレゼンテーション②	抄録と発表資料の作成
29.	抄録の作成および研究についてのプレゼンテーション③	抄録と発表資料の作成
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義前後及びメールで適宜対応する

FLTナンバー:	NUSI47-KG		
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)		
授業の概要:	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる		
到達目標:	1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析できる。 質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。 3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。 5.研究について発表およびディスカッションができる。		
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス 卒後研究Ⅲの進め方 2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1 3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2 4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す 研究計画書の修正があれば修正案を考えておく 印刷物を準備する 印刷物を準備する	
	5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく	
	6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査 7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査 8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査 9. データ入力1 エクセル入力 10. データ入力2 エクセル入力 11. データ入力3 エクセル入力 12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的) 13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的) 14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的) 15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	データ入力のフォーマットを作成しておく データ入力ミスがないか確認しておく SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする	
	16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1 17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2 18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3 19. 背景・目的・意義の記述 20. 研究方法の記述 21. 結果の記述1 22. 結果の記述2 23. 考察のための文献検討 24. 考察の記述1 25. 考察の記述2 26. 考察の記述3 27. 全体の推敲・修正 28. 抄録の作成 29. 研究のプレゼンテーション1 30. 研究のプレゼンテーション2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく 結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく 研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく 研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく 図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく 図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく 結果を解釈するのに必要な追加文献を収集し、検討しておく 結果を解釈できる考察を考えておく 結果を解釈できる考察を考えておく 論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく 指定された抄録のフォーマットを確認しておく PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく PPTを使用して、7分程度で発表する	
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって、研究プロセスを踏みながら、論旨の一貫性が確保された論文を作成しましょう。		
フィードバックの方法:	研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文 プレゼンテーション	70 20	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。 到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。

教科書： 適宜、紹介する。

参考文献等： 必要時、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法： 講義時又はメールにて連絡する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)
授業の概要:	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる
到達目標:	1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。 質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。 3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。 5.研究について発表およびディスカッションができる。
授業方法:	グループで作成した計画書に基づいて研究を実施する。学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	20. 研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	21. 結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	22. 結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	23. 考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく
	24. 考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく
	25. 考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく
	26. 考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく
	27. 全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく
	28. 抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく
	29. 研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく
	30. 研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する
	1. ガイダンス 卒後研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
	2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく
	3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する
	4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する
	5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく
	6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	
	7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	
	8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	
	9. データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく
	10. データ入力2 エクセル入力	
	11. データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく
	12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	
	19. 背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
受講者へのメッセージやアドバイス:	科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。	
フィードバックの方法:	研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。	
「成績評価方法」	評価方法	割合
「成績評価基準」:	研究論文	70
		到達目標1〜4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。

	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		
参考文献等:	必要時、紹介する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	メール マナビー		

FLTナンバー：NUSI47-KG

授業テーマ：研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要：研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標：

1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。

2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。

3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。

4.研究成果を論文形式にまとめることができる。

5.研究について発表することができる。

6.研究についてディスカッションすることができる。

授業方法：学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究実施計画の作成	研究計画書を見直す
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集方法について復習する
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データを収集する
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データを収集する
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データを収集する
10.	卒業研究の実施－データ整理	データを準備する
11.	卒業研究の実施－データ入力	データを準備する
12.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
13.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
14.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
15.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
16.	論文作成①	論文作成を行う
17.	論文作成②	論文作成を行う
18.	論文作成③	論文作成を行う
19.	論文作成④	論文作成を行う
20.	論文作成⑤	論文作成を行う
21.	論文作成⑥	論文作成を行う
22.	論文作成⑦	論文作成を行う
23.	論文作成⑧	論文作成を行う
24.	論文作成⑨	論文作成を行う
25.	論文作成⑩	論文作成を行う
26.	抄録の作成	抄録の構成を考える
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う
30.	研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法：講義内およびオフィスアワーで対応する

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

看護実践に必要な知識や情報収集・分析のための知識を習得し、豊かな人間性や倫理観と情報分析力、問題解決能力を培う。
研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:

学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成
	2. 研究実施計画の作成(推敲・修正)	研究実施計画の作成
	3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備
	4. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備
	6. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備
	7. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備
	8. 卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成
	9. 卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成
	10. 卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成
	11. 卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成
	12. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)	分析資料の作成
	13. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)(推敲・修正)	分析資料の作成
	14. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)	分析資料の作成
	15. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)(推敲・修正)	分析資料の作成
	16. 論文作成－背景の記述	論文の作成
	17. 論文作成－背景の記述(推敲・修正)	論文の作成
	18. 論文作成－方法の記述	論文の作成
	19. 論文作成－方法の記述(推敲・修正)	論文の作成
	20. 論文作成－結果の記述	論文の作成
	21. 論文作成－結果の記述(推敲・修正)	論文の作成
	22. 論文作成－考察の記述	論文の作成
	23. 論文作成－考察の記述(推敲・修正)	論文の作成
	24. 論文作成－考察の記述(推敲・修正)	論文の作成
	25. 抄録の作成	抄録の作成
	26. 抄録の作成(推敲・修正)	抄録の作成
	27. 研究についてのプレゼンテーション(準備)	発表資料の作成
	28. 研究についてのプレゼンテーション(準備)(推敲・修正)	発表資料の作成
	29. 研究についてのプレゼンテーション	発表準備
	30. 研究についてのプレゼンテーション	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメールを利用 葉山 yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそってウィメンズヘルス領域関する研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

研究対象者に倫理的配慮を行い、正確にデータ収集することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究成果を発表することができる。
研究成果についてディスカッションすることができる。

授業方法:

学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
13. 卒業研究の実施ーデータ分析(統計解析)	
14. 論文作成ー背景の記述①	収集した文献と文献検討のまとめを持参する
15. 論文作成ー背景の記述②	収集した文献と文献検討のまとめを持参する
16. 論文作成ー方法の記述①	
17. 論文作成ー方法の記述②	
18. 論文作成ー結果の記述①	データ分析の結果をまとめておく
19. 論文作成ー結果の記述②	データ分析の結果をまとめておく
20. 論文作成ー結果の記述③	データ分析の結果をまとめておく
21. 論文作成ー考察の記述①	収集した文献と文献検討のまとめを持参する
22. 論文作成ー考察の記述②	収集した文献と文献検討のまとめを持参する
23. 論文作成ー考察の記述③	収集した文献と文献検討のまとめを持参する
24. 論文作成ー結論の記述	
25. 論文全体の推敲・完成	論文(原案)を完成させておく 収集した文献と文献検討のまとめを持参する
26. 抄録(原案)の作成	論文を完成させておく
27. 抄録の修正・完成	抄録(原案)を完成させておく
28. プレゼンテーション①	発表の準備(資料の作成)をしておく
29. プレゼンテーション②	発表の準備(資料の作成)をしておく
30. まとめ	
1. オリエンテーション	研究計画書を持参する
2. 研究実施計画の作成	研究計画書を持参する
3. 卒業研究の実施ー研究協力の依頼	
4. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査①	
5. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査②	
6. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査③	
7. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査④	
8. 卒業研究の実施ーデータ収集 調査⑤	
9. 卒業研究の実施ーデータ整理	
10. 卒業研究の実施ーデータ入力①	
11. 卒業研究の実施ーデータ入力②	
12. 卒業研究の実施ーデータ分析(記述統計)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
出席・態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

質問などは主にゼミ中に対応する

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得

授業の概要:

研究計画書に基づいた研究の実施, 研究論文の作成.

到達目標:

1.研究計画書に基づいてデータの収集・分析を行うことができる.
2.実施した研究を研究論文にまとめることができる.

授業方法:	演習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究計画書に基づいた研究の実施準備(1)	具体的な実施計画を考える.
	2. 研究計画書に基づいた研究の実施準備(2): 研究協力依頼等	研究協力を依頼する際の手続きについて
	3. データ収集(1)	データ収集の準備

4. データ収集(2)	収集したデータの整理
-------------	------------

5. データ収集(3)	収集したデータの整理
-------------	------------

6. データ収集(4)	収集したデータの整理
7. データ収集(5)	収集したデータの整理
8. 収集したデータの整理・分析(1)	データの分析
9. 収集したデータの整理・分析(2)	データの分析
10. 収集したデータの整理・分析(3)	データの分析
11. 収集したデータの整理・分析(4)	データの分析
12. 収集したデータの整理・分析(5)	データの分析
13. 分析結果についての発表, 意見交換	発表資料の作成

14. 論文作成(1)	
15. 論文作成(2)	
16. 論文作成(3)	
17. 論文作成(4)	
18. 論文作成(5)	
19. 論文作成(6)	
20. 論文作成(7)	
21. 論文作成(8)	
22. 論文作成(9)	
23. 論文作成(10)	
24. グループメンバーによる論文推敲(1)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく.
25. グループメンバーによる論文推敲(2)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく.
26. 抄録の作成	抄録の作成
27. 抄録の修正	指導を受けて, 抄録を修正する.
28. 研究についての発表(1)	発表資料の作成
29. 研究についての発表(2): 発表, 意見交換	
30. まとめ	研究論文・抄録の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

グループ, あるいは個別にフィードバックを行う.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究実施・研究論文作成	80	研究計画書に基づいて研究を行うことができる. 研究論文を作成することができる.
	授業への取り組み	20	積極的・主体的に取り組むことができる.

教科書:

適宜紹介する.

参考文献等:

適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標:

研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法:

学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

	授業内容	準備学習等の内容
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。
	2. データの収集1	データを収集を進める。
	3. データの収集2	データを収集を進める。
	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。
	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。
	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。
	7. データの分析1	データの分析を進める。
	8. データの分析2	データの分析を進める。
	9. データの分析3	データの分析を進める。
	10. データの分析4	データの分析を進める。
	11. 図表の作成1	図表などを作成する。
	12. 図表の作成2	図表などを作成する。
	13. 図表の作成3	図表などを作成する。
	14. データの分析、図表の見直し	データ分析、図表などを見直す。
	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。
	16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。
	17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。
	18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。
	19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。
	20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。
	21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。
	22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。
	23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。
	24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。
	25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく。
	26. 抄録の作成2	抄録の作成
	27. 研究発表の準備1	発表資料の作成。
	28. 研究発表の準備2	発表資料の作成。
	29. 研究の発表	発表の準備。
	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。

フィードバックの方法:

教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

	評価方法	割合	評価基準
「成績評価方法」「成績評価基準」:	研究論文	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等:

適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

FLTナンバー：NUSI47-KG

授業テーマ：ウィメンズヘルスにおけるケアの発展に向けた事象の探求と、研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）。

授業の概要：ウィメンズヘルスにおけるケアの発展に向け、研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる。

到達目標：ウィメンズヘルスにおけるケアの発展に向けた事象を探求することができる。
研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法：	学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成
	2. 卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	
	3. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	
	4. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	
	5. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	
	6. 卒業研究の実施－データ整理	
	7. 卒業研究の実施－データ入力①	分析資料の作成
	8. 卒業研究の実施－データ入力②	分析資料の作成
	9. 卒業研究の実施－データ入力③	分析資料の作成
	10. 卒業研究の実施－データ分析（記述統計）①	分析資料の作成
	11. 卒業研究の実施－データ分析（統計解析）②	分析資料の作成
	12. 卒業研究の実施－データ分析（統計解析）③	分析資料の作成
	13. 卒業研究の実施－データ分析（統計解析）④	分析資料の作成
	14. 論文作成－背景の記述①	論文の作成
	15. 論文作成－背景の記述②	論文の作成
	16. 論文作成－方法の記述①	論文の作成
	17. 論文作成－方法の記述②	論文の作成
	18. 論文作成－結果の記述①	論文の作成
	19. 論文作成－結果の記述②	論文の作成
	20. 論文作成－結果の記述③	論文の作成
	21. 論文作成－考察の記述①	論文の作成
	22. 論文作成－考察の記述②	論文の作成
	23. 論文作成－考察の記述③	論文の作成
	24. 論文の推敲・修正①	論文の作成
	25. 論文の推敲・修正②	論文の作成
	26. 論文の推敲・修正③	論文の作成
	27. 抄録の作成	抄録の作成
	28. 研究についてのプレゼンテーションの準備①	発表資料の作成
	29. 研究についてのプレゼンテーションの準備②	発表資料の作成
	30. 研究についてのプレゼンテーション	

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70%	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20%	プレゼンテーションの適切性
	態度	10%	研究に取り組む積極性、主体性

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：ゼミにおける直接連絡

FLTナンバー：NUSI47-KG

授業テーマ：研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要：研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標：

1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。

2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。

3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。

4.研究成果を論文形式にまとめることができる。

5.研究について発表することができる。

6.研究についてディスカッションすることができる。

授業方法：学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究実施計画の作成	研究計画書を見直す
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集方法について復習する
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データを収集する
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データを収集する
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データを収集する
10.	卒業研究の実施－データ整理	データを準備する
11.	卒業研究の実施－データ入力	データを準備する
12.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
13.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
14.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
15.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する
16.	論文作成①	論文作成を行う
17.	論文作成②	論文作成を行う
18.	論文作成③	論文作成を行う
19.	論文作成④	論文作成を行う
20.	論文作成⑤	論文作成を行う
21.	論文作成⑥	論文作成を行う
22.	論文作成⑦	論文作成を行う
23.	論文作成⑧	論文作成を行う
24.	論文作成⑨	論文作成を行う
25.	論文作成⑩	論文作成を行う
26.	抄録の作成	抄録の構成を考える
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う
30.	研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：教室（ゼミ）でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：講義時、オフィスアワーに対応する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)																																																																
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する。																																																																
到達目標:	1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。 5. 研究について発表することができる。 6. 研究についてディスカッションすることができる。																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. データ収集に向けての準備</td><td>作成した研究計画書を熟読しておく。</td></tr><tr><td>2. データの収集1</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>3. データの収集2</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>4. データの収集、整理、入力1</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>5. データの収集、整理、入力2</td><td>データを収集を進める。</td></tr><tr><td>6. データのクリーニング、見直し</td><td>データを俯瞰する。</td></tr><tr><td>7. データの分析1</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>8. データの分析2</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>9. データの分析3</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>10. データの分析4</td><td>データの分析を進める。</td></tr><tr><td>11. 図表の作成1</td><td>図表などを作成する。</td></tr><tr><td>12. 図表の作成2</td><td>図表などを作成する。</td></tr><tr><td>13. 図表の作成3</td><td>図表などを作成する。</td></tr><tr><td>14. データの分析、図表の見直し。</td><td>データ分析、図表などを見直す。</td></tr><tr><td>15. 論文の記述に向けて</td><td>研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。</td></tr><tr><td>16. 論文作成(背景)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>17. 論文作成(方法)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>18. 論文作成(結果)1</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>19. 論文作成(結果)2</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>20. 論文作成(考察)1</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>21. 論文作成(考察)2</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>22. 論文作成(考察)3</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>24. 論文作成(見直し、印刷)</td><td>論文の作成を進める。</td></tr><tr><td>25. 抄録の作成1</td><td>研究論文の本筋部分を取り出しておく。</td></tr><tr><td>26. 抄録の作成2</td><td>抄録の作成</td></tr><tr><td>27. 研究発表の準備1</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>28. 研究発表の準備2</td><td>発表資料の作成。</td></tr><tr><td>29. 研究の発表</td><td>発表の準備。</td></tr><tr><td>30. 研究の報告と研究後の倫理について</td><td>研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。	2. データの収集1	データを収集を進める。	3. データの収集2	データを収集を進める。	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。	7. データの分析1	データの分析を進める。	8. データの分析2	データの分析を進める。	9. データの分析3	データの分析を進める。	10. データの分析4	データの分析を進める。	11. 図表の作成1	図表などを作成する。	12. 図表の作成2	図表などを作成する。	13. 図表の作成3	図表などを作成する。	14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。	16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。	17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。	18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。	19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。	20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。	21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。	22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。	23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。	24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。	25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく。	26. 抄録の作成2	抄録の作成	27. 研究発表の準備1	発表資料の作成。	28. 研究発表の準備2	発表資料の作成。	29. 研究の発表	発表の準備。	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。																																																																
2. データの収集1	データを収集を進める。																																																																
3. データの収集2	データを収集を進める。																																																																
4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。																																																																
5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。																																																																
6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。																																																																
7. データの分析1	データの分析を進める。																																																																
8. データの分析2	データの分析を進める。																																																																
9. データの分析3	データの分析を進める。																																																																
10. データの分析4	データの分析を進める。																																																																
11. 図表の作成1	図表などを作成する。																																																																
12. 図表の作成2	図表などを作成する。																																																																
13. 図表の作成3	図表などを作成する。																																																																
14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。																																																																
15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。																																																																
16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。																																																																
17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。																																																																
18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。																																																																
19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。																																																																
20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。																																																																
21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。																																																																
22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。																																																																
23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。																																																																
24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。																																																																
25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく。																																																																
26. 抄録の作成2	抄録の作成																																																																
27. 研究発表の準備1	発表資料の作成。																																																																
28. 研究発表の準備2	発表資料の作成。																																																																
29. 研究の発表	発表の準備。																																																																
30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。																																																																
フィードバックの方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																																
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>研究論文</td><td>70</td><td>研究の独自性及び論理性、計画書の形式</td></tr><tr><td>プレゼンテーション、ディスカッション</td><td>20</td><td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10</td><td>授業に取り組む積極性、主体性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																																
参考文献等:	適宜提示する。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。																																																																

FLTナンバー：NUSI47-KG

授業テーマ：研究プロセスの理解と習得（研究論文の作成と発表）

授業の概要：研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標：

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。

2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。

3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。

4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。

5. 研究を発表することができる。

6. 研究を批判的に吟味し、ディスカッションすることができる。

7. 看護を探究する姿勢を持ち、研究に積極的に取り組む

授業方法：学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成	研究実施計画の作成
2.	研究協力の依頼	依頼文書・質問紙・インタビューガイド等の準備
3.	データ収集	必要書類の印刷、物品等準備
4.	データ収集	必要書類の印刷、物品等準備
5.	データ整理・入力	データ入力票の作成
6.	データ整理・入力	データの整理
7.	データ分析—記述統計	分析資料の作成
8.	データ分析—統計解析等	分析資料の作成
9.	データ分析	分析資料の作成
10.	データ分析	分析資料の作成
11.	データ分析	分析資料の作成
12.	データ分析（まとめ）	データ分析結果のまとめ
13.	研究（中間）報告会準備	資料作成
14.	研究報告会	発表準備
15.	研究報告会	発表準備
16.	研究論文の作成—序論	論文原稿作成
17.	研究論文の作成—序論	論文原稿作成
18.	研究論文の作成—方法	論文原稿作成
19.	研究論文の作成—方法	論文原稿作成
20.	研究論文の作成—結果	論文原稿作成
21.	研究論文の作成—結果	論文原稿作成
22.	研究論文の作成—考察	論文原稿作成
23.	研究論文の作成—考察	論文原稿作成
24.	研究論文の作成—結論	論文原稿作成
25.	研究論文の作成—完成	論文原稿作成
26.	抄録作成	抄録作成
27.	抄録作成	抄録作成（修正）
28.	研究発表会準備	発表資料作成
29.	研究発表	発表準備
30.	研究発表	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス：自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していける基礎となる力を身につけましょう。

フィードバックの方法：授業中にその都度フィードバックする
個別指導については、メールを通して、または時間外に行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究計画書に沿って研究を進め、論文としてまとめることができる（目標1～4）
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	自分の考えや学習成果を授業の中でわかりやすく発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること（目標5, 6）
	態度	10	自主性および授業に臨む態度（目標7）

教科書：

参考文献等：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：メールまたはマナビーを通じて連絡する（hihashim@dwc.doshisha.ac.jp）
必要であれば研究室に来てください

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる
4.研究成果を論文形式にまとめることができる
5.研究について発表することができる
6.研究についてディスカッションすることができる

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	研究実施計画の作成	研究実施計画の概要について復習しておく
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	研究協力の依頼方法について復習する
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備をする
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備をする
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備をする
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データ収集の準備をする
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データ収集の準備をする
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データ収集の準備をする
10.	卒業研究の実施－データ整理	データ整理方法について復習しておく
11.	卒業研究の実施－データ入力	データ入力に必要な物品を準備しておく
12.	卒業研究の実施－データ分析①	データ分析方法を復習しておく
13.	卒業研究の実施－データ分析②	データ分析方法を復習しておく
14.	卒業研究の実施－データ分析③	データ分析方法を復習しておく
15.	卒業研究の実施－データ分析④	データ分析方法を復習しておく
16.	論文作成①	論文の構成について復習しておく
17.	論文作成②	論文作成を行う
18.	論文作成③	論文作成を行う
19.	論文作成④	論文作成を行う
20.	論文作成⑤	論文作成を行う
21.	論文作成⑥	論文作成を行う
22.	論文作成⑦	論文作成を行う
23.	論文作成⑧	論文作成を行う
24.	論文作成⑨	論文作成を行う
25.	論文作成⑩	論文作成を行う
26.	抄録の作成	抄録の構成について復習しておく
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備をする
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備をする
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備をする
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	10	プレゼンテーションの適切性
	授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 医学書院 系統看護学講座別巻 看護研究(著者代表 坂下玲子)※卒業研究Ⅱで購入済み

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: manabeまたはE-mailにて対応する

FLTナンバー:

NUSI47-KG

授業テーマ:

研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要:

卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

1.研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2.量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3.既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4.論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5.研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法:

グループで作成した計画書に基づいて研究を実施する。学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
	2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく
	3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する
	4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する
	5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく
	6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	
	7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	
	8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	
	9. データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく
	10. データ入力2 エクセル入力	
	11. データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく
	12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする
	14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
	16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく
	18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	
	19. 背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	20. 研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく
	21. 結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	22. 結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく
	23. 考察のための文献検討	結果を解釈するに必要な追加文献を収集し、検討しておく
	24. 考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく
	25. 考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく
	26. 考察の記述3	
	27. 全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく
	28. 抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく
	29. 研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく
	30. 研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する

受講者へのメッセージやアドバイス:

科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。

フィードバックの方法:

研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	到達目標1〜4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。

	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
教科書:	適宜、紹介する。		
参考文献等:	必要時、紹介する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	講義時又はメールにて連絡する。		

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文の研究課題の発展

授業の概要: 薬学特別研究は、Ⅳに至って最終的に博士論文を完成することを目的としている。その最終目標を達成するため、薬学特別研究Ⅱでは、中間報告会を設け、研究科所属の教員全員とともに進捗状況と将来性について質疑応答ならびに意見交換を行う。便宜上15項目を列挙したが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的である。

到達目標: 薬学特別研究Ⅱの成果が博士論文の中核となるように研究を進展させるとともに、必要となる専門的知識や技能を修得する。

授業方法: 定期的にラボミーティングを行い、実験データ、実験方法、実験条件、次の実験方針、関連する先端的研究の内容などについて討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学特別研究Ⅰの評価と方向性の確認のための討議1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
2.	テーマに関連する問題点の洗い出し、関連論文の抽出	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
3.	目標達成のための方法論の討議、仮説の再構築	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
4.	関連論文講読・発表1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
5.	関連論文講読・発表2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
6.	検証実験1と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
7.	検証実験2と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
8.	検証実験3と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
9.	データのまとめと論点整理	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
10.	中間報告会	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
11.	中間報告会の指摘事項の整理、方法論の討議	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
12.	検証実験4と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
13.	検証実験5と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
14.	検証実験6と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
15.	発表会での討議や方向性の妥当性評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: ラボミーティングや日々の研究の中で随時、研究室で対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ラボミーティング	100%	研究の背景や原理、研究手法に関する知識、実験手技の熟練度、次の実験の立案、分かりやすい研究のプレゼンテーション力から総合的に到達目標への到達度を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 研究室で随時対応。

FLTナンバー:	EDUe44-GS		
授業テーマ:	博物館学芸員としての基礎的技術の習得		
授業の概要:	今日の博物館は、学校教育のみならず生涯教育の場として、また文化の保存・伝承と研究発信の場として現代社会の中で大きな役割を果たしている。この「博物館実習」は「博物館学芸員資格」取得のための要となる授業であり博物館学芸員としての基礎的な心構えと技術を習得することを目的とする。 そうした実際の博物館での実習を行う上で必要な博物館資料の取り扱いから展示の実現まで、主として考古学・歴史学の立場を軸としつつも、地理学・民俗学・美術史など幅広い観点から、多様な実務についての基礎技術を実習し、また、さまざまな博物館のあり方を現地で学び、地域社会における博物館のあり方を総合的に学習することを目標とする。 また「博物館実習」の単位を取得するためには大学内での受講だけではなく実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」(5～14日間程度)に参加することが必要となる。		
到達目標:	博物館学芸員としての基礎的な技術を習得する。		
授業方法:	実習形式とする。教室における屋内実習、野外でおこなう屋外実習、学外の博物館を訪れる見学実習がある。実際の作業や、ディスカッション等も含めて積極的な姿勢が前提となる。また、夏期を中心として実際の博物館での「館園実習」への参加も前提となる。また受講にあたっては定められた実習費を納める必要がある。 なお、この科目は、京田辺キャンパスと今出川キャンパスの双方で開講する。それぞれのキャンパスの特性を活かして、京田辺では博物館資料の取り扱い方に重点を置き、今出川では京都市内の博物館の実地見学実習(入館料・交通費は自己負担となる)を多く取り入れることとする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス 博物館実習の心構え(両キャンパス共通)	これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておく。なお、この回は学期最初の授業であるため、欠席してはならない。
	2.	博物館の実地見学実習1(共通)	博物館の見学のマナーを考えておく。
	3.	博物館広報チラシの比較検討(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	4.	博物館資料室の見学(京田辺)/博物館の実地見学実習2(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	5.	民俗資料実習1～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	6.	民俗資料実習2～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	7.	民俗資料実習3～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	8.	考古学資料実習1～遺物の扱い方(京田辺)/博物館の実地見学実習3(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	9.	考古学資料実習2～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習1～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	10.	考古学資料実習3～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習2～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	11.	考古学資料実習4～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習3～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	12.	考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習4(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	13.	考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習5(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	14.	考古学資料実習6～拓本(京田辺)/博物館学芸員の仕事(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	15.	博物館館園実習に関する事前指導(共通)	自分が館園実習に行く博物館についてまとめておく。
	16.	博物館館園実習の個別報告1(共通)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。
	17.	博物館館園実習の個別報告2(共通)/博物館の実地見学実習6(今出川)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。
	18.	歴史地理学資料実習1～古地図資料(京田辺)/考古学資料実習4～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	19.	歴史地理学資料実習2～近代地図資料(京田辺)/考古学資料実習5～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	20.	美術資料実習1～掛軸(京田辺)/博物館の実地見学実習7(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	21.	美術資料実習2～巻物(京田辺)/美術資料実習1～掛軸・巻物(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	22.	美術資料実習3～文書(京田辺)/美術資料実習2～文書・典籍(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	23.	美術資料実習4～典籍(京田辺)/博物館の実地見学実習8(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	24.	写実実習1(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	25.	写実実習2(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	26.	展示図録1～印刷の知識(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	27.	展示図録2～図録のレイアウト(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。
	28.	展示会の構成1～展示計画の立案(共通)	展示計画を立案する。
	29.	展示会の構成2～展示計画の発表(共通)	立案した展示計画を発表できるようにしておく。
	30.	博物館実習の総括	授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	実習の各作業に積極的に参加する姿勢が求められる。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。特に、学期最初、学期末の授業は欠席してはならない。多くの博物館を自主的に見学することも必須となる。特に実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」は学外の博物館の厚意によって受け入れていただくものであるから生半可な気持ちで参加することは許されないことを肝に銘じていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ覚悟を持たない者はこの授業を受講してはならないことを強調しておく。		
フィードバックの方法:	教室内でまとめておこなう。		

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びペーパー提出	50	遅刻せずに出席し、また、指定されたペーパー等を提出したか。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
	授業への積極的参加度	30	きちんと受講し、授業への積極的に参加し、博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
	館園実習での評価	20	館園実習をきちんと受講したかどうか。

教科書:

参考文献等: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版2002年2,700円＋税)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:	EDUc44-J		
授業テーマ:	図書館サービスの実践		
授業の概要:	図書館情報学は極めて実践的な学問であり図書館サービス理論も整理技術も現実の図書館活動の中から生まれ発展してきた。さらに今日では利用者のニーズおよびメディアの多様化も相まって、図書館は大きな変容を遂げつつある。それだけに図書館への理解のためには、実務を経験し、利用者に対応することが必要である。本科目では、司書課程の集大成として、図書館の現場で図書館員の指導のもとに図書館の実態と理論を学ぶ。実習は基本的に公立図書館で行う。		
到達目標:	1【知識・理解】図書館のサービスや業務について理解し、わかりやすく説明できる。 2【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。 3【表現・技能・能力】プレゼンテーションに必要な技能や評価する力を身につける。		
授業方法:	講義・演習および実習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	イベントの企画、お話し会、展示、広報等に関する演習の準備 実習対象館の調査および提供されているデータベースの操作の確認 参考文献として挙げているビデオ教材の視聴(本学図書館に所蔵) 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 実習先の指示や課題による 資料等発表の準備 自己評価資料の準備	
	2. 事前演習		
	3. 実習の心構え		
	4. 公立図書館の現場から		
	5. 実習		
	6. 実習		
	7. 実習		
	8. 実習		
	9. 実習		
	10. 実習		
	11. 実習		
	12. 実習		
	13. 実習生による発表:実習報告		
	14. 振り返り		
	15. 評価		
受講者へのメッセージやアドバイス:	・受講者数に応じて若干の変更を加える場合がある ・免許・資格課からの連絡があるので、掲示板やメールには注意して見ておくこと		
フィードバックの方法:	授業時に口頭で行う		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習	80	実習訪問時の様子、実習ノート、実習受け入れ先からの評価から総合的に判断する
	レポート・演習	20	到達目標の1・3を中心に事前・事後講義から評価する
教科書:			
参考文献等:	日本図書館協会『図書館の達人 司書実務編2:コミュニケーション』紀伊國屋書店		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメール: mmuraki@dwc,doshisha.ac.jp		

FLTナンバー:	MDAf42-J		
授業テーマ:	情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法及び主題組織法(分類法、件名索引法)の実践演習		
授業の概要:	本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実際を演習し、理解を図る。 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログニング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。		
到達目標:	本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実際を演習し、理解を図る。 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログニング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。		
授業方法:	演習(事前に示した課題を提出する。その中から発表をし、講評や解説を行う。また、毎回、コメントペーパーの提出を求める。)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	- 科目概要の確認 - 目録法の記述、区切り記号、BIBLASについて - カード目録演習その1 - カード目録演習その2(課題提出) - 書誌ユーティリティ(講義)、和図書コピーカタログニングその1 - 和図書コピーカタログニングその2 - 和図書コピーカタログニングその3(課題提出) - 和図書オリジナルカタログニングその1 - 和図書オリジナルカタログニングその2(課題提出) - 洋図書コピーカタログニング(課題提出) - 洋図書オリジナルカタログニングその1 - 洋図書オリジナルカタログニングその2(課題提出) - 著者名典拠コントロール(課題提出) - 雑誌書誌及び所蔵データ(課題提出) - まとめ - 分類法・件名法の概略～NDCとBSHIについて - 分類法①分類規定 - 分類法②補助表 形式区分 - 分類法③補助表 地理区分 - 分類法④補助表 言語区分 - 分類法⑤各類別その1 - 分類法⑥各類別その2 - 分類法⑦各類別その3 - 分類法⑧図書記号等 - 分類法⑨総合演習 - 件名法①BSHの仕組みと特徴 - 件名法②主標目と細目付き件名 - 件名法③総合 - 目録と分類のまとめ - 分類法、件名法のまとめ		DOORS、CiNii、国立国会図書館サーチなどで、実際の資料を検索しておくこと。 春学期のまとめをしておくこと。 秋学期のまとめをしておくこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:	・USBメモリを必ず持参すること。(毎回、作成したデータを保存するため、忘れると授業を受講することができない。システムはUSBメモリーがないと保存ができない仕組みになっているため、授業を受けることができないので注意すること。) ・教科書に従って授業を行う。教科書は必ず購入のこと。 ・ほぼ毎回ホームワークの課題を出す。 ・一つ一つ積み上げの授業のため、遅刻や欠席をすると理解困難となり、新しい課題の取り組みができなくなる。 ・やむをえず欠席した場合、教科書・レジュメを基にした独習を求める。この場合も課題・レポートは必ず提出すること。		
フィードバックの方法:	コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業態度	30	演習の回答発表
	課題	30	提出率と課題の正確性
	試験	40	正答率
教科書:	北克一・村上泰子共著『資料組織演習』改訂第4版、M.B.A、2017		
参考文献等:	『日本目録規則 1987年版 改訂3版』、日本図書館協会、2003 (授業時貸出) 『日本十進分類法 第10版』、日本図書館協会、2014 (授業時貸出) 『基本件名標目表 第4版』、日本図書館協会、1999 (授業時貸出) 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織演習』、樹村房、2017 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織論』、樹村房、2016 『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会、2015		

宮沢厚雄『目録法キイノート』樹村房,2016

宮沢厚雄『分類法キイノート』樹村房,2017

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメールを利用。

FLTナンバー:

授業テーマ: 高齢者・在宅看護学領域の研究課題への取り組み

授業の概要: 看護学研究特論等で学修した知識をもとに、高齢者・在宅看護学領域の研究課題を、国内外の文献クリティークを通してを
焦点化する
研究課題を明確にするための研究デザインを検討し、研究計画書を作成する

到達目標: 1.看護学研究特論などで学修した知識をもとに、専門領域における国内外の文献を系統的に収集できる
2.文献をクリティークし、研究課題に有用な論文を集約して報告することができる
3.1.2を通して、研究課題を明確化することができる
4.研究方法を検討し、研究計画書を作成することができる
5.研究倫理を理解し、倫理的な姿勢と態度を修得できる

授業方法: 講義とゼミナール形式で行う

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

- 授業内容
1.

高齢者・在宅看護学演習ガイダンス
2.

研究課題で扱う概念と文献検討の準備について
3.

国内論文の文献検討①
4.

国内論文の文献検討②
5.

国内論文の文献検討③
6.

文献検討結果の発表、ディスカッション
7.

海外論文の文献検索
8.

海外論文の文献整理
9.

海外論文の文献検討①
10.

海外論文の文献検討②
11.

海外論文の文献検討③
12.

海外文献検討結果の発表・ディスカッション
13.

国内外の文献検討結果の発表
14.

文献レビューの作成(構成)
15.

文献レビューの作成(文章化)
16.

研究課題の明確化
17.

研究方法(デザイン)の検討①
18.

研究方法(デザイン)の検討②
19.

研究倫理の確認
20.

データ収集方法の検討
21.

データ収集方法の準備学習
22.

研究計画書の作成①
23.

研究計画書の作成②
24.

分析方法の検討
25.

分析方法の決定
26.

研究計画書の作成③
27.

研究計画書の完成
28.

倫理審査委員会の書類作成に向けて
29.

倫理審査委員会の書類作成
30.

まとめ

準備学習等の内容

興味・関心あるテーマを準備する。
これまでに行った研究について整理しておく。
キーワードを用いて検索するため、キーワードを列挙しておく。
検索した論文に目を通し、不足している場合は、再度検索する。
収集した文献を読み込み、必要な論文を選定、クリティークする。
収集した文献を読み込み、必要な論文を選定、クリティークする。
文献検討結果をまとめてプレゼンテーション準備をしておく。
キーワードを用いて検索するため、キーワードを列挙しておく。
論文のアブストラクトに目を通し、不足している場合は、再度検索する。
収集した文献を読み込み、必要な論文を選択し文献検討しておく。
研究に有用な論文は、文献カードを作成する。
海外の先行研究結果をまとめる準備をしておく。
国内外の文献検討結果をまとめるための構成を考えておく。
国内外の文献検討結果をまとめ、発表する準備をしておく。
文献レビューを執筆するために、内容を振り返る。
文献レビューを執筆するために、準備しておく。
レポート①の提出
これまでに行った文献検討結果から、研究課題を明確化する。
研究課題に沿った研究方法(デザイン)を学習しておく。
研究課題に沿った研究方法を焦点化しておく。
研究倫理について復習しておく
データ収集方法の可能性や限界について考えておく。
予定するデータ収集方法の手順や留意点を予習する。
研究計画書の構成について学習しておく。
計画書の方法までを記載しておく。
分析方法を学習しておく。統計的手法又は質的分析方法の資料を収集しておく。
選択した分析方法の資料を熟読しておく。
研究計画書の作成を進めておく。
研究計画書を執筆し、レポート②を作成する。
倫理審査委員会の手続きについて調べておく
書類作成に必要な資料を集めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 先行文献の検討を通して、研究課題を明確化し、看護の質の向上に有用な研究計画を作成しましょう

フィードバックの方法: 課題について、講義内でコメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	80	目標1、2、3、4、5の到達について評価する。
授業の参加態度、ディス カッション内容	20	目標2、3、4の到達について評価する。

教科書: 指定しない
必要時紹介する

参考文献等: 適宜、紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義時又はメールにて連絡する

FLTナンバー:

授業テーマ: ウイメンズヘルス領域における研究課題への取組み

授業の概要: ウイメンズヘルス特論ⅠⅡなどで学修した概念・理論をもとに、その実際や国内外の文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題の明確化を進める。具体的には、妊娠褥婦及び育児期の女性とその家族を対象とした健康教育の実施、ライフスタイルの実態調査や臨床での経験などにより生じた疑問から、ウイメンズヘルス領域における看護実践上の課題を見出し、その追求や課題解決の方策を研究的視点から検討する。

到達目標: 1)ウイメンズヘルス領域における看護実践上の課題について説明できる。
2)ケアの対象者やその場に応じた看護実践上の課題解決の方策を探究できる。
3)取り組むべき研究課題・研究目的を明確化できる。
4)研究目的に即した研究方法を立案できる。
5)論理的かつ倫理的配慮のある研究計画書を作成できる。

授業方法: 演習・ゼミナール形式での個人発表、12～19は臨床現場でのフィールドワーク。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 関心のあるテーマの模索	関心のあるテーマについて考える、文献クリティークの視点を確認しておく
	3. 関心のあるテーマと文献検討①	文献を検索し、文献検討の準備をする
	4. 関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく
	5. 関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく
	6. 関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく
	7. 関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく
	8. 関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく
	9. 関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく
	10. 関心のあるテーマと文献検討のまとめ	文献レビューを作成する
	11. 関心あるテーマに関するフィールドワークの計画	フィールドワーク計画書を作成する
	12. 関心あるテーマに関するフィールドワーク①	フィールドワーク計画書を作成する
	13. 関心あるテーマに関するフィールドワーク②	フィールドワーク計画書を作成する
	14. 関心あるテーマに関するフィールドワーク③	フィールドワーク計画書を作成する
	15. 関心あるテーマに関するフィールドワーク④	計画書の確認、進捗状況を確認する
	16. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑤	計画書の確認、進捗状況を確認する
	17. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑥	計画書の確認、進捗状況を確認する
	18. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑦	計画書の確認、進捗状況を確認する
	19. 関心あるテーマに関するフィールドワーク⑧	計画書の確認、進捗状況を確認する
	20. フィールドワークまとめ	報告書にまとめる
	21. 研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討、フィールドワークの総括をする
	22. 研究方法の明確化①デザイン	研究方法に関する資料の準備を行う
	23. 研究方法の明確化②対象と測定指標	研究方法に関する資料の準備を行う
	24. 研究方法の明確化③測定用具の信頼性と妥当性	研究方法に関する資料の準備を行う
	25. 研究方法の明確化④倫理的配慮	研究方法に関する資料の準備を行う
	26. 研究方法の明確化⑤データの分析方法	研究方法に関する資料の準備を行う
	27. 研究計画書の作成①背景	文献レビューを見直す
	28. 研究計画書の作成②研究方法・データ分析方法	授業27での課題を検討し、研究計画書を推敲する
	29. 研究計画書の作成③倫理的配慮・タイムスケジュール	授業28での課題を検討し、研究計画書を推敲する
	30. まとめ	授業29までの検討から、具体的な研究実施をイメージする

受講者へのメッセージやアドバイス: 本科目における学修を2年次の特別研究においてさらに発展させる。自己の研究テーマを焦点化するために多くの文献をクリティークし、ゼミにおけるディスカッションやフィールドワークを行い、研究のプロセスを進めます。

フィードバックの方法: ゼミ内で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表・討議	50	到達目標1)2)3)の達成度を評価する
	レポート	50	到達目標3)4)5)の達成度を評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: Eメールやゼミの前後に教室で対応

FLTナンバー:																																																																	
授業テーマ:	公衆衛生看護の研究課題への取り組み																																																																
授業の概要:	公衆衛生看護に関連したテーマについての文献検索を行い、自らが取り組むべき研究課題の明確化と具体的かつ論理的な研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	①文献検索等を通して公衆衛生看護における国内外の課題を説明できる ②公衆衛生看護の立場で自らが取り組むべき研究課題を明確化できる ③研究課題に即した研究目的、方法を説明できる ④具体的かつ論理的な研究計画書を作成できる																																																																
授業方法:	ゼミ形式																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>自分の研究課題について考えておく</td></tr><tr><td>2. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討①</td><td>文献を読みプレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>3. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討②</td><td>文献を読みプレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>4. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討③</td><td>文献を読みプレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>5. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討④</td><td>文献を読みプレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>6. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討⑤</td><td>文献を読みプレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>7. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討⑥</td><td>文献を読みプレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>8. 研究課題の明確化①</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>9. 研究課題の明確化②</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>10. 研究課題の明確化③</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>11. 研究課題の明確化④</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>12. 研究課題の明確化⑤</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>13. 研究課題の明確化⑥</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>14. 研究方法の明確化①</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>15. 研究方法の明確化②</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>16. 研究方法の明確化③</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>17. 研究方法の明確化④</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>18. 研究方法の明確化⑤</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>19. 研究方法の明確化⑥</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>20. 研究倫理に基づいた研究方法の検討①</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>21. 研究倫理に基づいた研究方法の検討②</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>22. 研究倫理に基づいた研究方法の検討③</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>23. 研究計画書の作成①</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>24. 研究計画書の作成②</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>25. 研究計画書の作成③</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>26. 研究計画書の作成④</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>27. 研究計画書の作成⑤</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>28. 研究計画書の作成⑥</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>29. 研究計画書の発表</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr><tr><td>30. 研究計画書の修正</td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	自分の研究課題について考えておく	2. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討①	文献を読みプレゼンテーションの準備	3. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討②	文献を読みプレゼンテーションの準備	4. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討③	文献を読みプレゼンテーションの準備	5. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討④	文献を読みプレゼンテーションの準備	6. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討⑤	文献を読みプレゼンテーションの準備	7. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討⑥	文献を読みプレゼンテーションの準備	8. 研究課題の明確化①	プレゼンテーションの準備	9. 研究課題の明確化②	プレゼンテーションの準備	10. 研究課題の明確化③	プレゼンテーションの準備	11. 研究課題の明確化④	プレゼンテーションの準備	12. 研究課題の明確化⑤	プレゼンテーションの準備	13. 研究課題の明確化⑥	プレゼンテーションの準備	14. 研究方法の明確化①	プレゼンテーションの準備	15. 研究方法の明確化②	プレゼンテーションの準備	16. 研究方法の明確化③	プレゼンテーションの準備	17. 研究方法の明確化④	プレゼンテーションの準備	18. 研究方法の明確化⑤	プレゼンテーションの準備	19. 研究方法の明確化⑥	プレゼンテーションの準備	20. 研究倫理に基づいた研究方法の検討①	プレゼンテーションの準備	21. 研究倫理に基づいた研究方法の検討②	プレゼンテーションの準備	22. 研究倫理に基づいた研究方法の検討③	プレゼンテーションの準備	23. 研究計画書の作成①	プレゼンテーションの準備	24. 研究計画書の作成②	プレゼンテーションの準備	25. 研究計画書の作成③	プレゼンテーションの準備	26. 研究計画書の作成④	プレゼンテーションの準備	27. 研究計画書の作成⑤	プレゼンテーションの準備	28. 研究計画書の作成⑥	プレゼンテーションの準備	29. 研究計画書の発表	プレゼンテーションの準備	30. 研究計画書の修正	プレゼンテーションの準備		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. オリエンテーション	自分の研究課題について考えておく																																																																
2. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討①	文献を読みプレゼンテーションの準備																																																																
3. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討②	文献を読みプレゼンテーションの準備																																																																
4. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討③	文献を読みプレゼンテーションの準備																																																																
5. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討④	文献を読みプレゼンテーションの準備																																																																
6. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討⑤	文献を読みプレゼンテーションの準備																																																																
7. 公衆衛生看護に関する課題の文献検討⑥	文献を読みプレゼンテーションの準備																																																																
8. 研究課題の明確化①	プレゼンテーションの準備																																																																
9. 研究課題の明確化②	プレゼンテーションの準備																																																																
10. 研究課題の明確化③	プレゼンテーションの準備																																																																
11. 研究課題の明確化④	プレゼンテーションの準備																																																																
12. 研究課題の明確化⑤	プレゼンテーションの準備																																																																
13. 研究課題の明確化⑥	プレゼンテーションの準備																																																																
14. 研究方法の明確化①	プレゼンテーションの準備																																																																
15. 研究方法の明確化②	プレゼンテーションの準備																																																																
16. 研究方法の明確化③	プレゼンテーションの準備																																																																
17. 研究方法の明確化④	プレゼンテーションの準備																																																																
18. 研究方法の明確化⑤	プレゼンテーションの準備																																																																
19. 研究方法の明確化⑥	プレゼンテーションの準備																																																																
20. 研究倫理に基づいた研究方法の検討①	プレゼンテーションの準備																																																																
21. 研究倫理に基づいた研究方法の検討②	プレゼンテーションの準備																																																																
22. 研究倫理に基づいた研究方法の検討③	プレゼンテーションの準備																																																																
23. 研究計画書の作成①	プレゼンテーションの準備																																																																
24. 研究計画書の作成②	プレゼンテーションの準備																																																																
25. 研究計画書の作成③	プレゼンテーションの準備																																																																
26. 研究計画書の作成④	プレゼンテーションの準備																																																																
27. 研究計画書の作成⑤	プレゼンテーションの準備																																																																
28. 研究計画書の作成⑥	プレゼンテーションの準備																																																																
29. 研究計画書の発表	プレゼンテーションの準備																																																																
30. 研究計画書の修正	プレゼンテーションの準備																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	修士論文作成のための大切なプロセスです。できるだけ多くの文献をレビューし、広く深く探究するとともに、ディスカッションに積極的に参加してください。																																																																
フィードバックの方法:	適宜助言・指導																																																																
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への参加度及びプレゼンテーション</td><td>50</td><td>授業への参加態度・意欲、プレゼンテーションの内容を評価する</td></tr><tr><td>課題レポート</td><td>50</td><td>到達目標①～④について評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への参加度及びプレゼンテーション	50	授業への参加態度・意欲、プレゼンテーションの内容を評価する	課題レポート	50	到達目標①～④について評価する																																																							
評価方法	割合	評価基準																																																															
授業への参加度及びプレゼンテーション	50	授業への参加態度・意欲、プレゼンテーションの内容を評価する																																																															
課題レポート	50	到達目標①～④について評価する																																																															
教科書:	特に指定しない																																																																
参考文献等:	適宜紹介する																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理能力																																																																
教員との連絡方法:	授業前後及びメールで適宜対応する																																																																

FLTナンバー:

授業テーマ: 高齢者看護学領域における研究課題への取り組み

授業の概要: 高齢者の健康の維持増進、回復支援、介護予防、健康長寿など高齢者ケアの様々な局面を取り上げ、その実態や文献レビュー、クリティークなどを行うことにより自らの研究課題を明らかにしていく。研究課題に取り組むための研究方法を検討し、研究計画書を作成する。

到達目標: 1.高齢者看護学領域の看護実践における研究課題を明確にする。
2.研究課題検討のための文献検索と文献レビューを行う。
3.研究課題に取り組むための研究方法を検討する。
4.研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法: 演習・ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:研究課題を明確化するために	文献検索と文献検討の準備
2.	高齢者看護学領域での研究動向と課題①	文献検索と文献検討の準備
3.	高齢者看護学領域での研究動向と課題②	文献検索と文献検討の準備
4.	高齢者看護学領域での研究動向と課題③	文献検索と文献検討の準備
5.	高齢者看護学領域での研究動向と課題④	文献検索と文献検討の準備
6.	関心ある研究課題への模索①	文献検索と文献検討の準備
7.	関心ある研究課題への模索②	文献検索と文献検討の準備
8.	関心ある研究課題に関連する文献検討①	文献検索と文献検討の準備
9.	関心ある研究課題に関連する文献検討②	文献検索と文献検討の準備
10.	関心ある研究課題に関連する文献検討③	文献検索と文献検討の準備
11.	関心ある研究課題に関連する文献検討④	文献検索と文献検討の準備
12.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑤	文献検索と文献検討の準備
13.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑥	文献検索と文献検討の準備
14.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑦	文献検索と文献検討の準備
15.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑧	文献検索と文献検討の準備
16.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑨	文献検索と文献検討の準備
17.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑩	文献検索と文献検討の準備
18.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑪まとめ	文献レビューの作成
19.	研究倫理を考える①	研究倫理に関する資料の準備
20.	研究倫理を考える②	研究倫理に関する資料の準備
21.	研究課題に取り組む研究方法の検討①	研究方法に関する資料の準備
22.	研究課題に取り組む研究方法の検討②	研究方法に関する資料の準備
23.	研究課題に取り組む研究方法の検討③	研究方法に関する資料の準備
24.	研究課題に取り組む研究方法の検討④	研究方法に関する資料の準備
25.	研究課題に取り組む研究方法の検討⑤	研究方法に関する資料の準備
26.	研究計画書の作成①	研究計画書の作成
27.	研究計画書の作成②	研究計画書の作成
28.	研究計画書の作成③	研究計画書の作成
29.	研究計画書の作成④	研究計画書の作成
30.	研究計画書の発表	プレゼンテーション資料作成

受講者へのメッセージやアドバイス: じっくり文献を読み込み、自己の研究課題を焦点化し、研究を進めましょう。

フィードバックの方法: 適宜ゼミ内で助言する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み	40	授業への参加度
	レポート	60	到達目標1～4の習得状況

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業前後に教室内で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: 高齢者看護学領域における研究課題への取り組み

授業の概要: 高齢者の健康の維持・増進や回復支援、介護予防、健康長寿など高齢者ケアの様々な局面を取り上げ、その実際や文献レビュー、クリティークなどを行うことにより自らの研究課題を明らかにしていく。研究課題に取り組むための研究方法を検討し、研究計画書を作成する。

到達目標: 1. 高齢者看護学領域の看護実践における研究課題を明確にする。
2. 研究課題検討のための文献検索と文献レビューを行う。
3. 研究課題に取り組むための研究方法を検討する。
4. 研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法: 演習・ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション: 研究課題を明確化するために	文献検索と文献検討の準備
2.	高齢者看護学領域での研究動向と課題①	文献検索と文献検討の準備
3.	高齢者看護学領域での研究動向と課題②	文献検索と文献検討の準備
4.	高齢者看護学領域での研究動向と課題③	文献検索と文献検討の準備
5.	高齢者看護学領域での研究動向と課題④	文献検索と文献検討の準備
6.	関心ある研究課題への模索①	文献検索と文献検討の準備
7.	関心ある研究課題への模索②	文献検索と文献検討の準備
8.	関心ある研究課題に関連する文献検討①	文献検索と文献検討の準備
9.	関心ある研究課題に関連する文献検討②	文献検索と文献検討の準備
10.	関心ある研究課題に関連する文献検討③	文献検索と文献検討の準備
11.	関心ある研究課題に関連する文献検討④	文献検索と文献検討の準備
12.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑤	文献検索と文献検討の準備
13.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑥	文献検索と文献検討の準備
14.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑦	文献検索と文献検討の準備
15.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑧	文献検索と文献検討の準備
16.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑨	文献検索と文献検討の準備
17.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑩	文献検索と文献検討の準備
18.	関心ある研究課題に関連する文献検討⑪まとめ	文献レビューの作成
19.	研究倫理を考える①	研究倫理に関する資料の準備
20.	研究倫理を考える②	研究倫理に関する資料の準備
21.	研究課題に取り組む研究方法の検討①	研究方法に関する資料の準備
22.	研究課題に取り組む研究方法の検討②	研究方法に関する資料の準備
23.	研究課題に取り組む研究方法の検討③	研究方法に関する資料の準備
24.	研究課題に取り組む研究方法の検討④	研究方法に関する資料の準備
25.	研究課題に取り組む研究方法の検討⑤	研究方法に関する資料の準備
26.	研究計画書の作成①	研究計画書の作成
27.	研究計画書の作成②	研究計画書の作成
28.	研究計画書の作成③	研究計画書の作成
29.	研究計画書の作成④	研究計画書の作成
30.	研究計画書の発表	プレゼンテーション資料作成

受講者へのメッセージやアドバイス: じっくり文献を読み込み、自己の研究課題を焦点化し、研究を進めましょう。

フィードバックの方法: 適宜ゼミ内で助言する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み	40	授業への参加度
	レポート	60	到達目標1～4の修得状況

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業前後に教室内で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究計画書の作成

授業の概要: 成人看護学領域における看護研究を研究疑問として捉え、その研究疑問を研究課題とする。研究課題について当該領域でも意義を明確にするために、文献検討を行い、研究における主要概念の定義を行う。さらに、研究課題の解決に向けた適切な研究方法論を検討し、研究計画書を作成する。

到達目標: 1. 自らの研究疑問を研究課題として捉えることができる。
2. 研究課題の当該領域での意義を明確にするために文献検討を行うことができる。
3. 研究で主要概念となる用語を定義し、類似概念と比較したうえで相違を説明できる。
4. 研究課題を解決するための多様な研究方法論について学習し、発表できる。
5. 発表した研究方法論の中で、研究課題解決に呈した研究方法論を根拠をもって選択できる。
6. 1～5の過程を通して、研究計画書を作成できる。

授業方法: ゼミ方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究計画書を作成するための導入1	看護研究計画書作成ステップをよく読んでおく
	2. 研究疑問から研究課題へ①	
	3. 研究疑問から研究課題へ②	
	4. 研究疑問から研究課題へ③	
	5. 研究疑問から研究課題へ④	
	6. 研究課題に関連した文献検討の発表①	
	7. 研究課題に関連した文献検討の発表②	
	8. 研究課題に関連した文献検討の発表③	
	9. 研究課題に関連した文献検討の発表④	
	10. 研究課題に関連した文献検討の発表⑤	
	11. 成人領域での研究課題の意義の発表①	
	12. 成人領域での研究課題の意義の発表②	
	13. 主要概念の定義①	
	14. 主要概念の定義②	
	15. 主要概念と類似概念の比較①	
	16. 主要概念と類似概念の比較②	
	17. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討①	
	18. 研究課題解決に向けた研究デザインの検討②	
	19. 研究課題解決に向けた研究方法論の検討①	
	20. 研究課題解決に向けた研究方法論の検討②	
	21. 研究課題解決に向けた研究方法論の検討③	
	22. 研究課題解決に向けた研究方法論の検討④	
	23. 研究課題における倫理的問題についての検討①	
	24. 研究課題における倫理的問題についての検討②	
	25. 研究計画書の作成①	
	26. 研究計画書の作成②	
	27. 研究計画書の作成③	
	28. 研究計画書の作成④	
	29. 研究計画書の作成⑤	
	30. 研究計画書の発表: リサーチミーティング	

受講者へのメッセージやアドバイス: 主体的に取り組む

フィードバックの方法: ゼミで研究計画書作成までマンツーマンで指導します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	100	目標1～6を評価します

教科書: BRINK、小玉香津子約:看護研究計画書作成の基本ステップ、日本看護協会1999年

参考文献等: 適宜紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: 個別に対応します

FLTナンバー:

授業テーマ: 看護の研究課題への取り組み

授業の概要: ウィメンズヘルス領域における特論などで学修した知識をもとに、その実際や国内外の文献を検討し、文献レビュー、クリティック、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題の明確化を進める。
特に、妊産褥婦及び育児期の女性とその家族の健康の維持増進を目指したケアのあり方を探求する。

到達目標: 文献レビュー、クリティックの方法を修得し、研究課題の焦点化ができる(看護実践を通じて抱いた疑問を文献的に整理し、課題を明らかにする)。
研究課題に関しての実際(フィールドワーク)や文献から研究動向を確認し、研究課題、研究デザイン、研究方法、研究倫理について検討でき、その結果をまとめてプレゼンテーションできる。
看護実践に寄与できる研究課題を明確に説明でき、研究課題を追求、解明するための適切な研究デザインや研究方法を研究倫理に基づいて検討できる。

授業方法: ゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	専門領域での学習をもとに関心のあるテーマを決めておく
	3. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を読み込んでおく
	4. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	5. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	6. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	7. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	8. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	9. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	10. 関心のあるテーマに関する文献検索と文献レビュー	文献検索した文献を全て読み込んでおく
	11. 文献レビューのまとめの作成(研究課題の明確化)	
	12. 文献レビューのまとめのプレゼンテーション	文献レビューとフィールドワークのまとめを作成し、発表の準備をしておく
	13. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	14. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	15. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	16. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	17. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	18. 研究課題に関する実態の全体像把握のためのフィールドワーク	
	19. 研究課題に関する実態把握のためのフィールドワーク(ナラティブアプローチ)	
	20. 研究課題に関する実態把握のためのフィールドワーク(ナラティブアプローチ)	
	21. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	22. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	23. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	24. 文献レビューとフィールドワークのまとめ(研究課題の修正と明確化)	
	25. 文献レビューとフィールドワークのまとめのプレゼンテーション	文献レビューとフィールドワークのまとめを作成し、発表の準備をしておく
	26. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	
	27. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	
	28. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	
	29. 研究課題と研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討	発表の準備をしておく
	30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(まとめ)	50	レポート(まとめ)から授業目標の到達度を評価する
	プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの明確性、適切性を評価する
	授業への参加度	20	授業に取り組む積極性、主体性を評価する

教科書:	特に指定しない
参考文献等:	適時提示する
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡 方法:	質問などは主に授業内で対応する

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要: 公衆衛生看護活動及びその関連文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題を明確化する。また、公衆衛生看護学領域の支援対象である個人・家族、集団、地域に関する研究のデザイン、方法、倫理的配慮について理解する。

到達目標: 1. 公衆衛生看護学領域における看護実践上の課題について説明できる
2. 個人・家族、集団、地域など支援対象の特性や場に応じた課題解決の方法を考えることができる
3. 自らの研究課題、研究目的を明確化できる
4. 研究目的に即した、また倫理的配慮をふまえた研究方法を考えることができる
5. 研究計画書を作成できる

授業方法: ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー①	関心のあるテーマに関する情報を収集しておく 文献レビュー、クリティークについて復習しておく
3.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー②	関心のあるテーマに関する文献を検索し、文献検討の準備をする
4.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー③	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
5.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー④	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
6.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑤	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
7.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑥	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
8.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑦	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
9.	関心のあるテーマに関する公衆衛生看護活動の実態と研究に関する文献レビュー⑧	文献を丁寧に読み、文献レビューを作成する
10.	文献レビューのまとめ(研究課題の明確化)	文献レビューとディスカッションの結果をまとめる
11.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討①	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
12.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討②	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
13.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討③	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
14.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討④	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
15.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑤	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
16.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑥	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
17.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑦	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
18.	研究倫理に基づいた研究デザイン、研究方法の検討⑧	研究方法について情報収集し、検討資料を準備しておく
19.	研究計画書の作成①	計画書の構成について復習しておく
20.	研究計画書の作成②	計画書を作成する
21.	研究計画書の作成③	計画書を作成する
22.	研究計画書の作成④	計画書を作成する
23.	研究計画書の作成⑤	計画書を作成する
24.	研究計画書の作成⑥	計画書を作成する
25.	研究計画書の作成⑦	計画書を作成する
26.	研究計画書の発表・ディスカッション	発表の準備をする
27.	研究計画書の見直し	計画書の修正課題について検討する
28.	研究計画書の見直し	計画書の修正課題について検討する
29.	研究計画書の完成	計画書の修正課題について検討する
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業内にコメントする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	50	到達目標3,4,5の達成状況
	授業への参加態度(発表内容含む)	50	到達目標1,2の達成状況

教科書: 特に指定しない

参考文献等：	適宜提示する
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力
教員との連絡 方法：	授業前後およびE-mailにて対応する

FLTナンバー:

授業テーマ: 成人慢性期看護・終末期看護研究演習

授業の概要： 成人看護学領域における看護現象を研究疑問として捉え、その研究疑問を研究課題にしてい。研究課題について当該領域での意義を明確にするために文献検討を行い、研究における主要概念の定義を行う。さらに、研究課題解決に向けた適切な研究方法論を検討する。このような過程を通して研究計画書を作成する。

到達目標：

1. 成人看護学領域における看護検証から研究課題を明確化する。
2. 研究課題に関する文献検索を行い、文献レビューを作成する。
3. 研究における主要概念を決定し、概念分析を行う。
4. 研究課題に達成するための研究方法を理解し、説明できる。
5. 研究課題に対する研究計画書を作成する。

授業方法: 受講生のプレゼンテーション

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

- | | | |
|-----|-----------------------|------------------|
| 1. | 研究計画書を作成するための導入1 | |
| 2. | 研究計画書を作成するための導入2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 3. | 研究疑問から研究課題への検討1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 4. | 研究疑問から研究課題への検討2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 5. | 研究課題に関連した文献検討の発表1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 6. | 研究課題に関連した文献検討の発表2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 7. | 研究課題に関連した文献検討の発表3 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 8. | 研究課題に関連した文献検討の発表4 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 9. | 成人看護学領域での研究課題の意義について1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 10. | 成人看護学領域での研究課題の意義について2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 11. | 主要概念の概念分析の発表1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 12. | 主要概念の概念分析の発表2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 13. | 主要概念の概念分析の発表3 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 14. | 主要概念の概念分析の発表4 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 15. | 主要概念と類似概念の比較1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 16. | 主要概念と類似概念の比較2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 17. | 主要概念と類似概念の比較3 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 18. | 主要概念と類似概念の比較4 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 19. | 研究課題解決に向けた研究デザインの検討1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 20. | 研究課題解決に向けた研究デザインの検討2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 21. | 研究課題解決に向けた研究デザインの検討3 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 22. | 研究課題解決に向けた研究デザインの検討4 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 23. | 研究課題解決に向けた研究デザインの検討5 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 24. | 研究における倫理的問題の検討1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 25. | 研究における倫理的問題の検討2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 26. | 研究計画書の作成1 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 27. | 研究計画書の作成2 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 28. | 研究計画書の作成3 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 29. | 研究計画書の作成4 | プレゼンテーション資料を作成する |
| 30. | リサーチミーティングでの発表 | プレゼンテーション資料を作成する |

受講者への 修士論文作成に向けての準備段階です。時間をかけてプロセスを踏んでください。

メッセージや
アドバイス：
フィードバックの
方法： 適宜指導・助言します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	90	到達目標1～4のプロセスと、到達目標5の遂行可能性を評価します。
	課題への取り組み	10	主体的な取り組みを評価します。

教科書: 1. Pamela J. Brink, 小玉香津子・輪湖史子監訳、看護研究計画書の基本ステップ、日本看護協会、2000

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メール 適宜面接

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期に必要な助産診断・技術に関する実践能力の修得

授業の概要: 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期助産診断技術学で習得した知識や理論を統合し、助産過程の展開や助産実践に必要な諸技能・ケアの評価方法を習得する。周産期のケア場面のシミュレーション学習や助産OSCEを通して、助産診断の統合や援助技術の習得状況进行评估し、自らの課題を明確にする。周産期に必要な助産診断・技術を修得していくプロセスにおいて、助産師に期待される役割や姿勢・態度を探求する。

到達目標: [和泉美枝／5回]
妊娠期・産褥期の問診、全身のフィジカルイグザミネーション、新生児期のフィジカルイグザミネーションなどから得られた情報のアセスメント、個別性を尊重した計画立案、実行、評価などの助産過程の展開ができる。
妊娠期や産褥期に必要な保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できる。
[植松紗代／6回]
女性の産む力をひきだす自然で安全・快適、バースプランを尊重し、根拠に基づいた分娩期のケア技術、分娩助助法、分娩促進ケアや出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のための支援方法を修得できる。
産婦や新生児の事例を用いて助産過程を展開し、分娩期に必要な助産診断のプロセスを理解すると共に対象の個別性を尊重したケア技術を修得できる。
[谷口利絵／4回]
フリースタイル出産における分娩助助技術の原理と技法が修得できる。
[越山茂代／6回]
科学的・効果的な母乳育児支援技術、母乳育児についての基本的知識、妊娠中から出産後の母乳育児支援、エモーショナル・サポートの技法を修得できる。
[大内裕美／4回]
シミュレーターを用いた演習を実施し、国際基準の新生児蘇生法の基礎知識と技術を修得できる。
[緒方あかね／2回]
事例を通して、リスクのある妊産褥婦のケアや周産期におけるメンタルヘルスへの支援方法が修得できる。
[渡邊裕也／3回]
女性を対象としたエクササイズに関する教室展開の基礎として、身体活動、有酸素運動、筋力トレーニングなどの原理と基本動作や特徴、留意点について理解できる。

授業方法: 講義・演習形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 乳房・母乳の基礎知識、母乳育児の利点(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
2. 母乳育児成功のための10ヵ条の実践とBFHの取り組み(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
3. 母乳育児支援① 早期接触、抱き方含ませ方(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
4. 母乳育児支援② エモーショナルケア(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
5. 母乳育児支援③ 問題のあるケースへの支援(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
6. 授乳中の諸問題とその支援(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく
7. 新生児の蘇生(NCPR)① 基礎(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
8. 新生児の蘇生(NCPR)② アルゴリズムと蘇生技術(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
9. 新生児の蘇生(NCPR)③ シミュレーションシナリオトレーニング(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
10. 新生児の蘇生(NCPR)④ シミュレーションシナリオトレーニング(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく
11. 妊娠期のフィジカルイグザミネーション技術(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
12. 妊娠期の健康診査:シミュレーションシナリオトレーニング(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
13. 妊娠期の保健指導:シミュレーションシナリオトレーニング(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
14. 助産OSCE: 妊娠期(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく
15. 身体活動、エクササイズの種類と特徴(渡邊)	
16. 有酸素運動の原理と基本動作、留意点(渡邊)	
17. 筋力トレーニングの原理と基本動作、留意点(渡邊)	
18. 分娩助助技術(1) 分娩進行にかかわる診断技術(内診、導尿、人工破膜等)(植松)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
19. 分娩助助技術(2) 分娩助助に伴う清潔操作(植松)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
20. 分娩助助技術(3) 分娩助助技術(会陰保護等)(植松)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
21. 分娩助助技術(4) 分娩助助技術(胎盤娩出、縫合助助等)(植松)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
22. 分娩助助技術(5) 技術試験(シミュレーション)(植松)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
23. 助産OSCE: 分娩期(植松)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
24. 産褥・新生児期の保健指導:シミュレーションシナリオトレーニング(和泉)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習をしておく
25. アクティブバースとは、メリットとデメリット(谷口)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく
26. フリースタイル分娩助助 仰臥位・側臥位・四つん這い・立位での分娩助助(谷口)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく

- | | | |
|-----|----------------------------|--|
| 27. | フリースタイル分娩介助 児の回旋と会陰保護(谷口) | 分娩期助産診断技術学の復習をしておく |
| 28. | 会陰裂傷予防(谷口) | 分娩期助産診断技術学の復習をしておく |
| 29. | 身体的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価(緒方) | 妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく |
| 30. | 心理・社会的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価(緒方) | 妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
助産OSCE	20	OSCEの評価点から評価する
授業への積極的態度	80	積極的、主体的に授業に参加しているなど態度、意欲も評価する

教科書: UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児のための10ヵ条」の実践, 医学書院
細野茂春監修, 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト第3版, メジカルビュー社

参考文献等: 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期, 医学書院
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期, 医学書院
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期, 医学書院
NCPR 新生児蘇生法テキスト 第3版 日本周産期・新生児医学会・新生児蘇生法委員会委員長細野茂春(監修)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡
方法:

質問などは主に授業内で対応する

FLTナンバー:			
授業テーマ:	高齢者・在宅看護学領域に関する看護学研究(修士論文作成)		
授業の概要:	専門領域における特定の看護課題を明確にし論文としてまとめる		
到達目標:	1.研究動向を踏まえ、専門領域における看護研究課題を明確にできる 2.研究課題に対して適切な研究方法を選定することができる 3.研究倫理に配慮した研究計画書を作成することができる 4.研究者としての自覚をもち、研究計画を遂行しデータ収集、分析ができる 5.収集したデータに基づき論文を作成することができる 6.修士論文の概要を報告することができる		
授業方法:	ゼミナール形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 1)-1研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集	
	2. 1)-2研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集	
	3. 1)-3研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の明確化	研究課題や関連する理論に関する文献収集	
	4. 2)-1先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の復習とデザインの選択	
	5. 2)-2先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の学習	
	6. 2)-3先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文をクリティークし活用できる論文を選定 研究方法の学習	
	7. 3)研究方法の決定	研究方法手順の作成	
	8. 4)-1研究計画書の作成	研究計画書を作成	
	9. 4)-2研究計画書の作成	研究計画書を修正	
	10. 5)-1倫理審査委員会申請書類の作成	研究倫理審査申請書を作成	
	11. 5)-2倫理審査委員会申請書類の作成	研究倫理審査申請書を修正し、提出	
	12. 6)-1予備データの収集と分析	予備研究データを収集し、分析 本調査に向けた課題を明確にする	
	13. 6)-2本調査データの収集と分析	研究データの収集・分析	
	14. 6)-3本調査データの収集と分析	研究データの収集・分析	
	15. 6)-4本調査データの収集と分析	不足する研究データの収集	
	16. 7)-1論文執筆(図表作成)	調査結果を図表にまとめる	
	17. 7)-2論文執筆(結果の構成)	結果を構成にそって記述	
	18. 7)-3論文執筆(結果の推敲)	結果の確認と推敲	
	19. 8)-1論文執筆(考察の構成)	考察を構成にそって記述	
	20. 8)-2論文執筆(考察)	考察執筆	
	21. 8)-3論文執筆(考察)	考察執筆	
	22. 8)-4論文執筆(考察の推敲)	考察の推敲	
	23. 9)論文執筆(結論)	結論を記述	
	24. 10)論文執筆(要約)	要約を記述	
	25. 11)論文推敲	論文の論理性、整合性を確認	
	26. 12)発表準備	プレゼンテーション資料を作成	
	27. 13)-1論文発表・ディスカッション	プレゼンテーションの準備	
	28. 13)-2論文発表・ディスカッション	プレゼンテーションの準備	
	29. 14)論文修正	質疑応答や助言を論文に反映させて修正	
	30. 15)まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	高齢者・在宅看護学領域に関する看護研究課題にじっくりと向き合い、在宅・高齢者看護学の質の向上、今後のキャリアアップにつなげましょう		
フィードバックの方法:	講義時や課題提出時に直接コメントする		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	修士論文	80	到達目標1～5の到達度により評価する
	プレゼンテーション	10	到達目標6のプレゼンテーションを評価する
	意欲・取り組み姿勢・態度	10	到達目標1～6の主体性、積極性について評価する
教科書:	適宜、紹介する		
参考文献等:	必要時、紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		

教員との連絡
方法：講義時ならびにメールにより連絡する